「横手が舞台」学部間のつながりのある、地域資源を活用した学習の単元づくり

～思いを伝え、人と関わる力の育成に注目して～

令和２年度　研究紀要　第４１集

小学部４・５・６年合同　生活単元学習
「わくわくテレビでつたえよう７」

中学部３年合同　生活単元学習
「チャレンジ we can！
～本って楽しいなＰＡＲＴ５～」

高等部３年　生活単元学習
「横手のいいとこ調べ隊②」

秋田県立横手支援学校

目 次

はじめに　校長　松井　克彦

全体研究
Ⅰ　研究の概要、実践　1

各ワークグループの実践
Ⅰ　第１グループの実践　10

Ⅱ　第２グループの実践　24

Ⅲ　第３グループの実践　47

参考資料
・資料１　「横手が舞台」学習の段階表
・資料２　単元構想図記入の手引き
・資料３　横手支援学校地域資源ＢＡＮＫ

あとがき　教頭　佐々木　誠

研究に携わった職員

令和２年度　研究紀要「第４１集」発刊

はじめに

校長　　松井　克彦

横手支援学校では、今年度から研究主題「横手が舞台」学部間のつながりのある、地域資源を活用した学習の単元づくり～思いを伝え、人と関わる力の育成に注目して～を掲げ、２か年の研究に取り組むこととしました。

新学習指導要領では、子どもたちの「生きる力」を育むために、卒業までに「育成を目指す資質・能力」を明確にし、「社会に開かれた教育課程」のもと、地域の特色を生かして学校と地域が連携・協力しながら教育活動を展開することが求められています。「横手が舞台」は、まさに「社会に開かれた教育課程」の骨太な具現であります。

小学部から高等部まで、全校で９９名の児童生徒が学ぶ本校は、新型コロナウィルス感染症拡大のコロナ禍にありましたが、学校経営の重点項目の一つに「横手が舞台」を合言葉に、地域資源を活用した学習活動の充実を目指しました。本校では、これまでも地域で本物に触れる体験を通して、地域への理解を深め、自分たちから周囲に働き掛けることで、将来、地域の一員として生活していくための力を育むことを目指してきました。横手を舞台にして、本校の「学部を貫く教育課程」の実現のため、職員一丸となって学年や学部間のつながりを意識した「地域が学びの教室」であるための地域資源の活用、年間指導計画の点検と改善に取り組みました。

昨年度から、各学部で実践している社会貢献活動や地域資源を活用した実践をまとめた「年間活動表」を作成し、「互いの学びの見える化」によって全校児童生徒、職員が互いの実践を見渡せるようにしました。このことにより、学年内の学習グループや学部内の各学年間での指導の一貫性や系統性が更に意識されることにつながると考えたからです。

「横手が舞台」のキーワードとは、

◇小学部が「ふれる」　…　楽しさを味わう、意欲をもつ

①（地域のことを）知る　②（地域について）発信する　③（地域のために）貢献する

◇中学部が「かかわる」…　相手の気持ちを知る、協働する（ともに）

①（地域のことを）知る　②（地域について）発信する　③（地域のために）貢献する

◇高等部が「高め合う」…　地域の担い手としての自覚　（肯定的な自己理解）

①（地域のことを）知る　②（地域について）発信する　③（地域のために）貢献する

学部縦割りの３ワークグループとは、

１　①（地域のことを）知る　は　**小学部２年、中学部１年、高等部３年**

２　②（地域について）発信する　は　**小学部３年、小学部４・５・６年、中学部２年、高等部２年**

３　③（地域のために）貢献する　は　**小学部１年、中学部３年、高等部１年**

本校の授業づくりの基礎・基本「横手のスタンダード」をベースにしながら、研究仮説「地域資源を活用した学習において、学部間の単元の目標の系統性や順序性、協同場面や学びの共有などを視点とした単元構想を行うことで、学校として一貫性のある、学部間のつながりのある学習が展開できるであろう」について、全校授業研究会を通し、単元構想（主な活動）、授業のねらい（育てたい力）について学部縦割りの３ワークグループで協議を重ね、各ワークグループの協議報告を１年次の研究成果とし、『「横手が舞台」学習の段階表』としてまとめることができました。

２か年のうちの１年の本研究紀要を御高覧いただき、忌憚のない御意見・御指導をいただければ幸いです。皆様からいただきました御指導を今後の取り組みに生かし、職員一丸となって一層実践に励みたいと思います。

今後とも、本校の研究に御指導・御支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

令和３年３月

全体研究

令和２年度　秋田県立横手支援学校　全校研究概要

１　研究主題

「横手が舞台」　学部間のつながりのある、地域資源を活用した学習の単元づくり
～思いを伝え、人と関わる力の育成に注目して～
（１年次／２か年）

２　研究主題設定の背景

（１）「横手が舞台」について

本校では、学校経営の基本構想の中で地域資源を活用した授業づくりと地域貢献活動の推進を重点事項の一つとして掲げている。地域資源活用、地域貢献の学習についてはこれまでも、小学部では近隣の小学校との学校間交流や地域の読書ボランティアを活用した読み聞かせなど、中学部では横手の雪まつりでのかまくらづくりや観光客へのおもてなしなど、高等部では企業と連携した作業学習や横手の発酵文化を題材にした学習などの様々な取組を積極的に行ってきた。しかし、各学部の学習内容や目標について他学部職員との共通理解は弱く、学部間の連携が生まれにくいという課題が昨年度の実施されたアンケート調査などから明らかになった。そこで本研究では地域資源を活用した学習のキーワードである「横手が舞台」を「学部間のつながりのある、地域資源を活用した学習」と捉えて、単元の目標の段階性、活動の連続性などを検討し、学校として一貫性・系統性のある教育活動の実現を目指してきた。

（２）地域資源を活用した学習について

前述したように、本校ではこれまでも様々な地域資源を活用した学習を展開してきた。本校の特色ある教育活動の一つである言語活動の充実につながる読書活動の推進においては地域の読書ボランティアや市内の図書館、横手の雪まつりへの参加では横手市観光協会、花植え交流では秋田ふるさと村、企業連携型作業学習では地域の果樹園や畜産会社などを活用してきている。また、この「横手が舞台」の学習においては、小学部では「ふれる」、中学部では「かかわる」、高等部では「高め合う」という活動におけるキーワードを設定している。これらのキーワードなどを手掛かりにしながら、本研究ではこれまでに取り組んできた学習について、その学習内容や目標を再確認し、学部間のつながりを検討することを目的とした。

かまくら雪積み

山内いものこ収穫

花植え交流

（３）「思いを伝え、人と関わる力」について

本校の学校教育目標の目指す児童生徒像として「仲良く～協調性に富み、社会性豊かな児童生徒」を設定し、社会の中で自分らしさを発揮しつつ、折り合いをつけながら社会参加する児童生徒の育成を目指している。しかし、職員による学校評価や研究部が実施したアンケートなどで児童生徒のこれらの力についての課題が挙げられた。この課題に迫るためには、基盤となる「自分の思いを適切に伝え、人と関わる力」の育成が必要である。また、本校では昨年度から、地域資源を活用した学習について可視化を目指した教育資料である「年間活動表」を作成

し、校内に掲示しているが、これについても「地域の方からの働きかけを受け入れる」（小学部）、「自分なりの関わり方で地域の方と関わる」（中学部）、「地域の方などとの適切な関わり方が分かり、自分から関わる」（高等部）と各学部で「人と関わること」についての目標を設定している。

学習指導要領に目を向けると、今回の改訂理由として、特別支援学校学習指導要領解説において「（前略）複雑で予測困難な時代の中でも、児童生徒一人一人が、社会の変化に受け身で対応するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、自らの可能性を発揮し多様な他者と協同しながら（中略）未来の作り手となることができるよう（中略）教育を通して必要な力を育んでいく。」（特別支援学校学習指導要領解説総則編（小学部・中学部）第２章第２節の２から抜粋）と積極的に人と関わり、協同する力の大切さが述べられている。

「横手が舞台」の学習においては、各学部ともに多様な人的資源を中心とする地域資源を活用し、多様な関わり方を通して学びを深めていくことが想定される。各学部のつながりを検討する視点として、この「思いを伝え、人と関わる力」を設定した。

３　研究仮説

地域資源を活用した学習において、学部間の単元の目標の系統性や順序性、協同場面や学びの共有などを視点とした単元構想を行うことで、学校として一貫性のある、学部間のつながりのある学習が展開できるであろう。

４　研究の内容と方法

（１）研究の対象とする指導の形態

研究の対象とする指導の形態は、各学部ともに今年度は生活単元学習とした。今年度作成した年間指導計画を分析した結果、生活単元学習において、単元の目標や地域資源の活用方法が具体的に計画されており、計画段階で授業意図が明確であった。このことが研究の対象とした理由の一つである。

（２）単元構想（各学習グループ）

「思いを伝え、人と関わる力」に注目した目標を設定し、単元の構想を行った。構想は「単元構想図」の作成を通して行った。単元構想図の様式については既存の様式を改訂して使用した。

（３）学部間のつながりの検討（縦割りワークグループ）

つながりを検討する際に、３学部縦割りのワークグループを編成した。ワークグループの編成や検討の際に注目したい単元については次ページの表１のとおりである。

ワークグループ検討の際に、話合いの内容を焦点化できるように、つながりを検討する視点を２点設定した。

一つ目の視点として、「思いを伝える、関わる力」を育てる視点を設定した。単元の目標の系統性や順序性、類似した活動の場合の学習内容の発展性などについて検討した。

二つ目の視点として、活動自体のつながり、他学部との学び合いの視点を設定した。他学部の児童生徒から学んだり、協力したりする協同場面の設定や他学部の学習の成果を引き継いで単元を展開する工夫などについて検討した。児童生徒が自らのキャリア形成の方向性を見通すために、他学部の学習の様子を知ることが重要であることを共通理解し、検討を行った。

表１　ワークグループ編成

	１グループ	２グループ	３グループ
キーワード	（地域のことを）知る	（地域について）発信する	（地域のために）貢献する
学年・学級	高等部３年	高等部２年	高等部１年
注目したい単元	「横手のいいとこ調べ隊②」 ● 自分たちが雪まつりでどのような貢献ができるか考える。 ● 自分たちが調べた横手のよいところを、パンフレットにすることで校外に発信する。	「プロジェクトYOKOTE①～横手の発酵食文化を知ろう～」 ● 横手市の発酵食文化を友達と分担して調べ、発表し合い、自分たちの郷土食のよさについて知り、郷土を愛する心を育む。 ● 身近な発酵食品の役割を知り、自分たちの食生活に生かすための工夫について話し合い、実践する。	「横手を大きく学ぼう～横手大学2020学校編～」 ● 自分たちが住んでいる地域について地理的な位置や特徴を知る。 ● 友達と分担して本校の歴史を調べて発表し合い、自分たちが通う学校のよさに気付き、学校を誇りに思う心を育む。
学年・学級	中学部１年	中学部２年１、２、３組	中学部３年
注目したい単元	「横手いいとこ発見隊」 ● 地域の特徴的なものを見聞きしたり、体験したり、その内容をまとめることを通して、地域への理解や郷土愛を深める。	「横手が好き～旨い物調査班」 「横手の野菜を育てよう」 「横手の野菜を育てて、みんなで食べよう」 ● 横手の伝統野菜について調べ地元の伝統野菜について知る。 ● 横手市の食文化（発酵）を知る。 （各学級の目標から抜粋）	「本って楽しいな」 ● 読み聞かせのよさを知り、楽しみながら活動する。 ● 自分や友達のよさを生かした役割分担ついて意見を出し合い練習する。 ● アンケートや感想をもとに改善点を考え、次回に生かす。 （各学級の目標から抜粋）
学年・学級	小学部２年	小学部３年、４・５・６年	小学部１年
注目したい単元	「わくわくたんけんたい」 ● 地域の自然や公共施設に関心をもち、名称や役割について知る。 ● 身近な人との関わりに関心をもち、自分からあいさつをしたり、きまりを守って一緒に活動したりする。	「きらきらばたけ」 「みんなをえがおに、わくわくテレビ！でつたえよう」 ● 植物の生長（色、形、大きさなど）に興味をもち、教師や友達と一緒に観察したり、道具を正しく使って、畑の管理や簡単な調理を行ったりする。 ● 伝えることの楽しさを味わう。 （各学級の目標から抜粋）	「おはなしだいすき」 ● 読み聞かせなどで、様々な絵本に触れ、物語の楽しさを知る。 ● 自分なりの方法で絵本の内容を伝え、友達や教師の反応を楽しむ。

※太枠、網掛け部が全校授業研究会授業提示の学年、学習グループ

（４）単元構想の見直し、授業の構想、検討（各学習グループ、学部）

ワークグループでのつながりの検討を経て、学習グループ毎に単元計画の修正、改善を行った。この改善を受けて、授業を構想した。授業の検討は授業参観、学習指導案などを基に、児童生徒の実態を普段から把握している各学部単位で行い、児童生徒の変容につながる効果的な授業づくりができるようにした。

（５）全校授業研究会（全校）

計３回実施した全校授業研究会では、ワークグループの検討内容と授業づくりとの関連を明らかにし、学部間のつながりの中での授業の位置付けを全校職員が見通すことができるようにした。協議の際は、学部間のつながりの中で授業の目標などの妥当性を評価し、単元の改善につながる協議題を設定した。また、指導助言者として各学部主事が他学部の指導助言を担当した。

（６）グループ研究のまとめ（縦割りワークグループ）

縦割りワークグループ内の全学習グループが単元を実施した後、縦割りグループでの単元づくりの成果と課題などをもとに、学部間の学習のつながりを示した「『横手が舞台』学習の段階表」の作成を行った。

（７）成果の共有（縦割りワークグループ、全校）

グループでまとめた成果や課題、学部間の学習のつながりを示した「『横手が舞台』学習の段階表」について、全校授業研究会や全校研究会において全校職員で共有した。

（８）研究計画

研究計画については表２のとおりである。

表２　令和２年度研究計画

実施時期	実　施　内　容
令和２年 ５月	・全校研究会①（研究内容の検討、意見交換） ・学部研究会①（研究内容の共通理解、実践内容の確認）
６月	・学校評議員会①（研究内容の説明と評価依頼）
７月	・職員研修会（ＩＣＴ活用） ・教育課程検討委員会（１学期の評価及び改善案検討）
８月	・ワークグループ検討会①（各単元の共有、グループ内のつながりの検討） ・全校研究会②（進捗状況と推進の方向性の確認）
９月	・ワークグループ検討会②（学部間のつながりの検討）
１０月	・全校授業研究会①（高等部授業研究と学部研究推進状況の報告）
１１月	・ワークグループ検討会③（学部間のつながりの検討） ・全校授業研究会②③（小、中学部授業研究と学部研究推進状況の報告）
１２月	・職員会議（紀要原稿作成について）
令和３年 １月	・教育課程検討委員会（研究推進の評価及び次年度への改善案の確認） ・ワークグループ検討会④（ワークグループ検討のまとめ）
２月	・全校研究会③（全校、グループ研究の成果の共有、来年度の方向性について） ・学校評議員会②（研究推進への評価） ・研究紀要の作成（研究のまとめ、校外への発信）

（９）研究組織

研究組織については図１のとおりである。

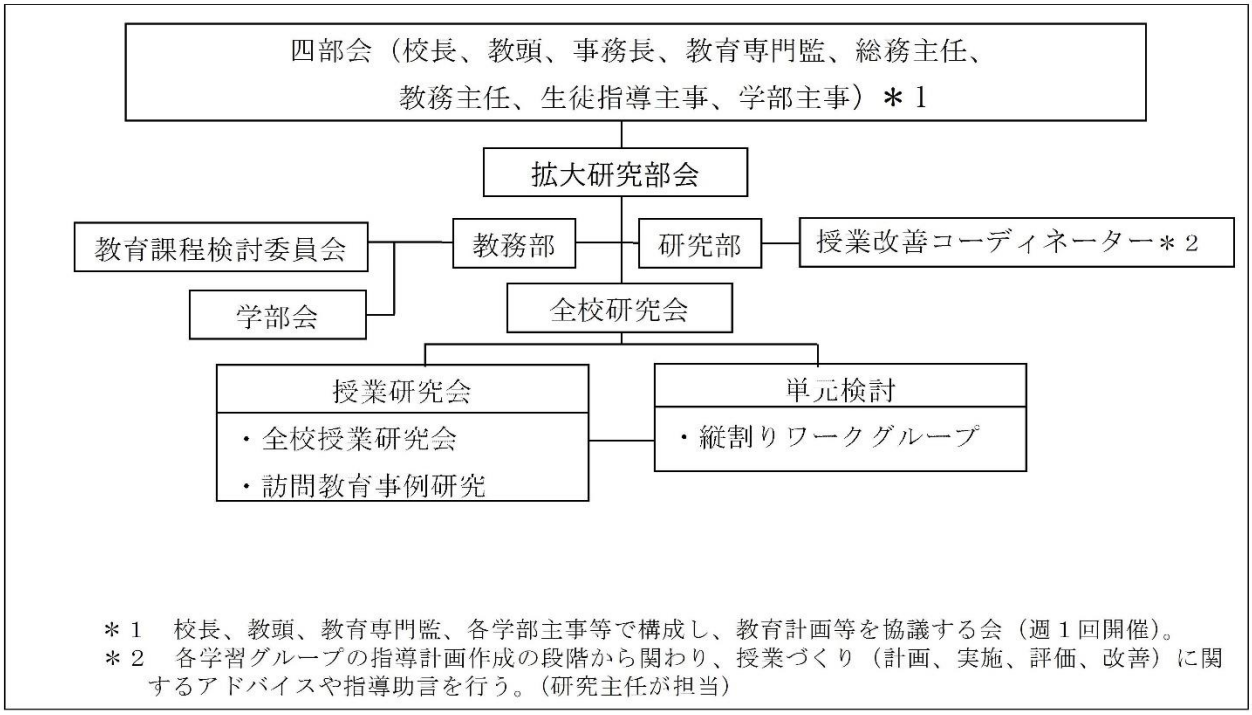


図１　研究組織図

①単元を構想する（学級）
指定の単元について、単元を構想する。
使用ツール：単元構想図

②学部間のつながりについて確認する（縦割り）
前述の視点を基につながりについて確認、必要に応じて、単元計画の修正を行う。
使用ツール：単元構想図、つながり検討シート

③単元計画を基に学習指導案を作成する（学級）
全校授業研究会の授業について、授業を構想する。
使用ツール：学習指導案

④授業検討を行う（学部）
全校授業研究会の授業について、事前検討をする。
使用ツール：学習指導案

⑤全校研究会（全校）
全校の職員で、評価、改善の協議を行う。

⑥グループ研究のまとめ（縦割り）
全学級が単元実施後、縦割りグループによる単元構想の成果、課題などをまとめる。（「横手が舞台」目標の段階表の作成など）
使用ツール：「横手が舞台」学習の段階表

⑦実践の成果を共有する（縦割り、全校）
グループでまとめた成果や課題を全校研究会で共有する。

評価計画

［ 児童生徒の変容の評価 ／ 単元構成の妥当性の評価 ］

① 児童生徒の「思いを伝え、関わる力」の目標設定
個別の指導計画や年間指導計画、単元構想図などを基に個別の単元目標を設定する。

② 児童生徒の「思いを伝え、関わる力」の変容評価
参観者から評価（付箋紙、アンケート用紙）などを参考に授業者が変容を評価する。

③ 単元構成、目標の評価
②と関連させながら、育てたい力に迫るための単元の構成や目標設定は妥当であったか評価を行う。

④ つながりのある単元の評価
他学部とのつながりの中で、単元構成の成果や課題について評価する。

⑤ 縦割りによる検討方法の評価
アンケート、学校評価などによる縦割りの単元検討方法の評価、検証。改善して次年度へつなぐ。

図２　本年度研究の流れ

5　取組の実際

（1）「横手が舞台」の学習における地域資源活用の要素

これまでの各学級、各学習グループの年間指導計画から「横手が舞台」につながる学習を抜き出し分析する作業から、地域資源活用について次のような要素が見出された。「学校の歴史や地域の特色などを多面的に知る（理解）」「人や組織同士の関わり（交流）」「人材のもつ技術や特技などの伝授や披露（活用）」「地域の行事や企業と連携し地域発展に参画する（貢献）」「学校や地域のよさや自分たちの頑張りを多くの人に伝える（発信）」の五つである。一つの単元や題材の中に様々な要素が含まれており、「横手が舞台」の学習が構成されていることに注目し、これら５つの要素を組み合わせて、「（地域のことを）知る」、「（地域について）発信する」、「（地域のために）貢献する」をキーワードにした三つのワークグループを編制し、それぞれのつながりについて検討してきた（図３）。

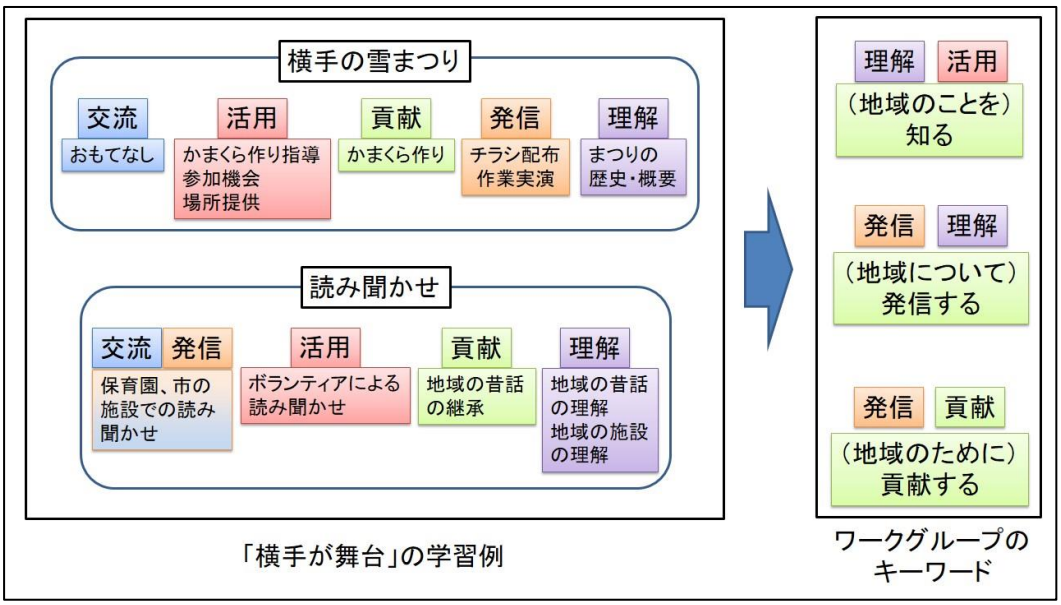


図３　地域資源活用の要素

（2）単元構想

前述したとおり、生活単元学習の地域資源を活用した「横手が舞台」の学習について、各学習グループで今年度改訂した単元構想図を使用し、単元構想を行った。この単元構想図は単元実施の目的や意義を明確にすることと、ワークグループでの検討の際の視点となる情報を整理し、話合いを円滑に進めることの二つを目的として使用した。

単元構想図の記入内容については、まずワークグループ検討で取り上げる単元（注目したい単元）について、「思いを伝え、主体的に人と関わる」力に関連する単元目標（単元を通して育てたい主たる力）を設定し、その後、目標の達成につながる項目を記入する形式とした。目標に迫るための学習活動や学び方、本単元で活用する既習の学び、本単元で活用する地域資源とその活用方法などが具体的な項目である。

単元構想図を作成する理由や各項目の記入方法などを共通理解できるように、記入の手引を作成し全職員に提示した（実際に作成した単元構想図は各ワークグループの実践の章に、記入の手引きは巻末の参考資料に掲載）。

（3）学部間のつながりの検討（縦割りワークグループによる検討会）

学部間のつながりを検討するワークグループ検討会（以下、ワークグループ検討会とする）を年間４回行った。

１、２回目は作成した単元構造図を持ち寄り、ワークグループ内の単元間のつながりについて検討を行った。検討しやすいように、所属する学習グループの単元構想図を一枚の模造紙上

に配置し（以下、つながり検討シートとする）、話し合った内容を付箋紙でシート状に貼り付けていくことで、協議の視覚化を図った。図４は実際のワークグループ検討会で使用したつながり検討シートである。

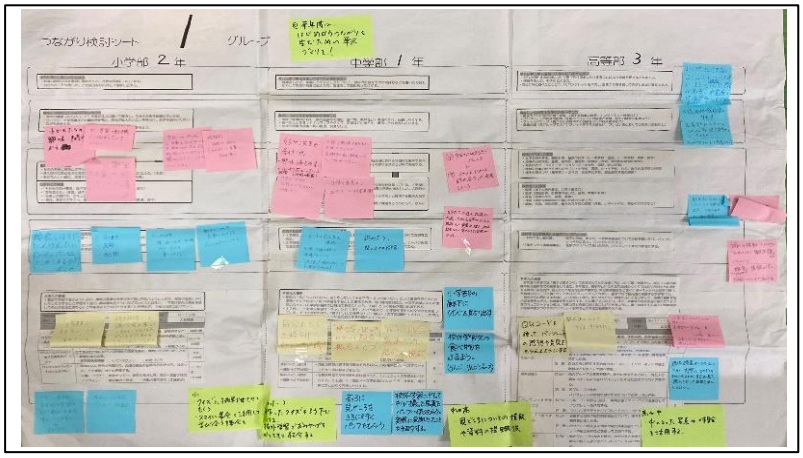


図４　第１グループのつながり検討シート

３、４回目の検討では各ワークグループのキーワードについて、所属する学習グループだけではなく、小学部、中学部、高等部を通した学校全体のつながりについて検討を行った。詳しい検討の内容については各ワークグループの実践の章で報告する。

（４）全校授業研究会

年３回実施した全校授業研究会で得られた成果や課題、研究協議の内容については、各ワークグループの実践の章で報告する。

（５）ワークグループ検討のまとめ、「『横手が舞台』学習の段階表」の作成

ワークグループ検討で話し合われた内容を基にして、「『横手が舞台』学習の段階表」を作成した（図５）。この表は、「横手が舞台」のキーワードや地域資源を活用した学習の目標、ワークグループ検討のキーワードごとの学び方や目標への迫り方などを小学部から高等部まで段階的に配列し、一覧として示したものである。この表を次年度の年間指導計画の作成や単元構想に活用していく予定である（表の拡大版は巻末の参考資料に掲載する）。

表の右側には「集団の広がり、学習の広がり」を示す図（図６）を掲載した。この図は平成３０年度、令和元年度の本校研究「様々な場面で学びを生かすことを目指した授業づくり」における「様々な場面」の捉えを示した図である。本年度のワークグループ検討において、「横手が舞台」の学習では「関わる相手や集団、場所をスモールステップで広げていくことを意識しながら、学習を進めていくこと」が大切であるということが、三つのワークグループから共通して出された。このことから「横手が舞台」の学習を進める際の大事な視点としてこの表に記載した。

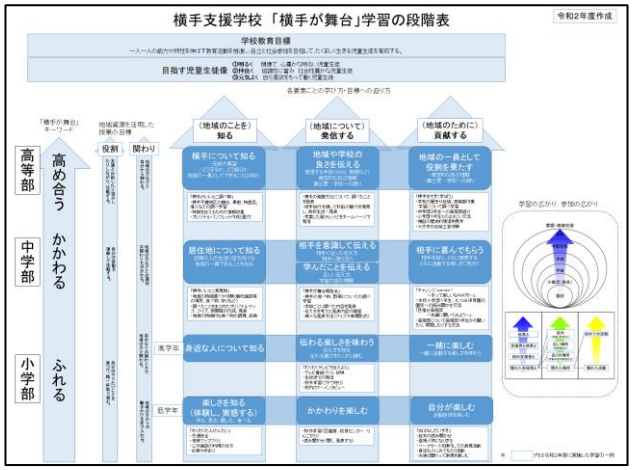


図５　「横手が舞台」学習の段階表

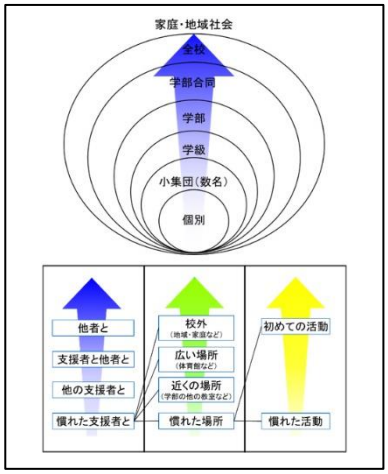


図６　集団、学習の広がり

6　成果と課題、今後の取組について

（1）「『横手が舞台』学習の段階表」の作成を通して

前述したとおり、ワークグループで行った学部間のつながりの検討の内容を集約し、「『横手が舞台』学習の段階表」を作成した。ワークグループ検討会は４回ともグループ内での検討とし、他のグループと話し合う機会を設定しなかったが、表として集約する作業を通して、それぞれのグループの中で大切だと考えている事項に他との共通点があることが見いだせた。

初めに、小学部段階「ふれる」の項目についてであるが、「伝える楽しさを味わう」、「自分が楽しむ」など、「楽しむ」ことの大切さが共通して挙げられている（図７）。小学部段階では楽しさが分かり、「知りたい」、「伝えたい」、「関わりたい」という意欲も一緒に育てていくということを、本校職員は大切にしているということができる。「ふれる」段階は「楽しさを味わう、意欲をもつ」段階であると考える。

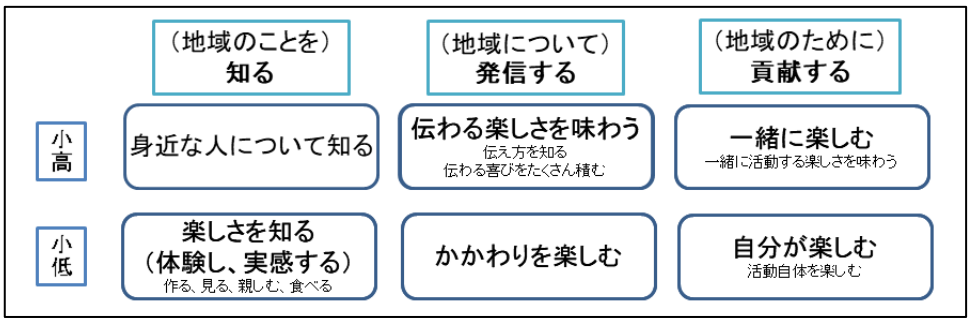


図７　「『横手が舞台』学習の段階表」の「ふれる」の項目

中学部段階「かかわる」については、「相手を意識して伝える」、「相手に喜んでもらう」など相手のことを考える、相手と行動を共にすることが大切であると挙げられている（図８）。「かかわる」段階は「相手の気持ちを知り、自分らしさを発揮しながらも、相手に合わせて協働する」段階であると考える。

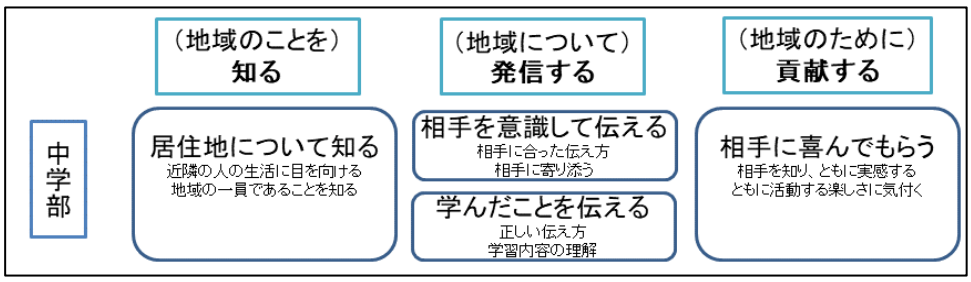


図８　「『横手が舞台』学習の段階表」の「かかわる」の項目

高等部段階「高め合う」については、自己理解の上で、地域の一員としてどうすべきか、どのように役割を果たしていくのかを考えることが大切であると挙げられている（図９）。「高め合う」段階は「肯定的な自己理解を基盤に、地域の担い手としての自覚を持つことであるということができる。

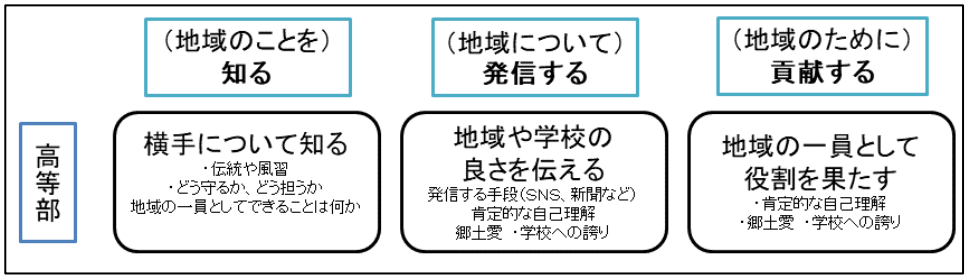


図９　「『横手が舞台』学習の段階表」の「高め合う」の項目

このように、作成を通して、本校職員が「横手が舞台」の学習を行う際に大切にしている事項についての共通点を見いだすことができた。この「『横手が舞台』学習の段階表」は来年度以降、指導計画の作成や児童生徒の目標を設定する際に活用していく予定であるが、本校職員が何度も話し合いを経て、本校の実態や特色に合わせて作成したものであるということを意識して、改訂を重ねながら、本校の特色ある教育課程作成の資料として定着させていきたいと考えている。

また、様々な実態の児童生徒がいる本校の現状において、「『横手が舞台』学習の段階表」を活用していく際に、どのように個々の児童生徒に合わせた目標設定を行い、学習を組み立てていくかという目標や学習内容の具体化についての課題が考えられる。今回、今年度行った学習の一例を記載しているが、今後、この表を活用していきながら、多様な実態の児童生徒に応じたねらいのもち方や学び方について実践例を積み重ねて、指導計画作成に反映させていきたいと考えている。

（２）ワークグループ検討会を通して

ワークグループ検討会で所属する学年や学級のつながりが検討していくことで、職員の中にお互いに気軽に交流できる相手としての意識が芽生え､積極的な交流や協働の学習が行われた。こうした学習を通して、児童生徒たちも相手の名前を覚えたり、相手を意識したりするようになり、交流場面以外でも声を掛けるなどの関わりの場面が見られた。「先輩にあこがれる」､「後輩の見本となる」という気持ちをもち、学校生活に期待感をもって主体的に生活する姿へとつなげるために、今年度のワークグループをベースに、今後も積極的な交流が行えるような教師の話し合いや指導計画立案の機会を設定していきたい。

（３）学校全体での取組、カリキュラムマネジメント

ワークグループ検討会などを経て、今年度の研究では「『横手が舞台』学習の段階表」などで目標や活動のつながりを確認し、具体的な活動についても学部間のつながりを生むことができた。しかし、職員から、ワークグループ検討会の反省として「ワークグループ検討会の開始時期が年度途中であったが、もっと早い時期に検討を行い、その内容を指導計画の作成や学習展開に反映したい」という意見が複数挙げられた。

この反省を受け、来年度は「横手が舞台」の学校、学部を貫く柱になる学習をいくつか抽出し、その学習において、年度当初に担当者間で話し合い、その結果を年間指導計画に反映するなど、早い段階での取組を行っていきたい。また、全校の学習の流れが職員、児童生徒ともに見通せるような全校の「横手が舞台」の学習の一覧表などの作成や提示にも取り組んできたい。

今年度、学校全体の取組として横手の雪まつりを題材にした学習「横燿雪まつり」を実施した。その際に「『横燿雪まつり』活動計画（全校版）」を作成し、全職員でねらいや学習内容、学習計画の共有を行った。全校のつながりが見渡せる資料の一つとして、来年度も活用していきたい。この他にもこれまでの資料や成果物を整理して、活用していきたい。

令和２年度「横燿雪まつり」活動計画（全校版）

１月２８日現在
小：照井　中：会場　高：鈴木顧

１　ねらい
（小学部）
・横手の伝統行事「かまくら」について知る。
・ミニかまくらを作ったり、かまくらのおもてなしを受けたりする活動を通して、地域行事「かまくら」に親しむ。
（中学部）
・横手の伝統行事「かまくら」について知る。
・かまくら作りに関わったり、おもてなしをしたり、ミニかまくらを作ったりすることを通して、地域の伝統行事「かまくら」に親しむ。
・観光客の方をおもてなしすることを想定した練習や、地域の人々や他学部の児童生徒と一緒に活動し交流を深めることを通して、人と関わるために大切なことを学ぶ。
（高等部）
・自分たちの住む横手地域の伝統や特色について理解を深めたり、他者に伝えたりする。
・自分たちが地域のためにできることを考え、友達と協力しながら計画を考えたり、準備をしたりする。
・地域に貢献することに喜びを感じ、自分の学校の取組をアピールする。

２　各学部の学習計画（概要）※丸数字は実施する校時、網掛けの欄は交流および校外における活動を示す。

日	付	小学部	中学部	高等部	備考
１	２５（月）		⑤・⑥おもてなし体験 （２・３年が１年をおもてなし）		
	２６（火）	③オリエンテーション（高）	③・④おもてなし練習 ※以降２／１０まで各学年・学級で練習		
	２７（水）			⑤雪まつり計画（グループ） ※小低交流（雪遊び等の企画）、２９（金）も実施	
	２８（木）		③・④かまくら制作事前学習		
２	１（月）	⑤・⑥かまくら雪積み（６年） ※中庭	⑤・⑥かまくら雪積み ※中庭１基、グラウンド３基	②～④かまくら雪積み（グループ） ※グラウンド３基	・かまくら職人派遣
	３（水）			⑤雪まつり会場準備 ※グラウンド、５（金）も実施	
	４（水）	③オリエンテーション（低） ③・④かまくら穴開け（６年） ※グラウンド・中庭	③・④かまくら穴開け ※グラウンド・中庭	③～⑥かまくら穴開け（農林班） ※グラウンド	・かまくら職人派遣
	８（月）		⑤・⑥おもてなし準備	②～④雪まつり会場準備 ※グラウンド	
	９（火）	③・④中・おもてなし（３～６年）	②～④横燿雪まつり（小高と交流） ※中庭・グラウンド		
	１０（水）			⑤雪まつりリハーサル（グループ）	
	１２（金）	③・④横燿雪まつり参加（１・２年） ※高と交流	③・④ミニかまくら制作事前	③・④横燿雪まつり（グループ） ※小低と交流	
	１５（月）	③・④ミニかまくら制作（全） ※中庭及び玄関	②～④ミニかまくら制作 ※中庭、学校周辺	②～④ミニかまくら制作 ※浪横手駅、イオン横手店、よこてイースト	記録点灯 （職員及び有志）
	１６（火）	・事後学習（各学級）	③・④事後学習		
	１７（水）			⑤グループのまとめ、発表準備	
	１９（金）			⑤横燿雪まつり発表会	

３　各学部から（連絡、周知事項、配慮点等）
（小学部）
○中学部生徒とのおもてなし交流やミニかまくら作りの活動では、実態に応じたグループ分けをすることで、お互いに関わり合いながら、楽しく活動に取り組むことができるようにする。

（高等部）
○２/１５（月）ミニかまくら制作について
・ＪＲ横手駅、よこてイースト、イオン横手店に制作。午前中、校外学習。
・横手市観光協会より、ミニかまくら制作用の梯を４０個借用。スコップについては、数が限られているため家庭及び職員に借用を依頼する。
・点灯について、当日１８時に合わせて職員及び生徒・保護者有志にて行う。ろうそくは当日に回収。撤去は後日高等部職員で行う。
○かまくら職人の派遣について
・横手市観光協会及びかまくら職員との打ち合わせを２５日からの週で実施する。高等部についてはグラウンド に３基制作する。かまくら職人の休憩場所を確保したい。
○横燿雪まつりについて
・グラウンドに照井技師がかまくら制作および活動用のスペースを除雪して確保してくださる。
・そり滑り用のコース等のアトラクションやかまくらでの写真撮影等を準備し、小学部の児童が雪まつりを楽しめる活動を実施する。

図１０　「横燿雪まつり」活動計画（全校版）

各ワークグループの実践

Ⅰ　第１グループの実践

1　グループ検討の目的、内容

第１グループ検討のキーワード：「（地域のことを）知る」

第１グループでは「横手が舞台」の学習における「（地域のことを）知る」ことについて、その連続性や段階性を検討した。「（地域のことを）知る」ということは、児童生徒の生活を取り巻く家族や近隣の人々や商店、学校の友達や教師、福祉サービスや支援者などの人的な環境や、名産物や風土、伝統的な祭りなどの地理的な環境について理解し、それを活用することを示している。ライフキャリアの観点において、児童生徒が社会の中でどのように生活し、役割を果たしていくかという「社会参加」の質を考える上で、「（地域のことを）知る」ことを広げていくことは、大切であると考える。

2　所属する学習グループの中心単元

（1）小学部２年

①　単元名

「わくわくたんけんたい」

②　単元の主な目標（育てたい力）

・生活に関わる人や事柄に関心をもち、分かったことや感じたことを相手に伝える。

③　単元の概要

校内探検では、特別教室でどんな学習をするのか、図書室の本についているシールは何のためか、職員室や事務室にいる職員がどんな仕事をしているのかなどの謎解きをした。その後の学校周辺の探検では、施設の名称やどんな人が利用しているのかを学習したり、商店や公園を利用したりした。さらには、校内探検で学習したことを発展させ、近くの果樹園でのりんご狩り、給食を調理している横手清陵学院、本を貸し出している横手図書館への校外学習を実施した。小単元ごとに分かったことを新聞にまとめたり、学部集会で発表したりした。

④　ワークグループ検討会を経ての変更、改善点

校内にも様々な経験の機会があることが分かり、高等部で栽培しているしいたけの収穫や実習で協力をいただいている果樹園での収穫体験を実施することができた。

（2）中学部１年１組

①　単元名

「横手いいとこ発見隊～増田・十文字地域～」

②　単元の主な目標（育てたい力）

・見聞きしたり体験したりしたことについて、教師や友達に自分の気持ちなどを伝え、認め合う。

③　単元の概要

本単元は、増田・十文字地域への校外学習を中心とした単元である。りんごとラーメンが好きな本学級の生徒の興味関心を活かし、体験活動としてりんご収穫体験と十文字ラーメンの実食を取り入れた。また、小学部６年生との交流会で増田・十文字地域に関するクイズや特産品の紹介を行い、学習成果の発表の機会とした。横手市に関する関心や知見を深めたり広めたりするとともに、知ったことに対して自分の意見をもち他者に伝える・認め合う姿を目指して取り組んだ。

④　ワークグループ検討会を経ての変更、改善点

伝えたいことを相手にも実際に体験してもらうことで伝わりやすくなるのではないかという意見を取り入れ、６年生との交流会において校外学習で収穫したりんごと購入した特産品のりんごジュースを試食・試飲する活動を設定した。

（３）高等部３年（全校授業研究会授業提示）

①　単元名

「横手のいいとこ調べ隊②」

②　単元の主な目標（育てたい力）

・自分たちの居住地のよいところを紹介するパンフレットを作成するための情報を集める中で、郷土のよさを知り、郷土愛を育む。

・パンフレットを作成する活動を通して自分のやることが分かり、進んで活動したり、友達と言葉を掛け合ったりしながら協力して活動したりする。

③　単元の概要

本単元は自分たちの居住する地域のよいところを書籍やインターネットなどで調べ、パンフレットとして発信する学習である。自分の居住する地域の歴史や食文化などを調べることによって、卒業後に生活の中心となる地域のことを知り郷土愛を育み、協力して情報収集する活動や完成したパンフレットを見合う活動を行っていく中で、他者との関わり方を学んでいくことを目指し取り組んだ。

④　ワークグループ検討会を経ての変更、改善点

中学部１年生が校外学習で体験してきたことや地域のことについて調べたことについて、高３生徒がインタビューしパンフレットの一つのコーナーとして掲載した。

（４）単元構想図

①　小学部２年

単元目標（単元を通して育てたい主たる力）
・地域の自然や公共施設に関心をもち、名称や役割について知る。
・分かったことや感じたことを自分なりの方法で相手に伝える。

目標達成につながる主な学習活動や学び方
・個々の課題（知りたいこと）を身近な人に聞いて解決し、名称や役割を新聞にまとめる。
・ワークシートや写真などの資料を参考に、自分が伝えたいことを見付け、具体物を用いたりしながら発表する。
・身近な人から新聞や発表を見聞きしてもらい、感想や評価をもらう。

既習の学習との関連
・ものの名称と実物とのマッチング、クイズ（国語、生単）
・身の回りにあるものに気付き、それを教師と一緒に周囲の人に伝える。（生単）
・身近な人と一緒に、決まりを守って行動する。（日常生活の指導）

他教科等との関連
・「平仮名の読み書き、絵や写真を見て言葉で伝える」（国語、通年）
・「数を数える」（算数、通年）
・「他者との関わり、コミュニケーション」（自立活動、通年）
・「挨拶、決まりやマナー、身近な人との関わり」（日常生活の指導、通年）

活用する地域資源と本単元での活用の方法
・小学部・中学部、高等部・・・校内の様々な箇所の名称や役割を知る。探検の仕方、ルールを覚える。
・地域の公共施設、給食センター、地域の小学校・・・地域の施設や学校を見学・体験し、気付いたことを新聞にまとめ学部集会で発表する。

本単元の概要
・集団で学習できるようになり、簡単な言葉や身振り等で思いを伝えようとしたり、教師や友達とやりとりしたりすることが増えてきた。興味・関心をさらに広げていくことねらい、１学期は校内の探検を通して自分の生活に関わることや身近な人とやりとりすることを学んだ。今後は地域に広げていく。

対象児童生徒	小学部２年	実施時期	６～１２月
題材　単元名	わくわくたんけんたい	時数	２６時間

単元計画表

小単元名	小単元の概要（主なねらい、学習活動・場所、学習内容、活用資源など）	実施時期、時数
わくわくたんけんたい～横手支援学校パート１～	○探検隊の進め方を知り、校内の様々な箇所の名称や役割を新聞にまとめる。 ・小・中学部校舎探検　・校内の様々な箇所や人の役割　・新聞づくり	６～７月 ８時間
わくわくたんけんたい～横手支援学校パート２～	○できるだけ自分たちで探検隊の活動を進め、質問して分かったことを新聞にまとめる。 ・高等部校舎探検　・インタビュー　・新聞づくり	９月 ３時間
わくわくたんけんたい～わたしたちの町～	○地域の人に自分から関わり、地域の施設の名称や役割を知り、分かったことを新聞にまとめ発表する。 ・公園、コンビニ、給食センター、秋田ふるさと村、旭小・吉田小交流 ・インタビュー　・学部集会で発表　・活動の振り返り（手紙作成）	７～12 月 15 時間

② 中学部１年１組

単元目標（単元を通して育てたい主たる力）
・見聞きしたり、体験したりしたことについて、自分の好きなものや気持ちなどを書いたり話したりして教師や友達に伝えたり、友達同士で認め合ったりする。

目標達成につながる主な学習活動や学び方
・地域で特徴的なもの（観光施設等の場所、食べ物、祭りなど）を調べたり、体験したりする。
・調べたことをオリジナルマップやクイズ、新聞などにまとめ、掲示したり発表したりする。
・地域の特徴的な食べ物の調理、試食を行う。

既習の学習との関連
・１学期に実施した「横手いいとこ発見隊」では、横手市の各地域における特徴的な場所や食べ物、祭りなどについて調べ、掲示物にまとめた。本単元はその学びを深める目的で実施する。

他教科等との関連
・生活単元学習の「チャレンジ１年生」では、小学部６年生と交流会を計画している。１学期に１回交流会を開き、「横手いいとこ発見クイズ」を行い学習成果の発表の機会とした。２回目の交流会でもクイズを実施したいと考えている。
・１学期に実施した校外学習は、総合的な学習の時間の「かまくら学習」と関連する場所の見学や体験を中心とした。
・２学期に実施する予定の校外学習は、職業・家庭科の職業分野と関連するものとして、りんご農家の職業体験を計画している。

活用する地域資源と本単元での活用の方法
・１学期は、横手公園やかまくら館、ふるさと村に校外学習に行き、横手地域について知見を広めた。
・２学期は、生徒の希望が高かった増田地域での体験や見学を活動の中心に据え、ラーメン好きな生徒が多いことから十文字ラーメンについても調べたり試食したりする計画である。

本単元の概要
・生徒の「ぶどうよりもりんご狩りがしたい」「十文字ラーメンが食べたい」という意見を取り入れた、増田・十文字地域への校外学習を中心とした単元である。増田地域は担任の、十文字地域は関わることが多い中学部職員の出身地であることから、生徒にとって関心が高い地域である。
・１２月に、生活単元学習の「チャレンジ１年生」という単元で、小学部６年生との交流会を計画している。その交流会の中で、「横手いいとこ発見クイズ～増田・十文字地域編～」として、この単元で学んだことをクイズにして６年生に紹介する計画を立てている。

対象児童生徒	中学部１年１組	実施時期	11 月
題材　単元名	横手いいとこ発見隊～増田・十文字地域～	時数	１４時間

単元計画表

小単元名	小単元の概要（主なねらい、学習活動・場所、学習内容、活用資源など）	実施時期、時数
横手いいとこ発見隊 ～増田・十文字地域①～	・１学期に学んだ内容についてクイズを行い、増田・十文字地域の特徴ある食べ物や場所、祭りなどについて再確認し覚える。 ・地域が発行するパンフレットやホームページ、Google マップ等を見て、校外学習に行く場所や調べる対象などについて知る。	４
横手いいとこ発見隊 ～増田・十文字地域②～	・増田地域を代表する特産物であるりんごの収穫体験や、十文字ラーメンを食べる体験などを行う。	６
横手いいとこ発見隊 ～増田・十文字地域③～	・写真等を見て校外学習を振り返ったり、りんごジュースを飲み比べたりすることを通して「増田／十文字地域のいいところ」を考え、掲示物にまとめたり発表したりする。	４

③　高等部３年（学年合同）

単元目標（単元を通して育てたい主たる力）
・自らが居住する地域について調べたり探求したりすることにより地域を愛する力を育てる。
・情報をまとめ、相手に伝える力。
・自分たちの調べたことについてパンフレットを作成し、雪まつり等を通して発信し地域に貢献する力。

目標達成につながる主な学習活動や学び方
・横手のＰＲに向けた調べ学習。（郷土資料集の参照、インターネット検索など）
・パンフレットの作成や配布（各種パンフレットの収集と参照、配布の練習と本番など）
・フィールドワーク（調べたい史跡や文化施設などへの校外学習など）
・編集会議（各グループでのパンフレット作りでの話合い、プレゼンをとおしての話合い活動など）

既習の学習との関連
・文字の読み書き、四則計算、金銭の計算（国語、算数、数学）
・地域の伝統文化、産業、食文化、農産物（社会、総合的な学習の時間）
・発表の仕方、コミュニケーション（国語、自立活動）
・情報の収集の仕方とまとめ方（国語、社会、総合的な学習の時間）
・横手の雪まつり（高等部１・２年次：生活単元学習、総合的な学習の時間）

他教科等との関連
・国語（漢字の読み書き、文章の書き方）
・数学（四則計算、計算機の使い方、金銭、物量の計測）
・社会（地域の文化、産業、農業）
・理科（植物や農産物の生育の仕組みや育て方）
・職業、家庭、特別活動、総合的な学習の時間（発表、レポート作り、電話のかけ方など）

活用する地域資源と本単元での活用の方法
・「横手市おもてなし観光課」横手の伝統、食文化、文化娯楽施設についての話を聞いたり、パンフレット作りに協力していただいたりする。
・「横手ファン通信編集部」　見学やアドバイスをいただき、パンフレット作りの参考にする。

本単元の概要
　昨年度の学習では「横手の雪まつり」であるぼんでんやかまくらについて調べ学習をし、ぼんでん唄の披露や紙芝居形式での発表をしてきた。今年度は、横手市という大きな地域のくくりではなく自分たちの居住する地域に目を向け、自分たちの身近な伝統や食文化、文化娯楽施設などをインターネットや文献等で調べ、各地域のグループで調べたことをパンフレットとして作成し、雪まつりで観光客に発信する学習を行う。
　自分たちの居住する地域について詳しく調べ、多くの人たちに発信することをとおして、地域に貢献する大切さを学んだり、地域愛を育んだりすることに繋げていきたい。また、卒業後の社会生活に役に立つようなコミュニケーション能力、判断力などを身に付けることができるように、調べ学習をする中での地域資源の活用や雪まつりでのパンフレット配布などの学習活動を取り入れる。

対象児童生徒	高等部３年	実施時期	９・１１・１２・１・２
題材　単元名	横手のいいとこ調べ隊②	時数	２６時間

単元計画表		
小単元名	小単元の概要（主なねらい、学習活動・場所、学習内容、活用資源など）	実施時期、時数
調査報告① ～稲川支援学校に伝えよう～	ねらい：これまで調査したことを、グループごとにまとめ交流の際に相手校に分かりやすいように発表する。 活　動：発表原稿や発表に使用する掲示物の作成。発表活動。	５
グループで調べよう⑤～⑦	ねらい：居住する地域の食べ物について、様々なツールを使い情報を集めまとめる。 活　動：自分たちの居住する地域の食について、インターネットや郷土資料などを使っての調べ学習。	４
編集会議①	ねらい：他のグループの発表を聞き、自分の考えをまとめて、見た人が興味のもてるようなパンフレットにするためのアドバイスをする。 活　動：各グループの発表。 パンフレットの内容や見やすさについての話合い活動。	２
パンフレットを作成しよう①	ねらい：グループで役割を分担し、編集会議でのアドバイスを生かしてパンフレットを作成する。 活　動：パソコン等を使ったパンフレットのページの作成。	３
グループで調べよう⑧～⑩	ねらい：居住する地域の観光娯楽施設について、様々なツールを使い情報を集めまとめる。 活　動：自分たちの居住する地域の観光娯楽施設について、インターネットや郷土資料などを使っての調べ学習。	４
編集会議②	ねらい：他のグループの発表を聞き、自分の考えをまとめて、見た人が興味のもてるようなパンフレットにするためのアドバイスをする。 活　動：各グループの発表。 パンフレットの内容や見やすさについての話合い活動。	２
パンフレットを作成しよう②	ねらい：グループで役割を分担し、編集会議でのアドバイスを生かしてパンフレットを作成する。 活　動：パソコン等を使ったパンフレットのページの作成。	３
パンフレットを完成させよう	ねらい：完成形をどのようなものにするか全員で話合い、これまでのアドバイスを生かしてパンフレットを完成させる。 活　動：パンフレットの完成に向けた話合い活動 パソコン等を使ったパンフレットの完成。	３

3　協議の内容

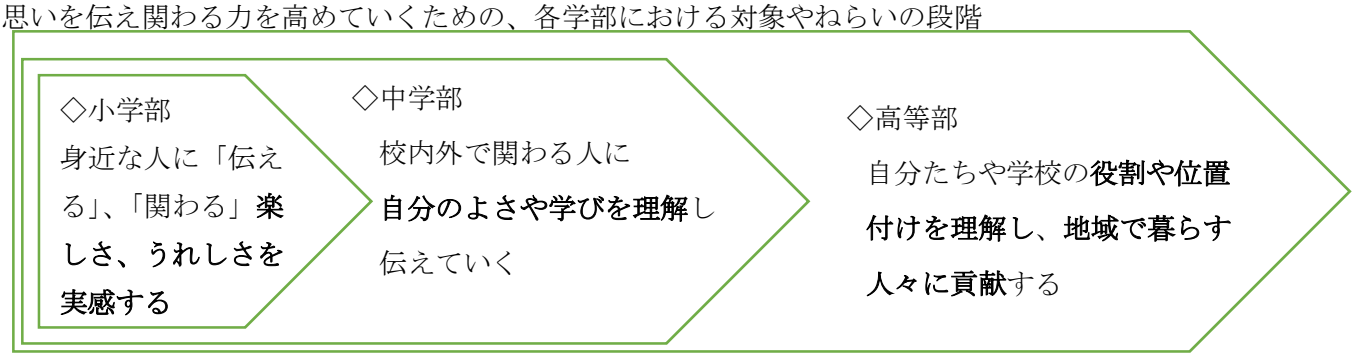
（1）思いを伝え関わる力を育てる視点

表題の件について、各学部から意見を集めた。「伝える」、「関わる」という観点から学部のつながりを考えると、その対象や範囲を広げていくことが大事ではないかという意見に集約された。

小学部段階では「友達、家族、先生など身近な人」、中学部では「校内外で関わる様々な人」、そして高等部では「地域で暮らす人々」といったステップを踏んでいくことが有効ではないかということだった。中学部段階でも地域の人を対象とする学習活動を行っているが、このような学校としてのベースを構築することが重要である。

また、「伝えること」、「関わること」のねらいにも段階をもたせたい。小学部では伝えることや関わることを楽しいこと、うれしいことであることを十分に実感、体感できるようにし、中学部では自分のよさや学びを理解し、伝えようとする視点、さらに高等部では地域における自分たちや学校の役割、位置付けなどを理解し、貢献するために学びを発信していくという視点をもつことが重要であると考える。

○思いを伝え関わる力を高めていくための、各学部における対象やねらいの段階



（2）活動自体のつながり、他学部との学び合いの視点

グループ協議でそれぞれの学部の学びを生かすための方法等を検討した。具体的に想定された内容は以下のとおりである。

- 調べた内容に関するクイズ等に他学部の生徒に挑戦してもらう。スマイル集会等の機会を活用した学び合いの機会設定をする。
- 調べた内容を廊下に掲示して感想を集める。
- 他学部の児童生徒が、居住地について調べたことを情報提供し、高等部で作成するパンフレット等に掲載する。中学部生が撮影した写真等を活用する。

以上のように、互いの学部の学びを生かした取組は想定されたが、学部を貫く共通の学習テーマの設定が必要条件として考えられる。「横手の雪まつり」等など学校全体で取り組む機会を生かして学び合いの機会を設定したい。また、年度当初からつながりを生むための単元づくりを考えることも必要であろう。年度途中からの計画は難しさがあるという意見が多く挙がっていた。

4　「(地域のことを）知る」のつながり

本グループでは「知る」内容のつながりについて検討を行った。本校における代表的な学習活動である「かまくら」を例にとると、小学部ではかまくらでのおもてなしや雰囲気が楽しいものであることを「知る」、中学部ではおもてなしの仕方やかまくらの作り方などを「知る」、高等部ではかまくらの意味や地域での位置付け等の歴史や文化を理解し、今後も伝承していくべきものとして「知る」といった発展性をもたせていることを確認した。

この学部間の発展性をもたせることで、それぞれの学部におけるねらいが整理できることに加え、交流また

は共同学習のきっかけや視点をもつことができると考える。具体的な例を挙げると、『中学部のおもてなしを小学部が楽しみ、中学部に対するあこがれをもつ』といった「かまくら」という同一の題材を用いてのつながりのある学習が展開できるということである。

○「(地域のことを）知る」の発展性のイメージ（「かまくら」を例に）

◇小学部
かまくらのおもてなしや雰囲気の**楽しさ**を知る

◇中学部
かまくらの作り方やおもてなしの仕方を知り、**身近な人をもてなす**

◇高等部
かまくらの歴史や文化を知り、**地域で伝承すべきものとして、参加したり、発信したりしようとする。**

5　全校授業研究会（高等部３年）

（1）育てたい主な力に迫るための手立てと工夫

①　成果

○自分の伝えたいことを発表する機会を増やすために、小グループでの活動にした。

○自分の役割をやり遂げたり、協力して活動したりすることができるよう、実態を考慮した役割やペアで行う役割などを設定した。

○郷土のよさを身近に感じることができるように、居住地ごとのグルーピングにした。

②　課題

●地域のことを調べるにあたってインターネットやインタビューでの情報収集活動が中心になり、体験的な活動の機会が少なかったことで、生徒が記事に対する具体的なイメージをもちにくかった。

●話合いで生徒が自分の考えをまとめ、積極的な意見交換をするための参考になるような写真の提示の仕方や、教材の大きさなどの工夫。

●生徒が自分の役割が分かり、主体的に活動することができるような教師の支援の仕方や役割分担の工夫。

③　授業改善の実際

・大きさや内容など生徒の要望を取り入れた写真等の教材を準備したことで、レイアウトの際などに自分の考えを具体的に伝えることができるようになった。

・グループ内で友達の得意なことを考えながら、友達の役割を考えて推薦する場面を設定したり、生徒の実態を考えた仕事内容を準備したりしたことで、自分の役割に責任をもち主体的に活動する姿が見られるようになった。

（2）授業者所感

パンフレットづくりを進める中で、パンフレットに掲載する地域の食べ物などを保護者と一緒に実際に食して感想をまとめたり、販売店などにインタビューをして話を聞いたりなど、多くの人と話をする機会が増え、人と関わる力の向上につながった。今後は、自分の居住する地域について調べたことを卒業後の地域での生活でどのようにして生かしていくか、また、郷土を愛する気持ちに結びつけていくことができるような学習にしていきたい。

（５）全校授業研究会における協議内容

協議題

「（地域の人や特色、文化を学ぶことをとおして）思いや伝えたいことを表現する力を育むための学習活動について、各学部段階における留意点や要点とは何か」

Ａグループ

・伝えたい気持ちをもつためには、内面への働きかけが必要になってくる。そのためには、地域にまつわる個のレベルでの興味・関心を大事にしていくことが必要となる。

・伝えるためには、経験に勝るものはない。体験・経験したことを振り返り、フィードバックして、実体験を思い起こすことが大事である。ビデオなどを活用した振り返りなどが大事で、それによって自分や友達のことを知り、認め合うことができる。

・発信する内容に対しては、小学部段階ではできるようになったことを表現する、地域の伝統芸能などを身体表現として発表するのもよいのではないか。中学部段階では、知ったことや経験したことを、相手を意識して伝えるということを大事にしたい。高等部段階では、調べたことや分かったことを発信していく段階になっていくのではないか。

・協議題に挙げられている、「思い」と「伝えたいこと」は同じではない。留意点や要点は各学部で違ってくるのではないか。自分が伝えたいことは、相手が知りたいこととは限らない。特に高等部の場合は、そのようなケースが多いのではないか。伝える、表現するということの国語での押さえも必要である。自分の言いたいことだけを伝えるのではなく、そこに学びが必要である。

Ｆグループ

・伝える目的が明確でなければならない。（今回の授業で言えば、パンフレットは誰に見せるのか、観光客が知りたい情報とは･･･など）目的がはっきりすると、相手が決まってくる。相手が決まってくると、関わってくる人も絞られてくる。それが決まってくると、手段と方法が決まってくる。

・活動は１回で終わるのではなく、体験と発表を繰り返すことで伝える力が身に付いてくる。目的や相手をはっきりさせることで、意欲を高めるきっかけ、仕掛けにする。

・ベースとして、個々の伝える実態がどの段階にあるのかを把握しておかなければならない。

Ｇグループ

・どの学部においてもまずは体験を重視すべきだが、まずは、個の課題（個別の指導計画）、興味・関心（地域の何を選び取り上げるか）等、個の実態を重要視した方がよい。

・国語科のねらい、色々な人の考えや立場を知るというところも大事にしていきたい。

・発信する相手について、先に子どもたちそれぞれが体験を重ねる、表現の方法を積み重ねることが大事で、たくさん表現をしていくことで伝える相手が変わっていったりして、最後に相手を意識した表現につながるのではないか。

高等部　第３学年　生活単元学習　学習指導案

日　時：令和２年１２月９日（水）10：25～11：15

場　所：高等部校舎　３年１組、２組教室

指導者：籠山誠　（T1）鈴木顕（T2）岩澤有希子（T3）
櫻田菜保（T4）須田裕（T5）古関綾子　（T6）
妻野聖花（T7）

１　単元名　「横手のいいとこ調べ隊②」

２　目標

(1)自分たちの居住地のよいところを紹介するパンフレットを作成するための情報を集める中で、郷土のよさを知る。知　技

(2)グループで話し合いながら、自分の気持ちや考えを伝えたり、友達の考えを受け入れたりして見た人が分かりやすいパンフレットを作成する。思判表

(3)パンフレットを作成する活動を通して自分のやることが分かり、進んで活動したり、友達と言葉を掛け合いながら協力して活動したりする。学　人

３　生徒と単元について

(1)生徒観

本学年は男子 10 人、女子 5 人の学習集団である。コミュニケーション面では、１２名が音声言語によるやりとりが可能であるが、場面やそのときの気持ちによって思いを素直に伝えることに抵抗を示したり、集団でのやり取りに苦手を意識を示したりする生徒が３名いる。２名は表出言語は少ないが、表情や態度で意思を表現できる。また、１名は、筆談やタブレット等を使って意思の疎通ができる。共通の興味をもつ友達や教師など特定の人とのコミュニケーションは活発であるが、自分の気持ちを整理して相手に分かりやすく伝えたり、相手の気持ちを考えて発言したりすることを苦手とする生徒が多い。

横手のいいとこ調べ隊①では、交流校へのビデオレターやリモート交流で自分たちの居住地について調べたことを発表した。調べたことをまとめる際の話し合いや相手に伝わりやすい発表の仕方を考えるときに、相手の意見を受け入れ相手に合わせて関わろうとしたり、話し合いや自分の役割を行いながら物事を完成させたりする学習に楽しさを感じる姿が見られるようになってきた。

(2)単元観

本単元は、学年合同の生活単元学習である。居住地ごとのグルーピングや学年全体での協同性を考慮し、学年合同として設定した。昨年度は、横手の雪まつりに合わせてかまくらやぼんでん祭りについて調べ、紙芝居形式で観光客などに発表した。今年度は、自分たちの居住する地域に焦点を絞り、食や歴史、観光施設などを調べ、交流校の生徒に向けての発表や、パンフレットを作成し雪まつりで観光客等に配付することで、地域のよさを発信する活動に取り組む。また、それらの活動を通して自分たちが生まれ育った郷土のよさを知り、ふるさとを愛する心を育むことをねらいの１つとする。

本単元の中心であるパンフレットを作成する活動は、読み手のことを考えながらレイアウトを考えたり、自分たちの伝えたいことをどのように文章やイラストで表現したりするかなど生徒が自由に考えることができる柔軟性がある。さらに、自分の居住する地域の歴史や食文化などを調べることによって、卒業後に生活の中心となる地域のことをよく知る機会になる。また、インターネットや書籍で情報収集する活動や完成したパンフレットを見合う活動を行っていく中で、郷土のよさを知ることの１つの方法になると考える。

本単元では、取材活動において家族や地域の人と地域の歴史や施設、食のことについてインタビュー等のやり取りをしたり、グループでの話合いで友達の意見を受け入れ、自分の考えを分かりやすく相手に伝えながら話し合いをしたりすることなどを通してコミュニケーション能力の高まりが期待される。また、自分たちで役割分担し、自分の役割に責任を持ち、１つの物を完成させることで、卒業後の自立や社会参加に必要な責任感や協同性を育むことにもつながると考え、本単元を設定した。

(3) 指導観

いち押しが伝わるパンフレットを作成し、作成する中で郷土のよさを知るために

・作成の参考になるように、地域の情報誌や旅行ガイドなどを提示し、いち押しを伝えるポイントとして記事の優先順位や写真の大きさ、見出しの工夫が大切だということを確認する。
・サンプルや完成品を見合い、パンフレットを見て分かった地域のよいところを発表し合う機会を設定する。

自分の気持ちや考えを伝えたり、相手の気持ちを受け入れたりしながら活動するために

・活発に意見交換ができるように、伝えたいことを整理するためのボードやプリントを準備したり、生徒の気持ちを代弁したりする。
・自分から進んで発言できる雰囲気づくりのために、よい意見が出たときには称賛する。

自分の役割に責任をもち進んで役割を果たしたり、友達と協力したりしながら活動するために

・進んで役割を果たすことができるように、生徒の身近にある食やレジャーなど興味・関心のある題材を取り上げる。
・役割を分担しやすくするために、小グループでの活動を取り入れる。

4　指導計画（総時数２０時間）

題材名・小単元名	主なねらい	活動内容	ねらいに迫るための学び方	時間
1　横手のいいとこパンフレットを作ろう	・読み手に伝えたいことが分かるパンフレットの作成の仕方を知る。知技	・教師の説明を聞き、活動の流れを知る。 ・情報誌やインターネットの情報を参考に作成のポイントである写真の大きさ、見出しの工夫を考える。	主 対	２時間
2　グループ企画会議 ～企画を立てよう①～	・居住地の紹介したいことを出し合い、記事にしたいことをグループでの話し合いで決める。思判表	・グループでパンフレットを通して伝えたい内容について話し合い、掲載する記事を決める。	対 深	１時間
3　取材活動	・必要な情報を集めるための方法を知る。知技 ・インタビューをするために、聞きたいことが相手に伝わるような質問の仕方を考える。思判表	・インターネットの使い方を教師の説明やプリントで学び、必要な情報を集める。 ・質問の仕方の例を参考に教師や他学部の児童生徒にインタビューをする。	主 対 深	２時間
4　グループ編集会議 ～レイアウトを考えてサンプルを作ろう～	・役割分担の話し合いをし協力してサンプルを作成する。知技 ・読み手に自分たちのいち押しを伝えるためには、写真の大きさや見出しの工夫が必要だということが分かる。思判表	・友達のことを考え、話し合いをし役割分担する。 ・伝えたいことを読み手が分かるようなレイアウトなどを考え、サンプルを作成する。	主 対 深	２時間 本時7/20
5　全体編集会議 ～アドバイスし合ってパンフレットを完成させよう～	・他グループのパンフレットを見ての話合いで、よいところや改善点に気付き助言する。思判表 ・完成したパンフレットを見て、自分たちや他の地域のよいところに気付き郷土を知る。	・できあがったサンプルを全員で見合い、よいところや改善点について話し合いをする。 ・アドバイスを参考に、パンフレットを完成させる。 ・パンフレットの完成品を見合い、それぞれの地域の良いところについての感想を発表する。	主 対 深	１時間 ※2～5を合計3回行う

○学びを発揮する場面（高等部）

想定する場面	具体的な活動	評価規準
・家庭や職場、施設での生活	・物事を依頼する。 ・相手からの依頼を理解する。 ・相手からの依頼を断る。 ・相手に物事を説明する。 ・必要な情報を収集する。	・分かりやすい理由を添えて、考えを伝える。（知・技） ・相手の気持ちを考えたり、相手の話していることを理解したりして会話をする。（思・判・表）（学　人） ・適切な方法で情報を集める。（知・技） ・調べた情報の正誤を判断する。（思・判・表）

５　本時の計画

(1) 本時の目標

・記事の優先順位を決める際に、自分のいち押しを発表したり、写真や見出しを参考にして意見を出し合ったりする。思判表　学　人

・読み手に自分たちのいち押しを伝えるためには、記事の優先順位や写真の大きさ、見出しの工夫が必要だということが分かる。知　技

(2) 個別の目標　※№１～７が授業提示グループの生徒

№	生徒名	本時の主たる目標（期待する具体的な学びの姿）	評価
1	A	・自分のいち押しや考えに理由をつけて発表する。 ・サンプルを作る際、グループのいち押しの写真や見出しを大きくする。	
2	B	・複数の写真から自分のいち押しの写真を選ぶ。 ・枠線に沿って写真や見出しの紙を貼り、サンプルを作成する。	
3	C	・複数の写真の中から自分のいち押しを選ぶ。 ・見出しを工夫して自分のいち押し記事を１つ作成する。	
4	D	・友達の得意な活動が分かって役割分担をし、手伝ったり、依頼をしたりしながら、友達とサンプルを完成させる。 ・いち押しを伝えるために写真の大きさや見出しの工夫が大切だということが分かる。	
5	E	・ポイントが分かって自分のいち押しを発表する。 ・サンプルの作成を通して、グループのいち押しが分かる。	
6	F	・友達の意見に対して賛成か反対の自分の考えを伝える。 ・ポイントを押さえたレイアウトのアイディアを出しながらサンプルを作る。	
7	G	・複数の見出しカードや写真から、いち押しとなる大きい写真や大きい見出しカードを選ぶ。 ・できあがったサンプルの中で、大きな写真や見出しにシールを貼る。	
8	H	・自分のいち押しを理由をつけて発表する。 ・いち押しを伝えるために必要なことに気付き、サンプルの作成にいかす。	
9	I	・友達の意見を参考にして、自分のいち押しを写真から選ぶ。 ・いち押しを伝えるために写真の大きさが大切だということが分かる。	
10	J	・自分のいち押しを発表したり、意見を求められたときに選択肢の中から選んだりして自分の意見を出す。 ・サンプルを作る際、大きい写真に注目したり、選んだりし、必要な記事の写真を並べる。	
11	K	・いくつかの記事の中から自分のいち押しを発表する。 ・グループのいち押し記事に使用する写真として大きい写真を選ぶ。	
12	L	・読み手にいち押しが伝わるパンフレット作りのポイントが分かり、友達と同じ場で活動に取り組む。 ・いち押しを伝えるために写真の大きさが大切だということが分かる。	
13	M	・自分の考えや友達の意見から、どの記事をいち押しとして強調するか理由を整理して決める。 ・インパクトのあるパンフレットを作成するために、写真や見出し、記事のバランスを考えたレイアウトを考える。	
14	N	・いち押しを伝えるための、写真の大きさや見出しの配置のアイディアを出す。 ・いち押しとなる記事を目立たせるよう、進んで目立つ写真やインパクトのある見出しのカードをレイアウトする。	
15	O	・友達の意見を手がかりに写真や見出しの意味を理解し、自分のいち押しを決める。 ・友達とのやりとりから、伝えたいことを目立たせるための写真の大きさを選ぶ。	

評価について　　○：本時の目標に迫っている　　△：支援、手立ての改善が必要である

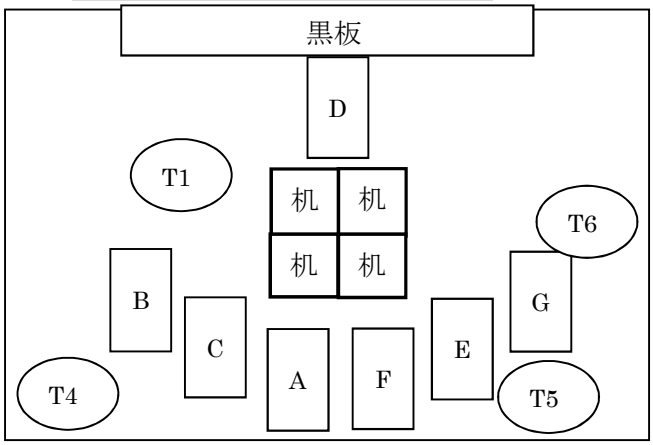
(3) 展開

段階	学習活動	指導上の手立て（○）、主・対・深に係る手立て（◇） 期待される生徒の姿（☆）	準備物
導　入 (５分)	１　今日の活動内容を知る。 （雄・平G、十文字G　３－１） （旧横手G、山内G　　３－２）	○これまで学習したことの振り返りと本時の活動内容を伝えるために、学習計画表を提示する。 ◇これまで学習したことを思い出し、意見交換しながらサンプルを作成したり、読み手に見やすいサンプルを作成したりするために、作成手順や写真の大きさを考えたり、見出しの工夫をしたりすることを確認する。 〈本時のめあて〉読み手にいち押しが伝わるサンプルを考える。	ｉＰａｄ ＴＶ 学習計画表 作成手順表
展　開 (３５分)	２　パンフレットのサンプルを作成する。	○サンプルの作成に見通しがもてるように、作成手順表を準備する。 ○様々なイメージを出し合い、組み合わせを考えながら作成することができるように、大きさの違う見出しカードや写真を準備する。 ○記事や写真を自由に配置しながら考えることができるように、ホワイトボードを準備する。	見出しカード 写真 ホワイトボード
	※提示学習グループ 「雄・平G」「十文字G」（３－１） ☆A、B、C ☆D、E、F、G （Ｔ１・Ｔ４・Ｔ５・Ｔ６） ☆：リーダー	○リーダーが中心となって役割分担や作成ができるようにＴ１がどのような役割があるか伝えたり、作成手順表の項目を指し示したりする。主 ◇話合いが深まるようにするために、いち押しの記事を選んだ理由をメモするためのプリントを準備する。主 ◇いち押しをどのように表現したらいいか考えることができるように、黒板にある「自分が読み手になって感じたこと」などの掲示を確認するように促す。 ☆メモや掲示物を参考にして自分の考えを出したり、友達の考えを受け入れたりしながら見出しカードや写真カードを操作してレイアウトを考える。 ○F が自分の意見を率直に発言できるように、指名順を固定する。 ○B、G が写真を選択することで自分のいち押しを発表することができるように、記事に関連した写真を複数提示する。主（Ｔ４・Ｔ６）	いち押しプリント バインダー
	「旧横手G」「山内G」（３－２） ☆H、I、J、K、L ☆M、N、O （Ｔ２・Ｔ３・Ｔ７） ☆：リーダー	○リーダーが中心となって役割分担や作成ができるようにＴ３がどのような役割があるか伝えたり、作成手順表の項目を指し示したりする。主 ◇話合いが深まるようにするために、いち押しの記事を選んだ理由を準備する。主 ◇いち押しをどのように表現したらいいか考えることができるように、黒板にある「自分が読み手になって感じたこと」などの掲示を確認するように促す。 ☆メモを参考にして自分の考えを出したり、友達の考えを受け入れたりしながら見出しカードや写真カードを操作してレイアウトを考える。 ○J、K、O が話合いで発表できるように教師が考えを聞き取って代弁したり、ボード上で見出しカー	

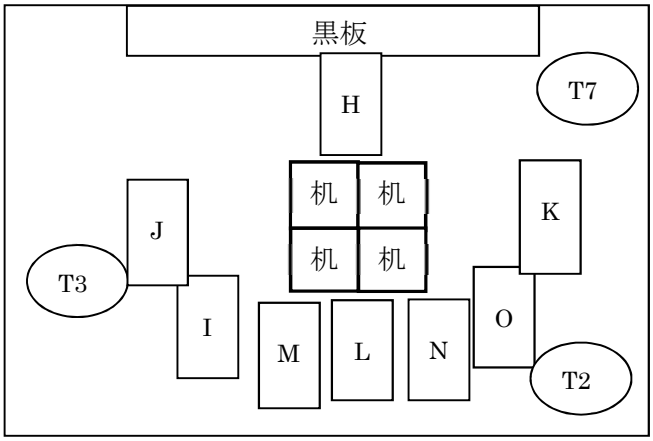
		ドや写真カードを一緒に動かしたりする。（Ｔ２・Ｔ３・Ｔ７）	
	３　作成したサンプルを交換してもう一つのグループのいち押しだと思うところに、いち押しシールを貼る。	○相手のグループのサンプルを見ていち押しを考えるときのヒントとなるように、掲示物を使って写真の大きさや見出しの工夫が大切なことを確認する。主	
まとめ（１０分）	４　本時の学習を振り返る。	○もう一つのグループに貼ってもらったいち押しシールを示し、自分たちのいち押しが伝わった時には称賛したり、相手に伝わった理由を発問したりする。主 ○次時は、本時のサンプルやアドバイスを元にそれぞれのグループでパンフレットを完成させることを伝える。	シール

(4)配置図や板書計画

３－１教室　※提示学習グループ



３－２教室



板書計画

(5)評価の観点

生徒	・自分たちのいち押しを伝えるために写真の大きさや見出しの工夫をすることが必要だと分かり、意見を出したり協力したりしながらサンプルを作成することができたか。
教師	・生徒が自分たちのいち押しを考えながらサンプルを作成したり、意見を出し合って作成するための手立てや教材の提示は適切であったか。

Ⅱ　第２グループの実践

1　グループ検討のキーワードについて

第２グループ検討のキーワード：「（地域について）発信する」

第２グループでは「横手が舞台」の学習における「（地域について）発信する」ことについて、その連続性や段階性を検討した。「（地域について）発信する」とは、児童生徒が地域のことを自ら学び、身に付けた知識や感じた思いなどを、多様な集団の広がりの中で発信していくことである。関わる集団は身近な人から不特定多数へ、伝える内容は自分自身のことから郷土への誇りなどへと段階的な広がりを意識しながら学習を展開することが大切であると考える。また、このキーワードは本研究における育てたい力である「思いを伝え、人と関わる力」と直接、関わるものである。ワークグループによる検討だけではなく、全校授業研究会などでもこの力に関する協議題を設定し検討を重ねてきた。

2　所属する学習グループの中心単元

（１）小学部３年

①　単元名

「きらきらばたけ～さんないのいものこ～」

②　単元の主な目標（育てたい力）

・植物の生長（色、形、大きさなど）に興味をもち、教師や友達と一緒に観察し、変化に気付く。

・道具を正しく使って畑の管理や簡単な調理を行い、周囲の人に自分の気持ちを伝えようとする。

③　単元の概要

山内の里芋の苗を育て、生長の観察、畑の管理、里芋の収穫、簡単調理などを行う。里芋は、葉の生長が見て分かりやすく、変化に気付き興味・関心をもちやすい。また、今までの経験を生かして水やりや収穫などの活動を取り入れることで、「やりたい」という意欲を引き出し、「できた」という達成感や満足感を得ることができる。さらに、小単元ごとに気付いたことを自分なりの方法で表現したり、周囲に伝えようとしたりすることで、相手に伝わる喜びや楽しさを味わい、経験を積み重ねることができると考えた。

④　ワークグループ検討会を経ての変更、改善点

・２年生と合同で芋の子汁の調理を計画した。個々の役割を明確にして、新たな経験を積み重ねた。

・芋の子汁を十分に味わい、身近な人（教師、友達、家族など）への発信や関わりの場を増やした。

（２）小学部４，５，６年（全校授業研究会授業提示）

①　単元名

「みんなをえがおに、わくわくテレビでつたえよう！⑦～ドラマ　ねずみのすもう～」

②　単元の主な目標（育てたい力）

・自分の配役に恥ずかしがらずに挑戦しようとしたり、少し難しい役割を果たそうとしたりする。
・自分の配役や台詞等が分かり、気持ちを込めてはっきり話したり、大きく動いたりする。
・自分や友達の演技や役割について、よくできたところや、よりよくするためのポイントが分かる。

③　単元の概要

ドラマの撮影を通し、お互いの演技や収録の様子を見あうことで、語彙が増え、意味の理解も深まると共に、物語の展開や背景を理解する力を高めることができる。また、ドラマの配役を分担しあうことで、少し恥ずかしい配役や台詞、衣装、リアクションにも勇気を出して挑戦するなど、自分の感情をコントロールする経験を積み重ねられる。また、友達の収録を静かに見守る活動では、場の空気を読んで行動するなど、社会参加に必要な力を学ぶことができる。これらの経験を積みながらみんなでドラマを作り上げることで、大きな達成感を味わい、自己肯定感が高まると考える。

④　ワークグループ検討会を経ての変更、改善点

・単元振り返りの学習で、個々の「よくできたところ」と「ざんねんだったところ」をそれぞれイラストにして掲示し、どちらかを選んで友達の演技を評価する活動から、「映画祭」のように、友達のよくできたところをメダルに書いて表彰式で友達にそのメダルを授与する活動に変更した。それにより、より意欲をもって評価の活動に取り組む姿を引き出すことができた。

（３）中学部２年１組

①　単元名

「横手が好き～横手旨いもの調査班～」

②　単元の主な目標（育てたい力）

・身近なことに興味をもって探求し、情報をまとめたり進んで活用したりして生活の質を向上させる力。

③　単元の概要

生徒の興味関心のもと、横手の「食」に焦点を絞り、情報誌等やインターネットを使って集めた情報を使って見学を行う。具体的な見学先としては以下のとおりである。

①新山食品加工場（「横手の雪まつり」でふるまう甘酒の製法などについての学習）

②七兵衛（横手やきそばの歴史や作り方についての学習）

見学で得た知識や経験をまとめ、周りの人に発信する。具体的な学習内容は以下の通りである。

・学習のまとめを写真コラージュ形式にして模造紙にまとめて掲示する。

・お世話になった見学先の方々にお礼状を書く。
・学年合同で行う発表会で、他のクラスの友達に向けたプレゼンテーションを行う。
・かまくらに人を招いておもてなしする際に、上記単元の学習で得た知識や経験を活用して、相手との会話を展開する。

上記の活動をすべて「発信」と捉え、総合的な学習の時間とリンクしながら進める。

④　ワークグループ検討会を経ての変更、改善点
・コロナ禍における校外学習計画の検討や調整。
・コロナ禍における甘酒や横手焼きそばの調理学習に関する注意点の確認。
・単元構想に盛り込む学習活動の分量や内容についての検討（内容の精選）

（４）中学部２年２組

①　単元名
「横手の野菜を育てよう①②」

②　単元の主な目標（育てたい力）
・あきた伝統野菜の栽培や調理を通して、地元の農業文化や食文化を知る。
・伝統食に直接触れ、郷土の良さや特色への考えや感想をもつ。

③　単元の概要
自分たちが決めた野菜の栽培や収穫、保存、調理に年間を通じて取り組むことで、横手市の伝統や文化を学ぶ。題材の一つでもある、伝統野菜新処なすと長なすの違いを見比べた気付きや、作物の成長記録を壁面での発表や発表会を通じて発信する。仲間と一緒に、互いの得意なことを生かして役割を分担し、協力しながら活動することで、学級としての達成感や「もっと知りたい」「もっとやりたい」という意欲を育んでいきたい。

④　ワークグループ検討会を経ての変更、改善点
・２年生は「横手が舞台」と同一の単元名で各学級が異なる学習を展開しているため、「横手が舞台！発表会」と題し、学年合同の発表会を設定した。学んだことを分かりやすく伝えるために、実践から気付いたことを整理したり、要点をクイズなどで分かりやすく伝えたりした。

（５）中学部２年３組

①　単元名
「横手の野菜を育てて、みんなで食べよう」

②　単元の主な目標（育てたい力）
・友達と協力したり、自分の役割に積極的に取り組んだりしながら、栽培や収穫などをする。

③　単元の概要
横手市の伝統野菜や自分たちで育てたい野菜を栽培し、収穫した野菜を使って調理をする。また、伝統野菜の特徴を調べ、新聞にまとめたり、日々の成長記録を記入したりする。栽培から収穫、調理、成長記録など様々な活動を友達と役割分担をして、自分の役割に責任をもって

取り組んだり、友達に任せたりしながら、一つの目的に向かって全員で活動する良さを味わえるようにしたい。

④　ワークグループ検討会を経ての変更、改善点

・学年の中でお互いの学習内容を発表し合う場面を設定した。また、発表会に向けて、調べたことを相手に分かりやすく伝えるためのポイントを自分たちで考える学習機会を設けた。

・自分の役割に責任をもって最後まで取り組めるように、役割を固定した。

（６）高等部２年

①　単元名

プロジェクト YOKOTE②～横手の発酵食文化を伝えよう～

②　単元の主な目標（育てたい力）

プロジェクト YOKOTE①で調べ、まとめたことをもとに、発酵食のよさを伝えるために自分たちができることを考え、実践する。

③　単元の概要

１学期に、横手に発酵食文化があることを知り、興味をもった発酵食について、グループに分かれて調べ他のグループの友達に発表し合う活動をした。プロジェクト YOKOTE②では、この学習をもとに、発酵食についてもっとたくさんの人にアピールし、自分たちの住んでいる横手市のよさを伝えていくための方法を友達と考えたり、実践したりし、友達同士で学び合う姿を育てたいと考えた。実践した内容は、以下のとおりである。

・横手市で開催した種苗交換会のイベント「発酵×カワイイ」お菓子コンテストに出品するレシピをグループごとに考え、出品する。

・横耀祭のステージ発表の内容を発酵食についてグループごとに調べた内容を基に作成する。ステージ発表を保護者や他学年の友達に見てもらうことで、発酵食の「よさ」や「おいしさ」を伝える。

・修学旅行で「小玉醸造株式会社」を見学し、実際に発酵食が作られている現場を見て、１学期に自分たちが調べたことの学びを深める。

・県南４校交流会で発表し、他の地域の友達に自分たちが調べたこと、見学したことを伝える。

④　ワークグループ検討会を経ての変更、改善点

・伝える相手を意識した「伝え方」の検討

・新型コロナウィルスの感染対策をしながらの校外学習の検討、実施

・調理学習については、感染のリスクを考え、実施しないことにした。

（７）単元構想図

①　小学部３年

単元目標（単元を通して育てたい主たる力）
・植物の生長（色、形、大きさなど）に興味をもち、教師や友達と一緒に観察したり、道具を正しく使って、畑の管理や簡単な調理を行ったりする。

目標達成につながる主な学習活動や学び方
・毎月畑の観察をして、里芋の生長の変化を見たり触れたりし、里芋の生長について気付いたことを写真と簡単な文でまとめ、教室に掲示する。
・毎朝決まった時間帯に、じょうろやバケツを準備したり、自分で持ったりして水やりをする。

既習の学習との関連
・昨年度、サツマイモを植えて、畑にみんなで見に行くことや、芋ほりをして身近な人（家族、先生、友達）にプレゼントする活動を行っている。
●道具の名前と道具の一致、葉の数や形などを算数的な学習活動など。

他教科等との関連
・日常生活の指導…朝の活動の中に水やりを位置付け、係の一つとして一連の流れで行う。
・国語…「はなしてみよういろんなことば」「もののなまえをあわせよう」
・算数…「１から１０までのかず」「わけてみよう」「どんないろ、どんなかたち」

活用する地域資源と本単元での活用の方法
・家族…里芋の生長や児童の頑張りについて、学年通信や連絡帳で伝え、家庭での話題につながるようにする。
・転校した友達…畑での活動（水やり、収穫）や簡単調理の様子などをビデオ撮影し、自分たちの頑張りをビデオレターで伝える。

本単元の概要
　畑で山内の里芋を育て、生長の変化の観察、畑の管理、簡単調理などを行う。里芋は、葉の生長が目で見て分かりやすく、変化に気付き興味・関心をもつことができる。また、昨年の経験を生かして里芋の水やりや収穫などの活動ができることで、自分から「やってみたい」という気持ちが生まれたり、自分で「できた」という達成感や満足感を得ることができると考え、本単元を設定した。

対象児童生徒	小学部３年	実施時期	６～１０月
題材　単元名	きらきらばたけ～さんないのいものこ～	時数	１０時間

単元計画表

小単元名	小単元の概要（主なねらい、学習活動・場所、学習内容、活用資源など）	実施時期、時数
「さんないのいものこをそだてよう」	○本の読み聞かせを通して、畑に植える苗の種類を知り、畑の学習に興味をもつ。 ・里芋の本の読み聞かせ　・山内の里芋の苗　・種芋の苗の植え付け	1
「いものこのおせわをしよう」	○里芋の葉を近くで見たり触れたりして、葉の生長に気付き周囲に伝えたり、じょうろを使って進んで水やりをしたりする。 ・里芋の観察　・畑の水やり　・追肥　・土寄せ　・畑の除草	4
「いものこをしゅうかくしてみんなでたべよう」	○里芋の形や量に興味をもって収穫し、身近な人に里芋をプレゼントしたり、教師や友達と一緒に簡単調理をして試食したりする。 ・里芋の収穫　・里芋の袋詰め、プレゼント　・里芋の簡単調理、試食	4
「はっけんいっぱいきらきらばたけ」	○里芋の栽培を通して、気付いたことや楽しかったことを自分なりの方法で表現して伝える。 ・「きらきらばたけ」壁面制作　・「きらきらばたけ」振り返り	1

② 小学部４，５，６年

単元目標（単元を通して育てたい主たる力）
・ドラマの制作を通して、自分の配役に恥ずかしがらずに挑戦しようとしたり、少し難しい役割を果たそうとしたりする。
・自分の配役や台詞、動きが分かり、伝わるように気持ちを込めてはっきり話したり、大きく動いたりする。
・自分や友達の演技や役割について、よくできたところや、よりよくするためのポイントが分かる。

目標達成につながる主な学習活動や学び方
・番組の見本ビデオ（教師演示）、めくり式台本、収録するカットの一覧表等の提示。→番組全体、担当場面（台詞）、撮影の見通し［状況を見通す力］
・友達の撮影場面を見る活動。→友達への関心［適切な自他評価の力］、順番を待つ［感情をコントロールする力］［状況を見通す力］
・1，2，3 年生に番組を見てもらい、視聴の様子をビデオで見たり、感想を聞いたりする。→［適切な自他評価の力］
・多様な伝え方（指文字、手話、得点表、実物）を取り入れる。→［分かりやすく伝える力］
・撮影したカットをその場で動画を見ながら即時評価する→［的確な自他評価の力］
・単元のまとめで、友達のよかったところの記入、発表。→［的確な自他評価の力］［分かりやすく伝える力］

既習の学習との関連
・４，５年生：一昨年度、昨年度の生活単元学習「わくわくパーティー（通年単元）」
・６年生：昨年度の生活単元学習「ありがとうの会（通年単元）」
□他学年の友達や、先生、地域の人とのを深めながら、会を進める中で役割を果たすこと、ゲームの中で順番や決まりを守ること、友達との折り合い、数える、道具の使い方等を学んだ。

他教科等との関連
・国語：「きこう、はなそう」等、通年　・算数：「かぞえよう」等、通年
・音楽：「がっきをえんそうしよう」等、通年　・体育：「ボール運動」3月、「体つくり運動」4月
・生活単元学習：「つくってみよう」通年
・特別活動：「委員会活動」「学部集会」通年、「読書集会～英語の絵本～」６月、１１月

活用する地域資源と本単元での活用の方法
・ドラマ制作を通して、地域の食べ物（横手焼きそば、幼虫チョコ、サクランボ、ブドウ、山内いものこ、リンゴ）、地域の名所（横手城、ふるさと村、浅舞公園のあやめ）、地域の伝統行事（かまくら、ミニかまくら）等を取り上げる。
・交流及び交流学習（旭小学校、吉田小学校、居住地校交流）の際に、番組を視聴してもらう。

本単元の概要
テレビ番組制作単元の第７弾で２回目のドラマ制作となる。台詞が簡潔な日本昔話風オリジナルストーリーで、横手を舞台に名産・名所を取り上げた。ドラマ制作の活動は、児童の実態や興味関心に合わせた役割が盛り込めるとともに、VTR を使った即時評価や制作後の振り返りを行うことができる。また、台詞を練習し、お互いの様子を見合うことで、語彙が増え、意味の理解が深まったり、物語の展開や背景を理解したりする学習にもつながる。友達と一緒に制作に取り組むことで、社会参加に必要な感情の統制や、環境の把握などの力も身に付けることができると考え本単元を設定した。

対象児童生徒	小学部４，５，６年	実施時期	１１月上旬
題材　単元名	わくわくテレビ⑦	時数	１４時間

単元計画表

小単元名	小単元の概要（主なねらい、学習活動・場所、学習内容、活用資源など）	実施時期、時数
○ドラマのおはなしややくわりをしろう	ね・本単元の内容を知り、活動への見通しをもつ。 活・教師の説明を聞き、活動内容を知る。 ・ドラマや表彰式の見本ビデオを見る。 資・山内いものこ、増田リンゴ	２時間
○ドラマをさつえいしよう①～④	ね・自分の配役に恥ずかしがらずに挑戦したり、友達の撮影の間静かにしたりする。 ・自分の出番や台詞が分かり、納得のいく演技をする。 ・自分の芝居をＶＴＲで振り返り自己評価する。 活・撮影順番ボードに沿って撮影する。 ・友達の撮影を見る。 資・山内いものこ、増田リンゴ	８時間
○ドラマ「ねずみのすもう」じょうえいかい	ね・自分や友達のよくできたところを見つける。 活・個人賞をあげる友達を選んだり、自分のよくできたところを見つけたりする。 資・山内いものこ、増田リンゴ	２時間
○わくわくドラマ「ねずみのすもう」フェスティバル	ね・友達のよくできたところを伝える。 ・自分のよくできたところをみんなに伝える。 活・友達を表彰する。 ・自分のよくできたところを話す。	１時間
○ドラマ「ねずみのすもう」じょうえいかい	ね・ドラマを視聴する友達や教師の様子を見て、喜びや達成感を味わう。 活・１～３年生や教師がドラマを視聴する様子を生中継で見る。	１時間

③　中学部２年１組

単元目標（単元を通して育てたい主たる力）
・身近なことに興味をもち、調べたり探求したりする力。
・公共施設、交通機関の利用や、金銭、時間、持ち物の管理など、社会生活に生きる力。
・簡単な調理をする力、および味覚や嗅覚などを通して認知の幅を広げ、生活の質を向上させる力。
・情報をまとめ、相手に伝える力。

目標達成につながる主な学習活動や学び方
・横手市の食文化、農産物などの調査（コンピューター検索、「横手だいすき」等の資料調査、インタビューなど）
・施設見学（「秋田ふるさと村」や「秋田県果樹試験場」などへの校外学習、買い物学習など）
・食体験、調理学習（りんごの味比べ、甘酒作りなど）
・食レポとかまくらでのおもてなし（レポート作り、食レポ練習、プレゼン大会、おもてなし練習と本番など）

既習の学習との関連
・文字の読み書き、足し算、引き算（小学校：国語、小学校：算数）
・情報の獲得、整理（小学校：社会、小学校：国語ローマ字、小学校：算数）
・お金、時間や時刻、物の値段、流通や交通、産業、伝統文化（小学校：生活科、社会）
・「かまくら」について（中学部１年次：総合的な学習の時間）
・意見発表、自己表現（特別活動、音楽、総合的な学習の時間など）

他教科等との関連
・国語（作文、漢字の読み書き）
・数学（紙幣、硬貨、時間と時刻、電卓の使い方）
・作業学習（作業日誌の記録や反省発表、売り上げ計算、出来高計算など）
・特別活動、音楽、総合的な学習の時間（活動レポート作り、発表など）

活用する地域資源と本単元での活用の方法
・「秋田ふるさと村」・・・横手市の美味しい物を調査しに行く。レポートを作り、「かまくら」での資料にする。
・「秋田県果樹試験場」・・横手市の農産物（りんごなど）を調査しに行く。「かまくら」での資料にする。
・「新山食品加工」・・・・横手の発酵食品（甘酒など）を調査しに行く。「かまくら」での資料にする。

本単元の概要

出身地または生活拠点が横手市以外、という生徒が多い。昨年は「横手の雪まつり」への参加や、「かまくら」でのおもてなしを経験し、達成感は得たものの、「会話」に戸惑いや難しさ感じた生徒が多かった。そこで、生徒が「会話」の材料として、横手市に関する知識や情報をもつことで、自信をもって会話に臨めるのではないか、と考えた。

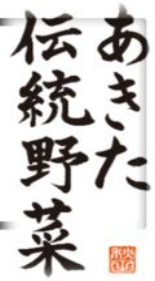
生徒達の共通点として、「食」「メディア（パソコン）」等への興味・関心が高い一方、生徒各々のもつ知識に比較し、経験値や経験の幅はあまり多くないという実態があった。また、経鼻経管で栄養を摂取する生徒がいるため、クラス全員が参加する形の学習活動を展開するには、「におい」の感覚を重んじた「食」の体験活動が有効と考えた。そこで、横手の食文化の根幹でもある「発酵」を柱の一つとして、単元を企画した。

これまでの学習では、「パソコンで横手市の暮らしの情報を検索する」「横手市の美味しい物を検索する」など、課題を変えながらパソコンでの検索に慣れつつ、徐々に単元の目的に迫ってきた。また、最終的に今年の「横手の雪まつり」で観光客と会話することを見据え、体験したことを「振り返りシート」や「食レポ」として書いている。今後もこの形でレポートを重ねていく予定である。

対象児童生徒	中学部２年１組	実施時期	７月、１０月、11 月
題材　単元名	横手が好き～うまい物調査班～	時数	５０

単元計画表		
小単元名	小単元の概要（主なねらい、学習活動・場所、学習内容、活用資源など）	実施時期、時数
レッツ検索①～③ ～横手のうまいもの～	**ねらい：身近なことに興味をもち、自分で調べる力をつける。** ・パソコンやタブレットからインターネット検索を行い、必要な情報を集める。	５
行ってみようⅠ ～秋田ふるさと村～	**ねらい:目的に沿って行動計画を立てて実行する。公共施設の利用に慣れる。** **獲得した情報をまとめ、発表する経験を積む。** ・自分たちが調べた情報を基に、行動計画を立て、実行する。 ・行動の記録を「食レポ」として互いに発表し合い、ファイルに残す。	７
レッツ検索④⑤ ～横手の農産物～	**ねらい：目的に沿って情報を検索し、適切に選ぶ力をつける。** ・横手市の農産物に焦点を当てて、パソコンや書籍（横手大好き）で検索をする。	５
味くらべⅠ ～リンゴ酢編～	**ねらい：味覚や嗅覚を通して認知の幅を広げる。調理等の生活スキル向上。** ・リンゴ果汁とリンゴ酢を分け、においや味を比べて記録する（食レポの練習）	２
行ってみようⅡ ～秋田県果樹試験場～	**ねらい：施設のルールを守って行動する。実際に説明を聞いて情報を得る。** ・横手市果樹試験場を訪ね、横手市で生産されているリンゴの品種や、リンゴを使った特産品などの情報を中心にまとめる。「旅レポ」として発表する。	７
味くらべⅡ ～リンゴの種類別～	**ねらい：調理スキル（リンゴの皮むき）の向上。味覚を通した経験の拡大。** ・自分たちでリンゴを切り分け、パーティー（品評会）を催す。 ・異なる品種のリンゴを食べ比べて「食レポ」を記録し、発表し合う。	２
レッツ検索⑥⑦ ～横手の食の歴史～	**ねらい：今までの知識をさらに深めたり広めたりする。** ・横手の食文化や歴史というワードを手掛かりに、「発酵」食品にたどり着く。 ・横手の様々な発酵食品をピックアップする。	５
行ってみようⅢ ～菓子工房マーブル （新山食品加工）～	**ねらい：ルールやマナーを守って実際に工場や厨房、店舗を見学する。** **工場や厨房、店舗の匂いや空気感から、「発酵」の実際を知る。** ・新山食品加工、菓子工房「マーブル」の見学をして「旅レポ」を書く。 ・菓子工房「マーブル」でお菓子を買って食べ、「食レポ」を書く。	７
味比べⅢ ～甘酒カフェ～	**ねらい：甘酒を実際に作り、調理手順や美味しく作るコツを知る。** ・小グループに分かれて甘酒作りをし（水加減を考えて）品評会をする。	３
まとめよう ～資料作りとプレゼン～	**ねらい：自分の調べたことをもとにして、横手の美味しい物を紹介する。** ・「横手が好き」の資料をまとめ、各々が学んだ事を発表する。	７

④　中学部２年２組



単元目標（単元を通して育てたい主たる力）
・仲間と一緒にお互いの良さを生かして役割を分担し、協力しながら活動する。
・野菜を植え、収穫するまでに必要な知識や技能を身につける。
・あきた伝統野菜の栽培、調理を通じて地元の食文化を知り、伝統食から郷土の良さや特色への考えをもつ。

目標達成につながる主な学習活動や学び方
・畑、プランターの主担当を決め、責任をもって自分の役割に取り組む。
・土づくりや播種、定植、追肥や除草などの生育管理を行い、生育記録にまとめ、壁面に掲示し発信する。
・一般的に流通している「なす」と「新処なす」の特徴を比較したり、新処なすの特性を生かした調理を考えたり、伝統食を実際に食べたりする。

既習の学習との関連
・学級農園での野菜の育成・収穫・調理（生活単元学習）
・農耕班での耕作（作業学習：農耕班）
・インターネットによる検索（生活単元学習・職業科）
●調理器具の使い方に関する学習（家庭科）　※昨年度の学級によって実情が異なる。

他教科等との関連
・土づくり　畝立て　定植　芽欠き　追肥　収穫（作業学習：農耕班）
・用具の使い方など、集団全体に向けた指示の理解（作業学習）
・「分かりやすく伝えよう」（国語：論理的思考）・「聞こう、伝えよう」（国語：インタビュー）
・「簡単料理を作ろう」（家庭科：茹で野菜　朝漬け作り）
・友達や地域の方々と進んで関わる（総合的な学習の時間）

活用する地域資源と本単元での活用の方法
・十文字道の駅（新処なす生産者組合）：新処なすの株の譲渡・生育指導（一学期）
・栄養教諭（素材を生かした伝統野菜の調理法）　（二学期）
・横手市商工観光部横手の魅力営業課：「花すし」の調理指導（二学期）

本単元の概要
　男子３名女子３名の学習集団である。コミュニケーションに関しては日常的な会話ができる生徒が４名、簡単な文で会話をすることができる生徒が１名、主に表情や体の動きで意思を伝える生徒が１名である。集団で様々な活動を共にしてきたことにより仲間意識が育まれ、自分の考えを示したり、友達を意識して関わり合ったりする姿も見られるようになってきた。似通った活動を積み重ねたことで、互いの良さや得意なことを生かして役割を分担し、協力しながら活動する場面が見られてきた。
　今年度の生活単元学習では、これまでの学びから自分たちにできることを生かして校内清掃や校地環境整備、地域清掃活動を主体とした『みんなのために』と、地元の伝統や文化を野菜つくりから学ぶ『横手の野菜を育てよう』という単元に年間を通じて取り組んでいる。本単元では、地元生産者の協力を得て『あきた伝統野菜』を生育、収穫し、調理学習を行う。一般的な「なす」と、伝統野菜「新処なす」の育ち方や実の付き方などの違いを成長記録としてまとめ、掲示して学びを発信する。また、新処なすの（皮が固く身が厚い）特性が生かされた調理方法を考えたり、新処なすの漬物作りに長けた外部専門家の活用により、食文化、発酵文化について学習を深めたりしていく予定である。
※題材に新処なすを選んだのは、「日本の食生活文集⑤聞き書き秋田の食事（相場栄ほか）」にも記されている、横手盆地に古くから根付いた伝統の「秋」の食材であることにもよる。

対象児童生徒	中学部２年２組	実施時期	通　年
題材　単元名	横手の野菜を育てよう①②	時数	３３時間

単元計画表		
小単元名	小単元の概要（主なねらい、学習活動・場所、学習内容、活用資源など）	実施時期・時数
横手の野菜を育てよう ・みんなで植えよう	〇仲間と関わりながら活動する。自分の考えや意見を仲間に発信する。 ・植える野菜を決める。畑の名前を決める（チャレンジ畑、ベジ畑）。立て看板の作成をする。 ・（石拾いなどの）開墾活動、土づくり、畝立てなど播種の準備を行う。	４・５月 ６時間
横手の野菜を育てよう ・みんなで育てよう＆収穫しよう	〇仲間と関わりながら活動する。自分の考えや意見を仲間に発信する。 ・教師の説明や例示をよく見聞きし、活動内容を理解して行動する。 ・播種、定植、芽欠き、追肥、除草などの農作物の生育活動を行う。 ・収穫作業を行う。収穫した農作物の特徴や品種による違いを記録する。	６・７・８月 15時間
野菜の成長を伝えよう	○受け手に、よりよく伝わるような工夫をして、掲示物を作成する。 ・生育の様子や生育途中で施す工程の説明を写真や文字で表し、掲示物を作成する。 Ⅰよりタイトルに合った写真を選ぶ。 Ⅱ「～なように〇〇した。」の文型を使い、理由を含めてまとめる。	６・７・８・９・10月 ６時間
横手の野菜を育てよう ・みんなで味わおう	①　収穫物にふさわしいメニューと役割分担を決め、調理を行う。 ・収穫物を生かして調理するメニューを決める。 ・調理工程を調べ、役割を分担し調理実習を行う。 ②　新処なすの特性が生かされた調理方法を考えたり、新処なすの漬物作りに長けた外部専門家の活用により、食文化、発酵文化について学習を深めたりする。 ・栄養教諭、横手市商工観光部横手の魅力営業課からの調理指導を受け、素材を生かした調理、なすの花すしの試食を行う。	９月 ６時間

⑤　中学部２年３組

単元目標（単元を通して育てたい主たる力）
・友達と協力したり、自分の役割に積極的に取り組んだりしながら、栽培や収穫などをする。

目標達成につながる主な学習活動や学び方
・ペアになって土入れや畑の手入れをしたり、成長記録を書いたりする学習。
・友達と協力して、横手市で作られている伝統野菜をインターネットや地図帳を使って調べ、新聞にまとめる学習。
・自分の役割に責任をもち、調理をする。

既習の学習との関連
・伝えたい内容の順番を考える。（国語）
・作業分担や自分の役割が分かり、友達と協力して活動に取り組む。（生活）
・定規を使って測定する。（算数、数学）
・インターネットを使用して検索をする。（職業）

他教科等との関連
・簡単な調理計画を考える。（家庭）
・体に必要な栄養について知る。（家庭）
・「山内いものこ栽培体験」（作業学習　農耕班）

活用する地域資源と本単元での活用の方法
・山内にんじんを使ったレシピを調べ、調理する。
・山内にんじんと向陽二号の味や見た目の比較をする。
・道の駅さんないで実際に販売されている山内にんじんや加工品を見る。

本単元の概要
　男子３名、女子２名の計５名で全員言葉での意思疎通ができる。徐々にお互いのことを理解し、適度な距離で接しようとしているが、折り合いをつけることが苦手であったり、誰が行動するのを待ったりしている。今年度は自分たちで栽培したい野菜を決め、畑での学習に取り組んでいる。また、横手市内で栽培されている伝統野菜について調べ、新聞にまとめた。成長記録を記入したり、畑の手入れを続けたりしていると、「収穫をしたら〇〇を作りたい」など、今から収穫を楽しみにしている様子が見られる。本単元を通して、友達と一緒に活動することや役割分担をして、自分の役割に責任をもって取り組んだり、友達に任せたりしながら、一つの目的に向かって全員で活動する良さを味わえるようにしたい。

対象児童生徒	中学部２年３組	実施時期	年間
題材　単元名	横手の野菜を育てて、みんなで食べよう	時数	３５時間

単元計画表

小単元名	小単元の概要（主なねらい、学習活動・場所、学習内容、活用資源など）	実施時期、時数
野菜を育てよう	〇友達と協力して、栽培や収穫、成長記録の記入をする。 ・畑つくりや野菜の栽培、成長記録の記入などをする。	年間 16 時間
チャレンジ農園新聞をつくろう	〇横手の伝統野菜について調べ、レイアウトを考えながら新聞を作る。 ・パソコンや地図帳を使って、横手市や横手市で栽培されている伝統野菜の特徴について調べる。	６月 ９時間
みんなで食べよう	〇調理方法を考え、収穫した野菜を使った会食をし、味や見た目の比較をする。 ・収穫した野菜を使って調理をする。 ・山内にんじんと向陽二号の味や見た目を比べる。 ・実際に販売されている山内にんじんや加工品を参考に、調理したいメニューを考える。	11 月～ １２月

⑥　高等部２年

単元目標（単元を通して育てたい主たる力）
・プロジェクト YOKOTE①で調べ、まとめたことをもとに、他の地域の人たちに発酵食のよさを伝えるために自分たちができることを考え、実践する。

目標達成につながる主な学習活動や学び方
・発信方法の検討、実践、改善。

既習の学習との関連
・「発酵食の『よさ』や『おいしさ』を伝える」をテーマに、グループごとに調べてまとめ、発信する学習。
・インターネット検索や本の活用、関係者へのインタビュー、試食等の実体験を伴う学習。

他教科等との関連
・「調べて発表しよう」「場に応じた話し方」「自分の考えを伝えよう」（国語）
・横手市の地理的な位置や特徴、自然、食文化（社会・理科）
・「日常の食事と調理～地域の食文化～」（家庭科）
・コミュニケーション（自立活動）

活用する地域資源と本単元での活用の方法
・県南の特別支援学校　…「４校交流会」での発表

本単元の概要
　男子１０名、女子７名、計１７名の学年である。全員が横手市在住であるが、自分が住んでいる地域以外のことについて知らない生徒が多い。１学期、横手に発酵食文化があることを知り、興味をもった発酵食について、グループに分かれて調べ、他のグループの友達に発表し合う活動をした。プロジェクト YOKOTE②では、この学習をもとに、発酵食についてもっとたくさんの人にアピールし、自分たちの住んでいる横手市のよさを伝えていくための方法を友達と考えたり、実践したりし、友達同士で学び合う姿を育てたいと考える。

対象生徒	高等部２年	実施時期	３学期前半
題材　単元名	プロジェクト YOKOTE② ～横手の発酵食文化を伝えよう～	時数	８時間

単元計画表		
小単元名	小単元の概要（主なねらい、学習活動・場所、学習内容、活用資源など）	実施時期、時数
プロジェクト YOKOTE② スタート！	○プロジェクト YOKOTE①で学習したことを振り返る。 ○4 校交流会で発表することを知る。 ・アンケート、写真等での振り返り。４校交流会の内容を知る。	1
横手の発酵食文化を伝えよう	○4 校交流会での発表の仕方や SNS を使った発表方法等、発信の仕方を話し合って決める。 ○発表資料について改善したいところを話し合ったり、修正、追加したりする。 ・グループ別活動。	3
発信しよう！	○4 校交流会で、他校の生徒に調べたことを見せたり、話したりして発表する。 ○SNS 等で発信するための動画を撮影したり、友達と話し合いながら工夫、改善をする。 ・グループ別活動	4

3　協議の内容

（1）思いを伝え関わる力を育てる視点

各学年の単元計画からつながりを検討し、「目標」「活動」「関わる対象」の項目で整理した。

各学部の目標を見ていくと、(「発信」に関して）小学部低学年で活動や対象に興味をもつ、小学部高学年で活動や対象に思いをもつ、中学部で考えをもったり、まとめたりする、高等部で伝える方法を考え、実践するという内容が設定されており、段階的に思いや思考を深め、行動につなげていくという系統性があることが確認できた。

活動内容については、小学部では、低学年で身近な場所で地域の特産の野菜を育て、高学年で取り扱う特産物の幅を広げ、中学部では、それらの特産物の栽培方法等を地域の方から実際に学び、そして高等部では、地域の方から得た学びを第三者へ発信する、という活動が設定されていた。発達段階や生活年齢、学習経験に応じて設定された各学部の活動は、各段階での既習の体験や学びを基に、地域を切り口として積み上げ、広げ、深めていけるような発展的な形で設定されているということが確認できた。

関わる対象についても、小学部低学年から高学年に向けて、学級の友達や先生、家族から学部の友達や先生へと対象を広げ、中学部では地域の施設や地域の方へと身近な校外に、高等部ではさらに交流校やＳＮＳの相手といった広範囲の対象へと、各学部段階で発展的に広がっていっていることが確認できた。

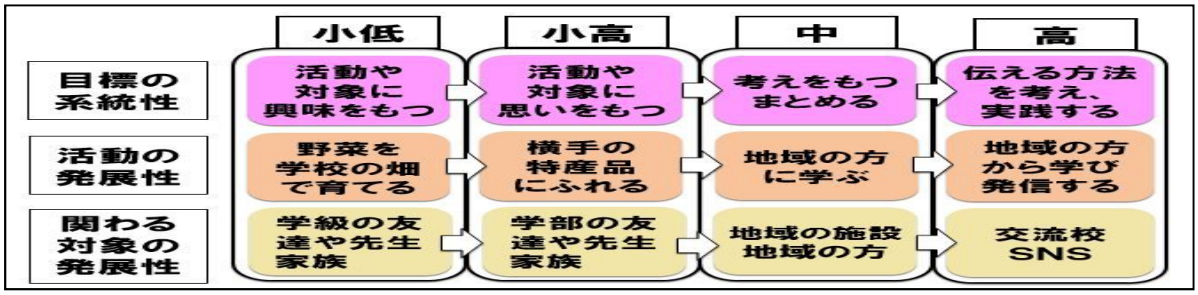


図１　目標の系統性と活動および関わる対象の発展性

（2）活動自体のつながり、他学部との学び合いの視点

具体的な活動内容から、小学部３年生と中学部２年生では野菜の栽培、中学部２年生と高等部２年生では、横手の食文化の中でも発酵文化を取り上げていること、小学部４・５・６年生と高等部２年生では情報を発信するスタイルが似ているということが見いだされた。このことから、お互いに教え合ったり、学び合ったりする活動を展開できるのではないかという意見が挙げられた。しかし、それぞれの学年で年間を通して設定しているねらいや発信する相手等が異なっており、年度途中で、新たに活動を追加したり、学部をまたいで活動やねらいを相互にすり合わせたりすることに難さがあり、実際に直接的な学習のつながりをもつには至らなかった。学習のつながりを求めるとすれば、年度当初に、活動を共にする双方にとっての必要性や効果のある学習形態や時期等を検討し、計画に組み入れていく必要があると考える。

なお、中学部２年生では、各学級で行っている地域の特産物を扱った学習について学年全体で共有する機会を設けたいという意見が挙がり、単元計画に発表会を追加することとなった。

また、直接的な学習のつながりをもつことはできなかったが、２回目の検討会では、全校授業研究会で提示する小学部４・５・６年生の授業について、他学部の職員から広く意見を集めた。

小学部４・５・６年生では、「みんなをえがおに　わくわくテレビでつたえよう！」の単元で、年間を通じて、テレビ番組を制作し、小学部１・２・３年生に向けて放送する活動を行っている。それまでの振り返りの授業では、児童一人一人が決めた「ちゅうもくポイント」や完成したテレ

ビ番組を見て、お互いを評価し合い、伝えるという活動を行っていた。主たる活動が座学であるなど、児童が主体的に取り組む方法に課題があった。

検討会では、中学部や高等部の職員から、小学部段階であればという視点で「アカデミー賞」や「〇〇アワード」のような表彰式を行う、番組のコーナーごとの放送ブースを設けて友達や自分が担当するコーナーを自由に視聴し、よいと思う友達にその場で投票する、発表の際に内容に合う動画をピンポイントで流す、など児童にとって分かりやすく、楽しみながら主体的に活動し、評価を実感できる活動がよいのではないかという意見が挙げられた。

それらの意見を取り入れて活動内容を大きく変更させて行った全校授業研究会の授業では、児童一人一人が緊張感と期待感をもちながら主体的に活動し、達成感を得ることができた。

4　「(地域について) 発信する」のつながり

３回目の検討会では、各学部段階で発信という活動を通して児童生徒に付けたい力（ねらい）について検討した。各学部段階での付けたい力の系統性や発展性を意識しながら検討できるように、全校授業研究会で授業を提示した小学部４・５・６年生の授業のねらいを取り掛かりとした。

小学部高学年段階で付けたい力として、「伝わるようにはっきり話したり、大きく動いたりする力」は妥当であり、まずは、「伝わった」「できた」という体験やいろいろな伝え方をたくさん経験しながら、伝えたい気持ちをもつことが大事であるということでまとまった。小学部高学年段階でそのような力を付けるために、低学年段階で付けたい力として「活動の喜びを友達や家族に自分なりの方法で表現し伝える力」が挙げられた。そして、小学部高学年で付けた力を基にして、中学部段階で付けたい力として、「相手に伝えようという気持ちをもち、自分の知ったことや体験したことを伝える力」「身近な相手に合った伝え方や分かりやすい伝え方を考えてまとめる力」という意見が出された。さらに、この中学部の力を踏まえて高等部では、「相互に発信し合う力」「相手を意識した伝え方を工夫する力」をねらえるのではないかということでまとまった。また、それらの力を付けるために、今年度計画した学習内容は妥当であるかも再確認した。

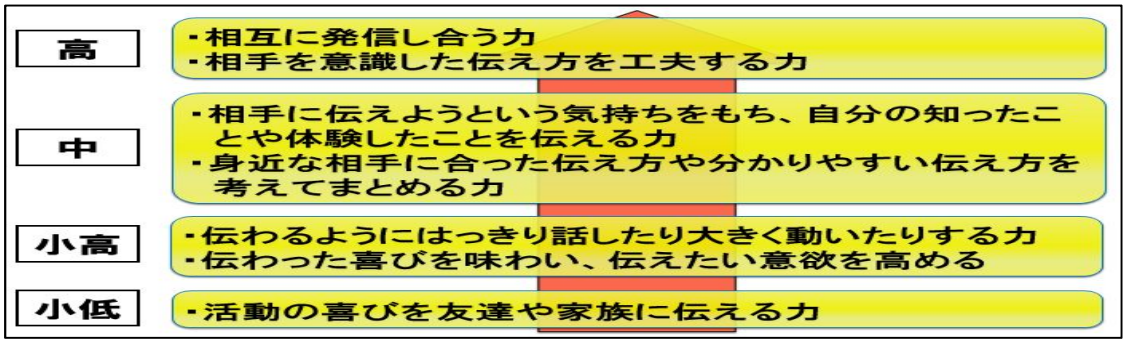


図２　発信を通して各学部で付けたい力

5　全校授業研究会（小学部４・５・６年）

（1）育てたい主な力に迫るための手立てと工夫

①　成果

表彰の順番を確認できる顔写真の表をホワイトボーに掲示したことで、自分の出番に見通しをもち、落ち着いて活動に参加する姿が見られた。

〇表彰台やレッドカーペットを準備したことで、友達を注目したり、緊張感をもって参加したりすることができた。また、表彰の際の動線が分かり、自分から表彰場所に移動したり席に戻ったりすることができた。

〇撮影で実際に使用した小道具を提示したり、児童が撮影やドラマ視聴中にうれしそうにし

ていた場面の画像を提示したりすることで、自分のよくできたところをジェスチャーで伝えたり、自分の気に入っている場面を伝えたりすることができた。

② 課題

●評価タイムにいくつかのテレビブースを設け、場面ごとに動画を鑑賞しながら自分や友達の評価ができるような場の設定や、「こえがおおきかったで賞」のような、よかった点が伝わりやすい個人賞の設定など、より評価しやすく、伝わりやすい評価方法の工夫。

●児童が自分で考え主体的に動くことができる児童の役割や教師の言葉掛け、効果音の工夫。

●児童が「はっきり伝えることができた」と実感できる手立ての工夫。

③ 授業改善の実際

全校授業研究会での成果や課題を受け、単元のまとめの授業だけでなく、番組制作の活動においても、以下の視点を大事にしながら授業作りに取り組んだ。「より評価しやすく、伝わりやすい評価方法の工夫」では、一人で二人の友達に授与メダルを書くことにした。1 回目の動画鑑賞で、授与したい友達候補を決め、全体で話し合って個人の割り当てを決めた。2 回目の動画鑑賞で自分が授与する友達の評価メッセージを考えるようにした。メッセージをできるだけ簡潔にすることで、友達のよい点を分かりやすく伝えることができた。「児童が主体的に動くための児童の役割や教師の言葉掛け、効果音等の工夫」では、毎回繰り返される活動の進行等を、児童（主に 6 年生）に任せるようにした。また、活動の切り替えに音楽を使うことで、教師の言葉掛けがなくてもタイミングよく動く姿を引き出すことができ、自分たちで判断して動く場面が増えた。「「はっきり伝えることができた」と実感できる手立ての工夫」では、教師によるデモビデオの提示とカットごとの収録ビデオの確認、即時評価をこれまで以上に丁寧に行った。そのカットに出演した児童だけでなく、グループみんなで確認することで、自己評価と他者評価を同時に行うことができ、「撮り直しは 3 回まで」のルールの下、自分や友達の出来映えに納得しながら制作に取り組む姿が見られた。どの手立ても、児童が自ら判断し活動を進めることで、児童同士の関わりが増え、活動への意欲もより高まったと感じる。また、主体的に番組制作に取り組むことは、自分たちが作った番組への愛着につながり、番組を見てくれた人たちが喜ぶ姿を見たときの児童の喜びや、伝えることへの強い意欲につながると感じた。

（2）授業者所感

本単元では、テレビ番組の制作、放映を通し、自分の配役に恥ずかしがらずに挑戦しようとしたり、少し難しい役割を果たそうとしたりする「自分の感情をコントロールする力」や、自分の配役や台詞、動きが分かり（「状況を見通し」）、伝わるように気持ちを込めてはっきり話したり、大きく動いたりする（「わかりやすく伝える」）力、自分や友達の演技や役割について、よくできたところや、よりよくするためのポイントが分かる「適切な自他評価の力」を育みたいと考え、授業改善に取り組んできた。年間 11 回（6 年生は 10 回）の番組制作と放映を積み重ねる中で、児童はいろいろな役に挑戦し友達と一緒に達成できたことを自信に、ちょっと難しいこと

にも挑戦する気持ちをもつことができた。また、自分の出番が来るまで静かに友達の演技を見守る、大きな声ではっきり伝える、自分や友達のがんばりを見つける等についても、成長が感じられた。

また、本単元では地域の食に触れることも、もう一つのテーマとして取り組んだ。ドラマのストーリーに絡め、「横手やきそば」「さくらんぼ」「幼虫チョコ」「芋の子汁」「いぶりがっこ」「増田のりんごジュース」を紹介したり、バラエティー番組で横手市大沢のぶどう園でのぶどう狩り体験の様子を発信したりした。今後、それぞれの特産品についてより詳しく取り上げる機会を作り、地域のことについてより広く深く学ぶことができるよう、年間の計画を立てていきたい。

（３）全校授業研究会における協議内容

協議題

「（地域の人や特色、文化を学ぶことを通して）思いや伝えたいことを表現する力を育むための学習活動について、各学部段階における留意点や要点とは何か」

学部	自己理解の段階	留意点・要点
小学部	振り返り等で自分を客観的に見ることに慣れる段階	・何をするのかが分かり、スモールステップで繰り返し行う学習が重要。 ・認めてもらい、達成感を味わう体験が大切。相手に認めてもらいたいという関係性の構築が児童自身の振り返りにも結び付く。
中学部	自分ができること、できないことに気付く段階	・目標やめあてに応じた振り返りができるように、目標達成基準を明確にする。 ・認める言葉掛けに加えて課題にも触れ、評価を伝える。できなかったという評価が×ではないということも伝え、次の頑張りにつながる評価の仕方をする。
高等部	自己評価と他者評価の違いを受け入れる段階	・目標やめあてに応じた振り返りができるように目標達成基準を明確にする。 ・自己肯定感を高められるように、中学部段階までの評価の仕方に加えて、外部の人など第三者からの評価も盛り込む。

【全体を通して】

・やることや目標、めあての明確化・具体化、達成基準の設定が大切。めあてを意識するように、児童生徒が分かる言葉で示し、掲示するなどして視覚化することが重要。

・めあてが分かることで、振り返るポイントが明確になり、キーワードやポイントを絞って振り返ることができる。振り返りにおいて、動画や写真を使って視覚的に行うことは有効。

・ワークシートや評価表を使用する際は、◎○△など記号での評価や手がかりをもとにした記述、徐々に自由記述に移行するなど、一人一人にあった方法を段階的に考える。

小学部　第４・５・６学年　生活単元学習　学習指導案

日　時：令和２年１１月１２日（木）１３：１０～１３：５５
場　所：小・中学部校舎　食堂
指導者：高山知子（Ｔ１）小西美穂（Ｔ２）照井聖子（Ｔ３）
佐々木麗子（Ｔ４）岸英子（Ｔ５）熊谷淳晴（Ｔ６）
遠藤千愛美（Ｔ７）

１　単元名　「みんなをえがおに、わくわくテレビでつたえよう！⑦～ドラマ　ねずみのすもう～」

２　目標

(1)　ドラマの制作を通して、自分の配役に恥ずかしがらずに挑戦しようとしたり、少し難しい役割を果たそうとしたりする。学　人

(2)　自分の配役や台詞、動きが分かり、伝わるように気持ちを込めてはっきり話したり、大きく動いたりする。知　技

(3)　自分や友達の演技や役割について、よくできたところや、よりよくするためのポイントが分かる。思判表

３　児童と単元について

(1) 児童観

本学習グループは、４年生男子２名、５年生男子５名、６年生男子１名、女子２名（男子１名女子１名は市内小学校より４月に転入）の計１０名からなり、障害の特性は様々である。

これまで生活単元学習では、４、５年生は一昨年度、昨年度に「わくわくパーティーをしよう」、６年生は昨年度に「ありがとうの会をひらこう」という単元に取り組んだ。お客様を招待することで活動への期待感が高まり、友達やお客様を意識しながらゲームやおもてなしの活動に取り組んだり、役割を果たしたりする様子が見られたが、初めて挑戦するゲームや役割に消極的になったり、自分の気持ちが優先されてしまい、集団参加が難しい場面も見られた。

今年度は、コミュニケーションや人との関わり、集団参加の態度など、互いに見本になり高め合うことができるよう、４、５、６年生合同で生活単元学習を行なっている。月に１回のペースでテレビ番組の制作に取り組み、友達が自分の役割に挑戦する様子や、友達と協力し合う様子、集団を意識して振舞う様子を見て、初めての役割に挑戦したり、友達と一緒に撮影に取り組んだりする姿が少しずつ見られるようになってきている。

(2) 単元観

本単元は、年間で１２回のテレビ番組の制作を計画し、これまで６本の番組を制作した。うち３回はコーナー番組で、教師にインタビューしたり、他教科等で学習したことや得意なことを発表したりした。また、２回は児童の好きな民放のバラエティ番組をまねた、情報発信型の番組を制作し、校外学習や宿泊学習で訪れた横手市のぶどう園や田沢湖について紹介したり、学校祭の学部発表で、鍵盤ハーモニカの合奏練習の様子をＶＴＲで紹介し、本番をステージで発表したりした。７回目となる今回の番組は「ドラマ　金のノブ君」に続く２回目のドラマ制作で、台詞が簡潔なオリジナルストーリー「ドラマ　ねずみのすもう」である。１、２回目ともに、横手を舞台にしたお話で、よこての名産・名所を取り上げた。

テレビ番組を制作する活動は、自分が憧れの芸能人のようにテレビ画面に映ることができ、児童にとって大変魅力的である。児童の実態や興味関心に合わせた役割を盛り込むことができ、撮

影したものをVTRで繰り返し視聴できるため、制作中の即時評価や制作後の振り返りの方法としても有効である。さらに、制作した番組を友達や保護者、交流校の友達などたくさんの相手に見てもらうことで、自分達の活動を紹介したり、身近な人を楽しませたりすることができる。

ドラマの制作では、台詞を練習し、お互いの様子を見あうことで、語彙が増え、意味の理解も深まると共に、物語の展開や背景を理解する学習にもつながる。また、配役を分担しあうことで、少し恥ずかしい配役や台詞、衣装、リアクションにも勇気を出して挑戦するなど、自己の感情の統制を学ぶ機会になる。また、友達の収録を静かに見守ることは環境の把握を学ぶことになり、社会参加に必要な力を学ぶことができると考え本単元を設定した。

(3) 指導観

自分の配役に恥ずかしがらずに挑戦したり、少し難しい役割を果たしたりしようとするように

・配役や台詞など、児童が気になることについて、児童が納得できるよう丁寧に説明する。
・相撲の勝ち負けに抵抗を示す児童に関しては、取り組みをダンス風に変え、コミカルなストーリにアレンジする。
・友達の撮影を静かに見ることも大事な役割であることを伝え、繰り返し即時評価する。

気持ちを込めてはっきり話したり、自信をもって動いたりできるように

・自分の配役や台詞、撮影の出番が分かるように、見本ビデオや絵入台本、撮影順番ボードを提示する。
・児童の実態に応じて、台詞の量を調整し、得意な発音やジェスチャーを取り入れる。
・ナレーション担当の児童には読みやすい台本を提示し、イントネーションなどを事前に伝える。

自分や友達の演技や役割について、よくできたところや、よりよくするためのポイントが分かるように

・撮影したカットを児童がその場で動画を見ながら即時評価する機会を設定する。
・友達の芝居の様子を他の児童も見られるようにする。
・自分や友達のよくできたところを振り返る場を設定し、ドラマフェスティバルで表彰する。

4　指導計画（総時１４時間）

小単元名	主なねらい	活動内容	ねらいに迫るための学び方	時間
1　ドラマの おはなしや やくわりを しろう	・本単元の内容を知り、活動への見通しをもつ。知　技	・教師の説明を聞き、活動内容を知る。 ・ドラマや表彰式の見本ビデオを見る。	主 対	2時間
2　ドラマを さつえいしよう①~④	・自分の配役に恥ずかしがらずに挑戦したり、友達の撮影の間静かにしたりする。学　人 ・自分の出番や台詞が分かり、納得のいく演技をする。知　技 ・自分の芝居をVTRで振り返り自己評価する。思判表	・撮影順番ボードに沿って撮影する。 ・友達の撮影を見る。	主 対 深	8時間 ※2時間×4回行う
3　ドラマ「ねずみのすもう」じょうえいかい	・自分や友達のよくできたところを見つける。思判表	・個人賞をあげる友達を選んだり、自分のよくできたところを見つけたりする。	主 対 深	2時間

4	第１回わくわくドラマフェスティバル ～「ドラマねずみのすもう」～	・友達のよくできたところを伝える。思判表 ・自分のよくできたところをみんなに伝える。思判表	・友達を表彰する。 ・自分のよくできたところを話す。	主 対 深	1 時間 本時 13/14
5	ドラマ「ねずみのすもう」じょうえいかい	・ドラマを視聴する友達や教師の様子を見て、喜びや達成感を味わう。学　人	・１～３年生や教師がドラマを視聴する様子を生中継で見る。	主 対 深	1 時間

○本単元と他教科等との関連（小学部）

生活	・身の回りの人との関わり方に関心をもつこと。 ・様々な集団活動に進んで参加し、簡単な役割を果たそうとすること。 ・地域の特産物に関心をもつこと。
国語	・簡単な指示や説明を聞き、その指示等に応じた行動をすること。 ・教師の話や読み聞かせに応じ、音声を模倣したり表情や身振り、簡単な話し言葉で応答したりすること。 ・経験したことを思い浮かべ、身振りや音声で表すこと。 ・経験したことを思い浮かべ、伝えたいことを考える。
算数	・簡単な図表を読み、活用すること。
音楽	・身体表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、簡単なリズムの特徴を感じ取り、体を動かすことについての思いをもつこと。
体育	・歩く、走る、跳ぶなどの基本的な運動を姿勢や動きを変えるなどしていろいろな方法で行うこと。

５　本時の計画

(1)本時の目標

・自分が個人賞をあげる友達が分かり、よくできたところを伝える。思判表
・自分がよくできたところをみんなに伝える。思判表

(2)個別の目標

No.	児童名	配役	本時の主たる目標（期待する具体的な学びの姿）	評価
1	A （４年）	ねずのすけ （小）	・自分がよくできたところをジェスチャーで伝える。 思判表	
2	B （４年）	ねずのすけ （中）	・自分がよくできたところを自分の言葉で具体的に伝える。思判表	
3	C （５年）	ねずのすけ （大）	・自分がよくできたところをジェスチャーと簡単な台詞で伝える。思判表	
4	D （５年）	ちゅうきち （小）	・自分がよくできたところをジェスチャーを交えて、はっきり発音し、みんなに分かりやすく伝える。思判表	
5	E （５年）	ちゅうきち （中）	・自分がよくできたところを自分の言葉で伝える。 思判表	
6	F （５年）	ちゅうきち （大）	・自分がよくできたところをジェスチャーを交えて伝える。思判表	

7	G （６年）	ちゅうきちの家の じいさん・ばあさん	・自分がよくできたところを自分の言葉で具体的に伝える。思判表	
8	H （６年）	ねずのすけの家の じいさん・ばあさん	・自分がよくできたところを自分の言葉で伝える。 思判表	
9	I （６年）	ねずみの行司	・自分がよくできたところを自分の言葉で具体的に伝える。思判表	
10	J （５年）	ナレーション （Ｔ６）	・アフレコの際に、声の抑揚を工夫できたことなど、自分がよくできたところを詳しく伝える。思判表	

評価について：〇本時の目標に迫っている　　△：支援、手立ての改善が必要である

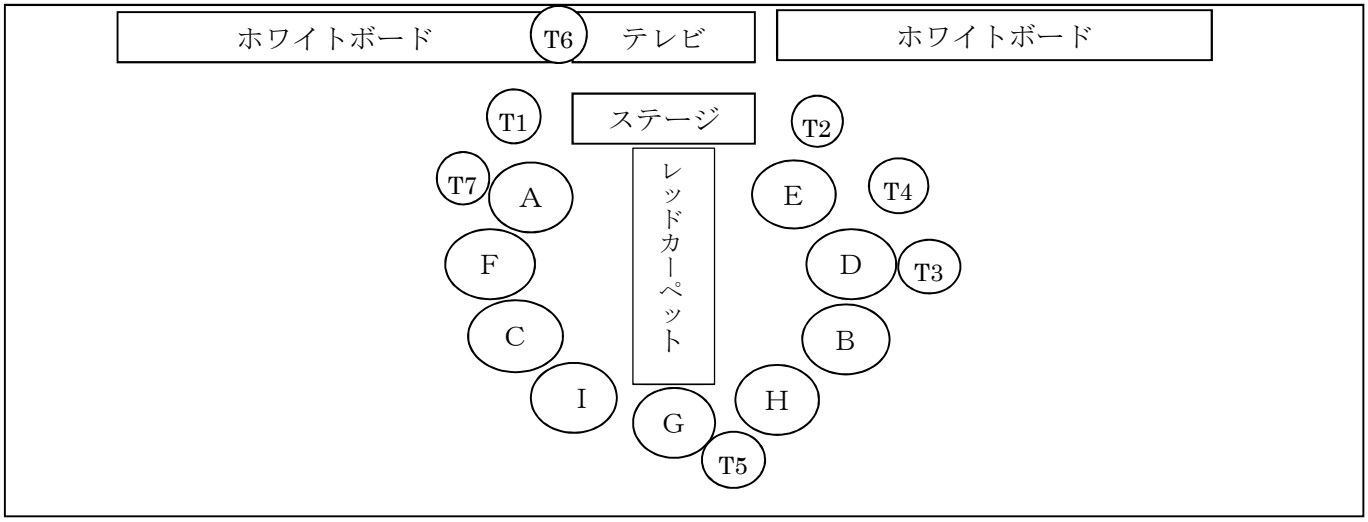
(3)展開

段階	学習活動	指導上の手立て（〇）、主・対・深に係る手立て（◇）	準備物
導　入 (5 分)		〇表彰式への期待感を高めるため、児童は予め蝶ネクタイをつけて着席する。	蝶ネクタイ タイトル短冊 スピーカー BGM
	＜本時のめあて＞じぶんや　ともだちの　よかったところを　つたえる。		
	1　オープニング映像を見る。 2　表彰式の進め方について、司会者（T1）の話を聞く。	〇児童が表彰式に関心をもって参加できるよう、賞の名称、授与者などを、その都度大型テレビで流したり、ファンファーレやドラムロールで盛りあげたりする。(T6) ◇式の流れに見通しがもてるよう、表彰の順番をホワイトボーに貼ってある顔写真を見ながら確認する。(T1)	大型テレビ ホワイトボード ひょうしょうしき短冊 プログラム 長テーブル1台 賞状
展　開 (35 分)	3　わくわくドラマ「ねずみのすもう」フェスティバルを行う。	◇賞状の受け渡しをスムーズにするため、賞状をメダルカードにする。(進達：T2) ◇児童の言葉が、全員に聞こえるように、また、発表する児童の意欲を高めるためにマイクを使用する。(T1) ◇友達や自分のよくできたところをみんなではっきり共有できるように、児童が伝えたい場面をテレビで流す。(T6) ◇Ａ、Ｃが自分のよくできたところをジェスチャーで伝えられるように、撮影で使用した小道具を提示する。(T7) ◇Ｅが自分の気に入っている場面を伝えられるように、撮影や視聴中うれしそうにしていた場面の画像を２枚用意する。(T1) ◇Ｄが一語一語はっきり発音できるように、指文字を演示する。(T2) ◇Ｆがよくできたところをジェスチャーで伝えられるように、具体的な動きを引き出すような言葉を掛ける。(T1)	ドラムロール マイク タブレット
まとめ (5 分)	5　フィナーレ テーマソング「ねずみのすもう」を歌う。 6　賞状を持って退場する。	◇児童がテーマソングを自信をもって歌えるように、T7 が児童の前で踊りを演じる。また、テレビで歌詞を流す。 ◇次時の活動や集合場所について、司会者（T1）がフィナーレの中で伝える。	

(5)評価の観点

児童	・自分の演技や友達の演技について、よくできたところを発表することができたか。
教師	・児童が自分の演技や友達の演技について、自分に合った表現で発表するための手立ては適切だったか。

(4)配置図や教材



教材＜賞状＞

Ⅲ　第３グループの実践

１　グループ検討のキーワードについて

第３グループ検討のキーワード：「（地域のために）貢献する」

第３グループでは「横手が舞台」の学習における「（地域のために）貢献する」ことについて、その連続性や段階性を検討した。「（地域のために）貢献する」とは、児童生徒が自分の長所や得意なことを理解し、それを生かして周りの人々や地域のためになる役割を果たすことであると考える。自分の長所や得意なことに気付くためには、肯定的な自己理解につながるような成功経験を積み重ねることができるような学習の機会が大切である。また、「地域や相手のために何かしたい」という動機をもつためには、低年齢段階から段階的に、「ほめられてうれしい」、「相手が喜んでくれて、うれしい」、「地域の役に立ててうれしい」という気持ちを育てていくことが大切であると考える。こうしたことなどを視点として、ワークグループの検討を進めてきた。

２　所属する学習グループの中心単元

（１）小学部１年

①　単元名

「おはなしだいすき『コロちゃんはどこ』」

②　単元の主な目標（育てたい力）

・自分なりの方法で絵本の内容を伝える。

・友達と一緒に、場や遊びを共有しながら学習したり、関わり合ったりすることに慣れる。

③　単元の概要

児童の好きな絵本「コロちゃんはどこ」を題材にした段ボール家具を用いて、物語の内容を演じたり、コロちゃんを隠す・探すゲームを交代しながら行うなど友達と一緒に活動をしたり、他学年の友達や家族など身近な人に物語の内容を伝えたりすることで、場を共有することや関わりあったりすることの楽しさを知る。

④　ワークグループ検討会を経ての変更、改善点

・取り上げた絵本自体を十分楽しんだり、この絵本で友達と遊んでみたいという環境を作ったりしてみてはどうか。→　仕掛けを交代でめくったり、隠れている動物を当てるクイズを行ったりした。段ボールで家具を作り、ドアや箱を開けて動物を隠す遊びを行った。

・発表する機会を設け、見せる相手と関わり合う活動はどうか。→身近な教師や隣の教室の３年生と一緒に遊びたいという声が児童から出て、招待して『コロちゃんをさがせゲーム』を行った。くじで順番を決めたり掛け声を統一したりして一緒に関わり合い、盛り上がれる環境を設定した。

（２）中学部３年

①　単元名

「チャレンジ we can! ～本って楽しいな PART5～」

②　単元の主な目標（育てたい力）

・自分の気持ちや考えを伝えたり、相手の気持ちや考えを聞いたりしながら準備や読み聞かせの練習をする。

・自分の役割を果たしたり、友達と協力したりしながら準備や読み聞かせする。

③　単元の概要

今年度、「本の読み聞かせ」に取り組み、訪問の生徒や中学部の下学年の生徒、保護者などに活動を披露してきた。本単元は「小学部１年生に楽しんでもらう」を目標に、本の内容についてお互いの意見を伝え合ったり、読み聞かせの方法を試行錯誤したりする学習を通して、関わる相手を意識して仲間と協力しながら活動する姿を目指す。また、小学部１年生が読み聞かせを楽しむ姿を目にすることで、自分たちの活動に対する達成感を得て、「次は〇〇してみよう」「〇〇したらうまくできそう」など失敗を恐れずに最後まで取り組もうとする態度を育てたい。

④　ワークグループ検討会を経ての変更、改善点

・学校のことについて学習を行っている高等部１年生との交流を設定した。

（３）高等部１年

①　単元名

「横手を大きく学ぼう」

②　単元の主な目標（育てたい力）

・自分たちの学校のよさを知る。

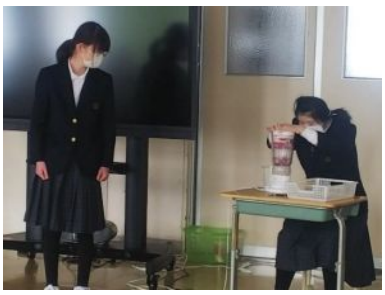
・いろいろな人に学校のよさを伝えるために自分たちができることを考えて実践する。

③　単元の概要

職員へのインタビュー活動や記念誌など資料からの読み取りを通して、自分たちが在籍する横手支援学校高等部について知る。また、調べて分った内容を分かりやすく伝える活動を繰り返し行うことで、本校への愛着心や誇り、伝統を継承することへの意識をもつ。

④　ワークグループ検討会を経ての変更、改善点

・新型コロナウイルス感染対策のため外部との交流を控え、ワークグループである小学部１年生と中学部３年との交流を計画した。



（4）単元構想図

① 小学部１年

単元目標（単元を通して育てたい主たる力）

●読み聞かせなどで、様々な絵本に触れ、物語の楽しさを知る。
●自分なりの方法で絵本の内容を伝える。
●友達と一緒に、場や遊びを共有しながら学習したり、関わり合ったりすることに慣れる。

目標達成につながる主な学習活動や学び方

●「絵本を読む」「ペープサート遊び」「遊具遊び」「発表活動」「まとめ」
・自分が楽しいと感じる絵本を選ぶ、読む、読んでもらうことから、教師側がねらいたい意図や表現がある絵本を読むなど、興味関心や表現の方法を広げる。
・登場人物になりきるなど表現活動を楽しむ。
・VTR を通して間接的に自分たちの活動を振り返ったり、直接に相手の反応を知り、感じ、称賛を励みに次の学習への意欲を高める。
・それぞれが発表活動をしている写真や絵本のイラストなどを台紙に貼り付け、記録冊子を作成し、学習したことを振り返る。

既習の学習との関連　**他教科等との関連**

●就学前の保育園、幼稚園、療育機関等においての読み聞かせ
●１学期…遊びの指導（学級）「つくってあそぼうⅠ」あめふりくまのこペープサート遊び
●国語「よみきかせタイム」
●生活単元学習「がっこうさいをがんばろう」
●日常生活の指導「読み聞かせ～れんげ草の会のみなさんと交流」

活用する地域資源と本単元での活用の方法

●身近な人との関わりから始めたい…家族、施設→他学年→れんげ草の会のみなさんへ向けて発表し、感想や評価を受ける。
※直接的な関わりや集団の場が苦手な児童がいるため、直接的な表現活動にこだわらず、VTR を活用するなど間接的にいてと関わることができる教材教具の工夫が必要。

本単元の概要
　学校生活や学級での集団の活動に徐々に慣れてきている。大好きな絵本を題材にして、友達と一緒に活動を楽しむ経験や、他学年の友達や身近な人との関わり、友達と一緒に活動を楽しむ経験を少しずつ広げていきたい。

対象児童生徒	小学部１年	実施時期	９～11 月頃
題材　単元名	おはなしだいすき『コロちゃんはどこ』	時数	８時間

単元計画表

小単元名	小単元の概要（主なねらい、学習活動・場所、学習内容、活用資源など）	実施時期、時数
えほん『コロちゃんはどこ』をよもう	●お話を楽しむ。 ・教師の読み聞かせを楽しむ。 ・自分で読む。仕掛けをめくって楽しむ。「いないよ。」などの言葉を発する。 ・１－１教室　・国語の「よみきかせタイム」内で実施する。	9~10月 国語の時間に
コロちゃんをみつけよう	●表現活動を楽しむ。 ・段ボールで作成した様々な家具の中に『コロちゃん』を隠したり、探し出したりして遊ぶ。 ・「どこ？」「いないよ。」などのやり取りを友達や教師と一緒に楽しむ。 ・１－１教室、ﾌﾟﾚｰﾙｰﾑ　・遊びの時間も活用して遊ぶ	12月上旬 2時間 ＋遊びの指導
『コロちゃんをさがせゲーム』をしよう	●身近な人の前での表現活動を楽しむ。 ・物語に沿って、友達と交互にコロちゃんを探すなどの表現活動やルールのあるゲームをする。 ・身近な教師（学部主事、養護教諭）他学年（３年生）	1月 4時間
わたしだけの『コロちゃん』えほんをつくろう	●本単元の記録を絵本のような冊子にまとめる（冊子づくり）。 ・写真や絵本のイラストなどを台紙に貼り付ける。 ・１－１教室	1月 2時間

② 中学部３年

単元目標（単元を通して育てたい主たる力）
・自分の気持ちや考えを伝えたり、相手の気持ちや考えを聞いたりしながら準備や読み聞かせの練習をする。
・自分の役割を果たしたり、友達と協力したりしながら準備や読み聞かせする。

目標達成につながる主な学習活動や学び方
・「小学部１年生に楽しんでもらう」を目標に、本の内容や読み聞かせの方法、役割分担を話し合いながら意見をまとめる学習。
・自分の役割を果たしながら仲間と共通のゴールに向かって工夫したり、試したりする学習。
・自分たちでお互いの活動を見合って、よかったことや改善が必要なことを伝え合う学習。

既習の学習との関連
・「自分たちで内容を考え、ビデオレターを送る」（生単：Ａさんにビデオレターを送ろう、中２）
・「幅広く読書に親しみ、本にはいろいろな種類があることを知る」（読書週間、中１～）

他教科等との関連
・「自分が読んだ本の内容を簡単な図にまとめ、発表する」（国語、中３）
・「教師と一緒に絵本を見て、登場人物の動作を模倣する」（国語、中３）
・「絵本や易しい読み物を読んで、好きな場面を話したり、内容の大体を捉えたりする」（国語、中３）
・「詩を読んで、好きな場面について理由を添えて話したり、感想を書いたりする」（国語、中３）
・「相手からの働き掛けに発声や身振りで応じる。」（自立活動、中３）

活用する地域資源と本単元での活用の方法
・むつみ幼保連携型認定こども園の園児…次の単元で読み聞かせをする。

本単元の概要
中学部３年生は男子４人、女子４人の学年である。移動面やコミュニケーション面での実態は様々である。普段と異なる学習集団では自分の気持ちや考えを伝えることに消極的になる様子が見られるが、仲のよい友達や教師など特定の人間関係の中でのやりとりは活発である。今年度の生活単元学習では、「本の読み聞かせ」に取り組み、これまで訪問の生徒や中学部の下学年の生徒、保護者などに活動を披露してきた。本単元では、小学部１年生に本の読み聞かせを行う。「小学部１年生に楽しんでもらう」を目標に、本の内容についてお互いの意見を伝え合ったり、読み聞かせの方法を試行錯誤したりする学習を通して、関わる相手を意識して仲間と協力しながら活動する姿を目指したい。また、小学部１年生が読み聞かせを楽しむ姿を目にすることで、自分たちの活動に対する達成感を得て、「次は〇〇してみよう」「〇〇したらうまくできそう」など失敗を恐れずに最後まで取り組もうとする態度を育てたい。

対象生徒	中学部３年	実施時期	R2.8.31～9.25
単元名	チャレンジ we can! ～本って楽しいな PART5～	時　数	２３

単元計画表

小単元名	小単元の概要（主なねらい、学習活動・場所、学習内容、活用資源など）	実施時期、時数
読み聞かせの相手を知ろう	〇本単元の目的や内容を知り、活動への見通しをもつ。 ・教師の説明を聞き、活動内容を知る。 ・小学部１年生が読み聞かせを聞いている様子を見学する。	２
読み聞かせをする本を決めよう	〇「小学部１年生に楽しんでもらう」をテーマに話し合い、読み聞かせの本を決める。 ・読み聞かせの様子をもとにどのような本であれば楽しめるか、ポイントを考える。 ・ポイントに沿って本を探し、読み聞かせの本を決める。	２０
読み聞かせの仕方を考えよう	〇「小学部１年生に楽しんでもらう」をテーマに話し合い、読み聞かせの方法や役割分担を決める。 ・グループに分かれ、お互いのよさを生かした役割分担や読み聞かせの方法を考える。	
読み聞かせの練習をしよう	〇自分たちが考えた読み聞かせの方法を試し、よかったことや改善が必要なことを考える。 ・教師がどのような読み方で読み聞かせをしていたか、ポイントを考える。 ・ポイントに沿って読み聞かせの練習をする。	
小学部１年生に読み聞かせをしよう	〇小学部１年生に楽しんでもらえるように本の読み聞かせをする。 ・小学部１年生に読み聞かせをする。 ・読み聞かせを振り返り、よかったことや改善が必要なことを考える。	
まとめをしよう	〇単元を通して学んだことや身に付けた力に気付き、達成感を得る。 ・自分や友達の成長したこと、できるようになったことなどを話し合う。 ・単元の活動の写真や感想を掲示にまとめる。	１

③　高等部１年

単元目標（単元を通して育てたい主たる力）
・横手支援学校について知るための活動を通して、自分たちの学校のよさに気付いたり、地域の人たちなどいろいろな人たちに学校のよさを伝えるために自分たちができることを考えて実践したりする。

目標達成につながる主な学習活動や学び方
・「みんなが分かる」をテーマに、学校について知りたいことを調べてまとめ、発信する学習。
・学校について知るために記念誌や学校報を活用したり、関係者へのインタビューをしたりする。
・横手支援学校の伝統「YOSAKOI ソーラン」「いやさか AKITA」を習得し、調べたこととともに地域に発信する。

既習の学習との関連
・文字の読み書き（小・中学校/小・中学部：国語）
・発表の仕方、情報の収集の仕方とまとめ方、コミュニケーション
（小・中学校：国語、社会、総合的な探究の時間　小・中学部：国語、生活単元学習、自立活動）

他教科等との関連
・「自分のことを書こう/メモをとろう」「聞く・話す」「聞いてみよう」「文章で伝えてみよう」（国語）
・横手支援学校の地理的な位置や特徴、自然（社会、理科）
・ダンス（保健体育）
・コミュニケーション（自立活動）

活用する地域資源と本単元での活用の方法
・むつみ幼保連携型認定こども園、近隣高齢者施設
…「YOSAKOI ソーラン」「いやさか AKITA」の披露

本単元の概要
　男子９名、女子３名、計１２名の学年である。中学部から在籍している生徒は８名、中学校から本校に入学した生徒は４名である。学習活動には意欲的に参加しているが、横手支援学校のこと、高等部のことをよく知らないため説明できない生徒が多い。自分たちの学校についてもっと知りたいという様子が見られるので、本校のよさを知った上で伝統を継承し、自分たちで地域に発信しようとする姿を育てたい。

対象生徒	高等部１年	実施時期	１学期～２学期前半
題材　単元名	横手を大きく学ぼう～横手大学 2020～	時数	３５時間

単元計画表

小単元名	小単元の概要（主なねらい、学習活動・場所、学習内容、活用資源など）	実施時期、時数
学校編 ～オリエンテーション～	○学校について自分たちが知りたいことやりたいことを決め、課題を解決する方法を考える。 ・パワーポイントでの説明。自分たちが知りたいことについての話合い活動。	２
学校編 ～歴史、作業学習～	○学校の歴史や高等部の作業学習について調べる内容を話し合って決めたり、調べた内容を分かりやすくまとめたりする。 ・資料を使った調べ学習。関係者へのインタビュー活動。	２４
学校編 ～伝統を受け継ごう～	○本校の伝統「YOSAKOI ソーラン」「いやさか AKITA」を習得する。 ・昨年の踊っている様子をビデオで鑑賞する。 ・役割を決めて、「YOSAKOI ソーラン」「いやさか AKITA」を練習する。	５
学校編 ～発信しよう～	○調べた学校のよさや習得した伝統の踊りを発信する方法を考え、実践する。 ・発信方法についての話合い活動。練習。近隣施設（むつみ幼保連携型認定こども園等）への発信。	４

3　協議の内容

（1）思いを伝え関わる力を育てる視点

①１回目の検討会

各学習グループの単元計画から学部間のつながりを検討した際、気持ちの変化や貢献する相手の変化などに関する意見が多くあり、「思い」「対象の相手」「関わり方」という項目を設定した（図１）。

小学部では、読み聞かせを通し、自分自身が楽しむことや自分なりの方法で相手に伝えることを単元の中心目標としている。また、集団活動の基盤となる場や遊びを共有することも目標の一つである。

中学部では、学部の友達や家族、小学部の児童、近隣のこども園の園児に対しての読み聞かせを通して、一人ひとりが自分の役割を果たし、友達と協力して取り組むことが単元の中心目標である。さらに、読み聞かせが成功するように、楽しんでもらうには何ができるか考えながら取り組む場面も設定した。

高等部では、自分たちが学校のよさに気付き、学校のよさを相手に分かりやすく伝えられるように、自分たちができることを考え、実践することを単元の中心目標としている。また、横手支援学校の伝統を継承するとともに、地域に発信したり、地域のために活動したりする。

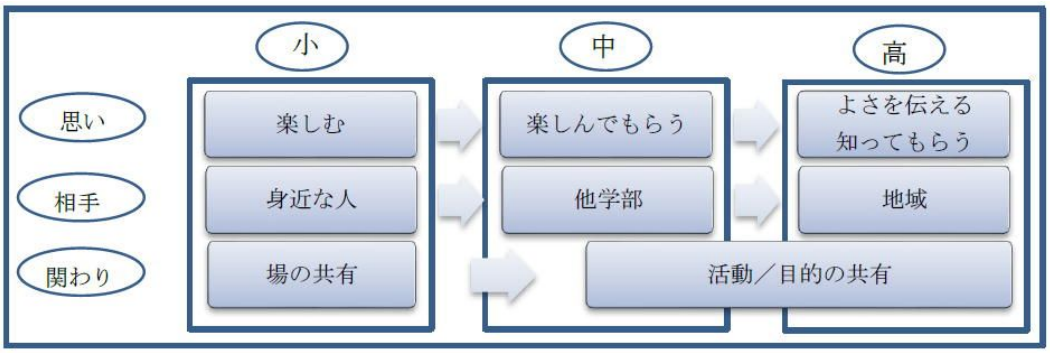


図１　つながり検討シートの意見を集約

②２回目以降の検討会

本グループの中学部３年生が全校授業研究会の授業提示後に行った。前回の検討会で単元構想図から中学部の思いの部分を「楽しんでもらう」と設定したが、授業提示を受け、「楽しんでもらう」という思いの中にも段階があるのではないかと意見が挙がった。そこで、学部ごとに「思い」の項目のキーワードを細分化する協議を行った。

小学部では、活動そのものを楽しむことから始まり、自分の好きなことに夢中になる体験を積み重ねる。その楽しんでいる姿を誰かに見てもらい、楽しんでいることや頑張ったことへの称賛を受けて喜ぶという段階が考えられる。楽しむ中で徐々に周囲の様子が分かるようになると、楽しさを誰かと共有したいという段階につながると考える。

中学部では、「楽しんでもらう」ためには、小学部の自分自身が楽しむことや楽しさを共有したいという段階に加え、相手の気持ちの面も関わってくる。また、自分が楽しいと思うことをともに楽しんでもらうという段階と相手に楽しいと思ってもらえるように努力するという段階が考えられる。相手に楽しんでもらうことを目的とした場合、生徒の実態によって、気持ちの持ち方の目標が変わってくる。そのため楽しんでもらうという共通のゴールがあっても、その中にいくつかの段階が含まれていると考えた。

高等部では、地域のよさを伝えるために地域に関する知識が必要であることが大前提となる。その中で、学校のことを地域に知ってもらうためには、本校の生徒としての誇りや肯定的な自己理解が必要であるという意見が挙がった。学校について学びながら徐々に地域に向けて視野を広げていくことで、様々な視点から学校や地域について考えることができる。また、今回の検討会の中で地域のよさを伝えたり、地域や学校に誇りをもって生活したりすることが地域の一員としての役割を果たすことにつながるのではないかと考え、高等部のキーワードを変更した（図２）。

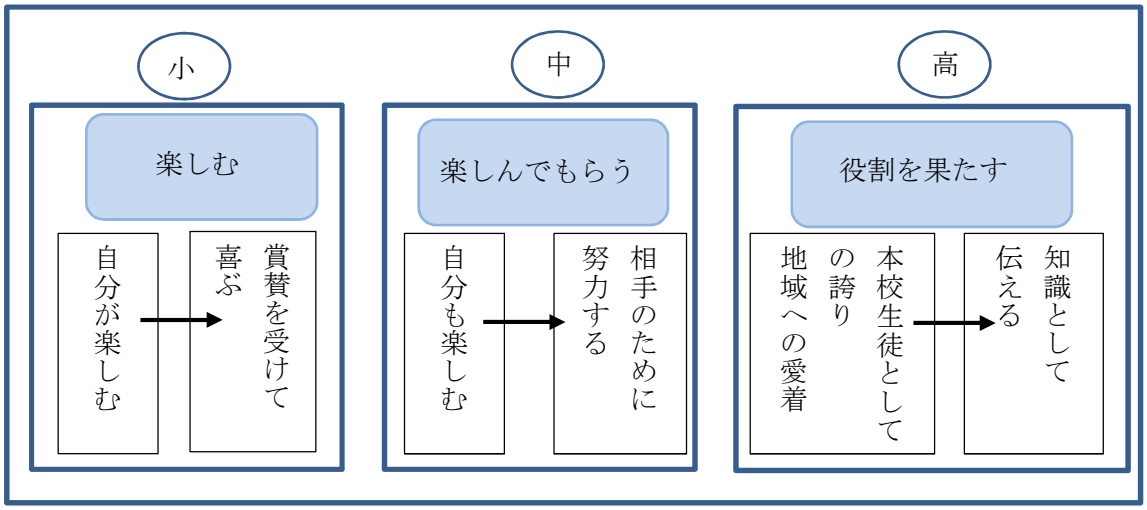


図２　思いの段階の部分を細分化

（２）活動自体のつながり、他学部との学び合いの視点

第１回のワークグループ検討会の際に、グループ内で交流ができるのではないかという意見があった。単元構想図をもとにどのような学習活動において、児童生徒の目標を達成する交流活動ができるのか、学部を超えて話し合った。

小学部１年生と中学部３年生の読み聞かせ活動においては、他学部のために活動をすることや様々な人と関わりを受け入れるなど、相互の目標に関連する部分が多い。小学部の児童がどのような絵本を読んでいるか調べたり、実際に読み聞かせの様子を見たりしながら、楽しんでもらうために必要なことを考える機会にもなる。

交流活動に向けて、小学部１年生の担任が児童に読み聞かせをしている様子を中学部３年生が実際に見学し、読み方や絵本の見せ方を学習した。絵本の選定や読み方の練習など、児童に楽しんでもらうために自分たちにできることを考えながら取り組んだ。

読み聞かせ交流は２回行った。中学部３年生は「小学部１年生のみんなに楽しんでもらえるように」という目標、小学部１年生は「絵本の世界を楽しむ」という目標で実施した。読み聞かせ交流ごとに児童から感想をもらい、中学部３年生は振り返りと次回への改善につなげることができた。

検討会を経て、高等部１年生と中学部３年生の交流も計画に追加することにした。高等部１年生が学校を調べる学習内容には、進路の一つとして本校の高等部進学が考えられる中学部３年生にとっても、知りたい情報が多いのではないかという意見が多くあった。高等部が調べたことを伝えたり、中学部は高等部について上級生に直接質問したりすることができる機会となる。高等部にとっては、学校内での貢献活動にもつながり、学部間のつながりをもつことができる。交流当日、高等部生は調べた内容を中学部生に分かりやすく伝えるために、写真やイラストを使ったり、クイズを出したりした。また、作業学習の内容は実践を含めて説明した。中学部生は事前に上級生に質問したいことを考えて交流に臨んだ。昨年度まで一緒に中学部で学習していた上級生からも質問に答えてもらい、高等部に向けての期待感が高まった。

小学部１年生と高等部１年生の交流も追加した。今年度は特に他学部の人たちと関わる機会が少ないため、小学部の児童は様々な人との関わりを受け入れる経験を重ねる場になった。また、高等部１年生は本校の伝統であるよさこいを学ぶとともに、相手に合わせて発表内容を考え、手振りや身振りを付けて分かりやすく伝える機会となった。交流当日、高等部生がはんてんやはちまきを身に付け、よさこいを披露した。その後、実際に小学部１年生と一緒に踊りながら振付を伝えた。初めはお互い緊張している様子が見られたが、徐々に相手を受け入れて笑顔で交流を終えた。

（３）「（地域のために）貢献する」ことのつながり

今までの話合いで学部の中にも段階があることを共通理解した。そして、学部の段階の中にもスモールステップがあり、活動の目的にも変化があるのではないかという結果になった。今回は、スモールステップとして挙げられたキーワードを細分化し、より詳しい段階となるように話合いをした（表１）。

小学部では、「どのように楽しむか」ということに焦点を当てた。小学部段階では、まず自分自身が楽しむことで活動そのものに関心をもち、身近にいる大人と楽しさを共有する。また、同じ場を共有して楽しんでいる児童が徐々に集団として楽しむことに発展していく。また、高学年の児童が低学年の児童と「一緒に取り組みたい」「教えてあげたい」など、学部の中でも相手を意識する場面が出てくると考える。そのため、低学年と高学年に分けた上で、貢献するというねらいへの目標設定や重点を考える必要がある。

中学部では、「楽しんでもらう」というキーワードを細分化してみると、「一緒に楽しむこと」と「自分が楽しむことよりも相手が楽しむことを目標に努力をすること」のように、捉え方が複数あった。共通することとして、相手が好きなことや得意なこと、苦手なことなど、様々な視点から相手を知ることによって、どうすれば楽しんでもらえるかという考えることができる。小学部とのつながりを考えると、ともに活動することで「楽しかった」と気付く段階から、楽しさを共有する方法を考えるために、相手を知ろうとする段階にステップアップしていくのではないかという意見が出された。

高等部では、「地域の一員として役割を果たす」というキーワードから、前回までの話合いの中で、地域のことを学び、地域の一員として貢献していくことが求められているという意見が多かった。よさを伝えるためには、自分が住む地域のよさを実感していることや本校の生徒であることを肯定的に捉えている必要がある。しかし、特別支援学校へ進学した直後は、自分の進路を受け入れることが難しい状態であることも予想される。また、横手市を中心として広い地域から通学しているため、居住地以外のことについて知らないことも考えられる。そこで、学校のよさを知り、本校の生徒であることへの肯定感が高まることによって、地域の一員という意識が高まると考える。また、地域について、高等部３年間を通して段階的に学ぶことが必要である。生徒の実態に応じて工夫することができる学習段階表や学習例があると、地域とのつながりを意識した学習を展開しやすくなるという意見があった。高等部では、中学部の「相手を知る」という部分に加え、自己理解という内面的な部分へのアプローチも必要になると考える。

表１　貢献につながるキーワードの細分化

小学部	中学部	高等部
一人で楽しむ（個） ↓ 複数人で楽しむ（集団）	・相手を知る ・「ともに（楽しむ）」 楽しかったと実感する ↕ 繰り返し経験する 活動をともにして 「楽しかった」と気付く	１年生 ２年生 ３年生	・学校や地域について調べる ・１年生の学習を深める ・地域に還元する ・地域のために動く

5　全校授業研究会（中学部３年）

（1）育てたい主な力に迫るための手立てと工夫

①　成果

○活動のゴールを明確にし、単元の流れを視覚的に示して学習活動を進めることで、生徒が見通しや期待感をもって活動に取り組む姿が見られた。

○活動量を十分に確保し、それぞれのよさや得意なことを生かせるように活動のグループを分けたことで、自分たちで役割を決めて、その役割を果たそうと進んで取り組む姿が見られた。

○自分の目標を客観的に振り返られるように撮影した動画を見返す時間を設けたことで、自分や友達のよかったことを自分なりの言葉で伝えようとする姿が見られた。

②　課題

●「小学部１年生に楽しんでもらうためのポイント」として、声の大きさや話す速さ、間の取り方、抑揚の付け方などを提示したが、言葉と具体的な行動を関連付けてイメージすることが難しい生徒がおり、振り返りでの自己評価に戸惑う生徒がいた。

●「やってみてどうだったか」という具体性に欠ける発問により、生徒が答えに詰まる場面があった。「何が」「どのように」「できたか」「できなかったか」など生徒の実態に応じた発問の内容を考える必要があった。

●読み聞かせの練習をする際に、読み聞かせをする生徒の前に誰もいなかったため、読み聞かせをする相手の写真を置いたり、他のグループの生徒に目の前で聞いてもらったりして本番のイメージをもって練習できる環境を整える必要があった。

●活動してから評価までの間に時間があり、時間が経ってから振り返ることが難しい生徒がいた。

③　授業改善の実際

本単元の次の単元では、むつみ幼保連携型認定こども園の園児（年中組）と読み聞かせ交流会を実施した。この単元では、本単元の課題をもとに以下の点を改善して授業づくりに取り組んだ。

・間の取り方、抑揚の付け方などを具体的にイメージできるように、教師が実際に見本を示した。句読点で言葉を句切りながら話すこと、登場人物の心情を踏まえて小さい声で読んだり、大きい声で読んだりすることなどを確認しながら練習した

・本番を意識して練習できるように、練習の場所を教室から食堂に変更し、長机やホワイトボードに暗幕を付け、本番と同じ環境を設定して練習をした。また、練習の際は、相手を意識できるように、読み聞かせを聞くグループが仮のお客さん役として読み聞かせをするグループの前に座って発表を聞くようにした。

・どの部分に気を付けて練習すればよいか意識できるように、グループごとに相談して実態に応じた評価項目を設定した。また、評価の場面を発表後すぐに設定し、評価項目に基づいて「できたか」「できなかったか」「次はどのようにしたらよいか」などを発問した。

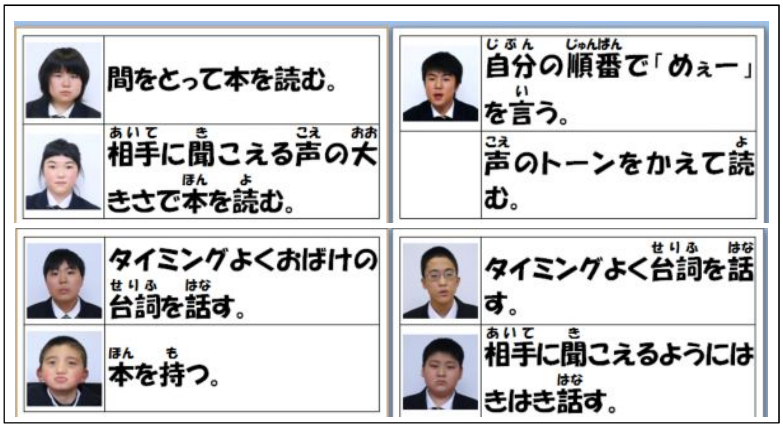
（２）授業者所感

中学部３年生は人前での発表に苦手意識がある生徒が多く、読み聞かせを始めた頃は声が小さかったり、うつむいたりして活動に消極的な様子が見られていた。しかし、何のためにこの活動に取り組んでいるのか単元のゴールを明確にしながら様々な相手に読み聞かせを行い、成功や失敗を繰り返す中で少しずつ自信をもって活動できるようになってきた。練習の際には、読み聞かせを聞くグループの生徒たちが読み聞かせをしたグループに自然と拍手をするようになるなど、活動を共有する中で共通のゴールに向かってお互いを認め合う姿が見られるようになってきた。また、読み聞かせの相手が真剣な表情で身を乗り出すようにして話を聞いたりしてくれたこと、「楽しかった」と感想を言ってもらったことで、生徒たちの達成感や満足感につながった。

本単元の授業作りを通して、発問内容の精選や具体的な評価規準の設定が重要であることを改めて感じた。授業の中で生徒が何を学ぶのか理解できるように具体的な目標を立て、授業を通して何ができるようになったのか的確に振り返られるように明確な評価規準を設定し、生徒が分かってできる状況作りを大切にした授業作りをしていきたい。

小学部１年生が楽しめるためのポイント

本の内容	同じような場面の繰り返しがある。 読む人と聞く人のやりとりができる。（かけ声、クイズ） ストーリーがある。 絵や音が楽しめる。 仕掛けがある。（めくり、飛び出し） 短いお話
本の読み方	相手に聞こえる大きさで話す。（声の大きさ） ゆっくり話す。（話す速さ） 抑揚をつける。（声の大きさをかえる） 間をとる。 声のトーンをかえる。（せりふ） 聞く人を見て話す。（目線） 笑顔で話す。 タイミングよく話す。



（３）全校授業研究会における協議内容

協議題

「読み聞かせや発表活動などで『相手を意識して、伝える、行動する』について、各学部段階における留意点や要点とは何か」

授業を参観した職員を５～６名の小グループに分け、協議題について話し合いを行った。各グループでの協議内容を抜粋して、以下の図３、図４に示す。

年齢段階	留意点	関わる相手
小学部低学年	・関わる「相手」の具体化 （顔写真やビデオなど） ・身近な人を対象にする	クラスメイト→小集団（低学年合同）→家族
小学部高学年	・「相手」からの評価 ・「相手」を自分で選択する	クラスメイト→小集団→学部全体
中学部	・伝えるスキルを身に付ける ・自分なりの表現を身に付ける	小集団、学部→異なる学部、校内
高等部	・「伝えたいこと」の具体化 ・自分は何を伝えたいか知る	小集団→学部→他学部 ↓ 地域（不特定多数）、他校

相手の広がり

普段の関わりの積み重ねが重要

図３　「相手」の発展性（グループＢ）

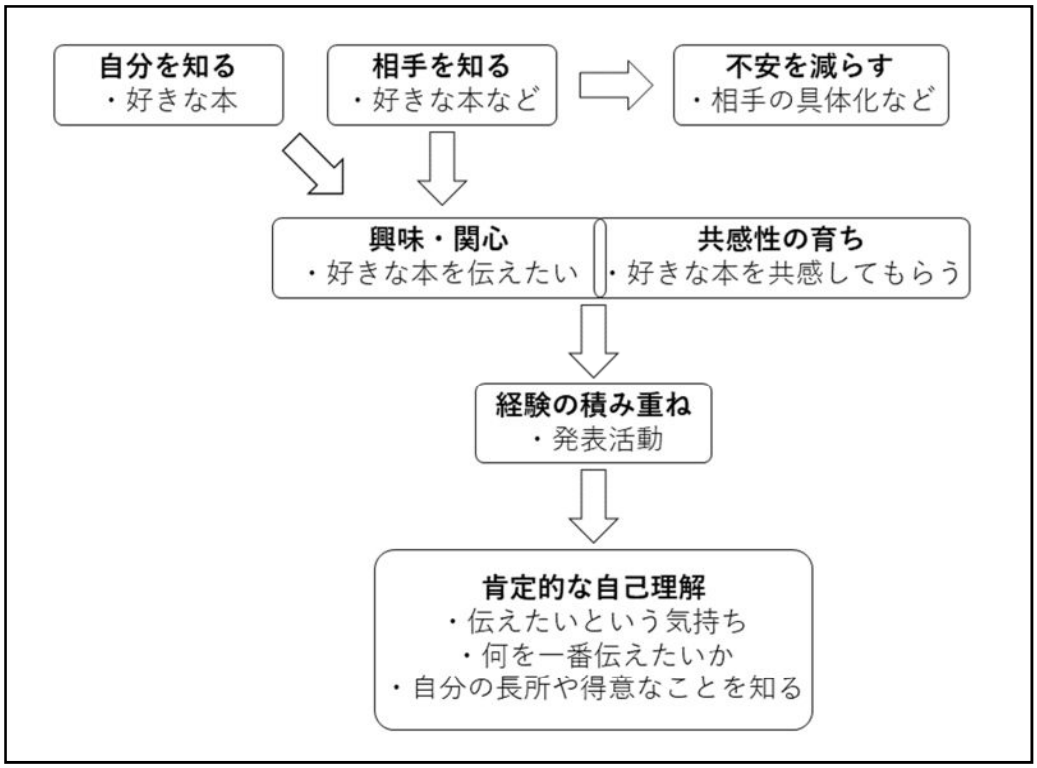


図４　読み聞かせの学習を通した気持ちの育ち（グループＤ）

中学部　第３学年　生活単元学習　学習指導案

日　時：令和２年９月１８日（金）１０：２５～１１：１５
場　所：小・中学部校舎　３年１組教室
指導者：佐々木詠吏（T1）今野洋美（T2）瀬戸実枝子（T3）
鈴木里美（T4）小椋トモ子（T5）

１　単元名　「チャレンジ we can！～本って楽しいなＰＡＲＴ５～」

２　目標

(1)小学部１年生が楽しめる読み聞かせの方法を知る。　知　技
(2)自分の気持ちや考えを伝えたり、相手の気持ちや考えを聞いたりしながら準備や読み聞かせの練習をする。思判表
(3)自分の役割を果たしたり、友達と協力したりしながら準備や読み聞かせをする。学　人

３　生徒と単元について

(1) 生徒観

本学年は男子４人、女子４人の学習集団である。移動面やコミュニケーション面での実態は様々である。普段と異なる学習集団では自分の気持ちや考えを伝えることに消極的な様子が見られるが、仲のよい友達や教師など特定の人間関係の中でのやり取りは活発である。また、読書が好きな生徒が多く、休み時間などに自分の好きな本を読んで過ごす姿が見られている。本校で取り組んでいる読書月間や国語科の学習を通して幅広く読書に親しんできている。

本学年は、多様な相手とも気持ちを伝え合いながら協力して活動することをねらい、学年合同で、本の読み聞かせや野菜の栽培、学年レクリエーションの企画などに取り組んでいる。気持ちがうまく伝わらず友達への口調が強くなったり、自分の意見を押し通そうしたりすることがあるが、移動に時間がかかる友達に手を貸したり、集団での学習が苦手な友達に優しく言葉を掛けて誘ったりするなど友達や周りを意識した行動が少しずつ見られるようになってきている。

(2) 単元観

「本の読み聞かせ」は、集会や行事で上級生やボランティアの方々などから行ってもらったことがあり、生徒たちにとってなじみのある活動である。また、生徒たち自身も学部集会で本の読み聞かせをしたことがあり、これまでの経験から活動へのイメージをもちやすい。本の内容や読み聞かせの方法、役割分担の話合い、練習、発表など一連の活動を通して、将来の社会生活に必要となる他者と適切に関わる力や協調性、自分の役割に責任をもって取り組む態度を身に付けることにつながる活動であると考え、今年度取り組むこととした。

これまでの単元では、訪問教育対象の生徒や中学部の下学年の生徒、保護者など身近な相手に読み聞かせをしてきた。読み聞かせに取り組んだ当初は、緊張や不安から発表の際に声が小さくなったり、うつむいたりすることがあった。そのため、発表への心理的な負担感を減らし、自分にもできるという気持ちで取り組めるように、文章や項数の少ない本を全員で役割分担することで、それぞれの役割を果たし、自信をもって活動するようになってきた。

本単元では、小学部１年生を対象に本の読み聞かせを行う。本単元以降にむつみ幼保連携型認定こども園の園児に読み聞かせを行う予定があり、小学部１年生は年齢が近く、国語科の授業で本の読み聞かせに取り組んでいることから読み聞かせの対象として設定した。学習を進める際は、小学部１年生が本の読み聞かせの学習を行っている様子を実際に見学し、どのような本であれば小学部１年生が楽しめるか、どのような読み方で教師が読み聞かせをしていたかなどを整理していく。また、一人一人の活動量を十分に確保し、それぞれのよさや得意なことを生かせるように、生徒の希望を取り入れたグループに分かれて読み聞かせの練習や発表を行う。「小学部１年生が楽しめる」を目標に、本の内容について意見交換して決めたり、読み聞かせの方法を試行錯誤したりすることで、関わる相手を意識して友達と協力しながら活動する姿を目指したい。また、小学部１年生が読み聞かせを楽しむ姿を目にすることで、自分たちの活動に対する達成感を得て「次は○○してみよう」「○○したらうまくできそう」など失敗を恐れずに最後まで取り組もうとする態度を育てたい。

(3) 指導観

小学部１年生が楽しめる読み聞かせの方法を知るために

・小学部１年生が読んでいる本を調べたり、実際の読み聞かせをしている場面を見学したりする機会を設定する。
・小学部１年生に読み聞かせを披露し、反応や感想を受け、自分たちで振り返る機会を設定する。

気持ちや考えを伝え合いながら活動するために
・生徒の発言や行動から気持ちや考えを汲み取って、伝えたいことを整理したり、代弁したりして他の生徒との共通理解を図る。
・何をどのように伝えるか、発表のポイントを示したり、選択肢を提示したりして、安心して意見を言い合える雰囲気づくりをする。
自分の役割を果たしたり、友達と協力したりしながら活動するために
・生徒同士で役割について話し合い、自分の果たす役割を選択する機会を設定する
・協力についての具体的な行動を示し、協力して活動している場面が見られたときは称賛する。

４　指導計画（総時数２３時間）

小単元名	主なねらい	活動内容	ねらいに迫るための学び方	時間
1　読み聞かせの相手を知ろう	・本単元の目的や内容を知り、活動への見通しをもつ。知　技	・教師の説明を聞き、活動内容を知る。 ・小学部１年生が読み聞かせを聞いている様子を見学する。	主 対	２時間
2　読み聞かせをする本を決めよう	・「小学部１年生が楽しめる」をテーマに話し合い、読み聞かせの本を決める。思判表	・どのような本であれば楽しめるか、ポイントを考える。 ・ポイントに沿って本を探し、読み聞かせの本を決める。	対 深	20 時間 本時 19/23 ※2～5を10 時間×2回行う
3　読み聞かせの仕方を考えよう	・「小学部１年生が楽しめる」をテーマに話し合い、読み聞かせの方法を決める。思判表	・グループに分かれ、お互いのよさを生かした役割分担や読み聞かせの方法を考える。	対 深	
4　読み聞かせの練習をしよう	・自分たちが考えた読み聞かせの方法を試し、よかったことや次に頑張ることを考える。思判表	・教師がどのような読み方で読み聞かせをしていたか、ポイントを考える。 ・ポイントに沿って読み聞かせの練習をする。	対 深	
5　小学部１年生に読み聞かせをしよう ※１回目　9/9 ２回目　9/25	・小学部１年生が楽しめるように本の読み聞かせをする。学　人	・小学部１年生に読み聞かせをする。 ・読み聞かせを振り返り、よかったことや次に頑張ることを考える。	主 対	
6　読み聞かせの振り返りをしよう	・自分や友達ができるようになったことに気付き、達成感を得る。学　人	・単元の活動を写真やコメントを載せた掲示物にまとめる。	主 対	１時間

○本単元と他教科等との関連（中学部）

国語	・発声や発音に気を付けたり、声の大きさを調節したりして話す。 ・内容の大体を意識しながら音読する。 ・自分の意見やその理由について、内容の大体が伝わるように伝える順序や伝え方を考える。 ・簡単な文や文章を読み、情景や場面の様子、登場人物の心情などを想像する。 ・相手の話に関心をもち、分かったことや感じたことを伝え合い、考えをもつ。
社会	・自分の意見を述べたり相手の意見を聞いたりするなど、集団生活の中での役割を果たすための知識や技能を身に付ける。 ・集団生活の中で必要なことに気付き、自分の役割を考え、表現する。
職業・家庭	・意欲や見通しをもって取り組み、自分と他者との関係や役割について考える。 ・活動に達成感を得て進んで取り組む。

５　本時の計画

(1)本時の目標

・グループでの自分の役割を果たして、読み聞かせの練習をする。知　技　学　人

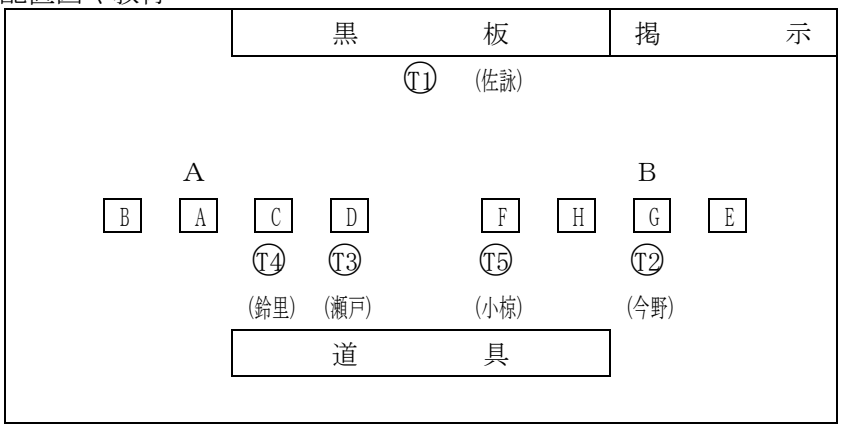
・読み聞かせの練習を振り返り、自分の目標が達成できたかを発表する。思判表

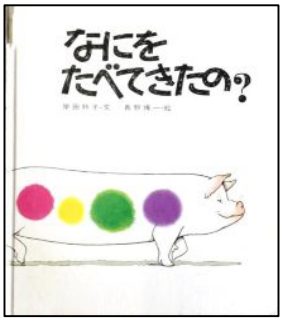
(2)個別の目標

№.	グループ	生徒名	本時の主たる目標（期待する具体的な学びの姿）	評価
1	A	A	・相手に聞こえる声の大きさで間をとりながら台本を読む。知技 ・自分の声の大きさがどうだったか、声色を変えて読むために気を付けたことなどを発表する。思判表	
2		B	・相手に聞こえる声の大きさで抑揚をつけて台本を読む。知　技 ・自分の声の大きさがどうだったか、抑揚をつけて読むために気を付けたことなどを発表する。思判表	
3		C	・スイッチを押して、絵本の画像を見せる。知　技	
4		D	・相手に聞こえる声の大きさでタイミングを合わせて自分のせりふを話す。知　技 ・タイミングよくせりふを話すことができた場面やそのために気を付けたことを簡単な言葉で話す。思判表	
5	B	E	・相手に聞き取りやすい速さで抑揚をつけて台本を読む。知　技 ・前回の練習の時と比べて、声の大きさや聞き取りやすさはどうだったかなど気付いたことを発表する。思判表	
6		F	・タイミングを合わせて絵カードを見せたり、自分のせりふを話したりする。知　技	
7		G	・自分で決めた役割の本のめくりをしたり、友達と一緒に文章やせりふを話したりする。知　技 ・本のめくりや自分のせりふを話すことの中から自分ができたことを選択肢から選ぶ。思判表	
8		H	・友達が話すせりふや本をめくるタイミングに合わせて台本を読む。知　技 ・タイミングを合わせたり、間をとったりするために気を付けたことを選択肢ごとに評価して発表する。思判表	

評価について：○本時の目標に迫っている　　△：支援、手立ての改善が必要である

(3)配置図や教材





教材１『なにをたべてきたの？』

教材２『どうぞのいす』

(4)展開

段階	学習活動	指導上の手立て（○）、主・対・深に係る手立て（◇）	準備物
導　入 (5 分)	1　本時のねらいや活動を知る。	◇活動の目的を思い出せるように、小学部１年生の顔写真を示して、小学部１年生が「笑顔になる」「拍手をする」「楽しかったと言う」「また聞きたいと言う」ことが活動のゴールであることをカードを示して説明する。主(T1)	顔写真カード カード
	〈本時のめあて〉小学部１年生が楽しめるように読み聞かせの練習をしよう。		
		◇これまでに学んだことを本時の学習に生かせるように、「小学部１年生が楽しめるためのポイント」の本の読み方や前時の学習で考えた本時の個人目標を掲示する。主(T1)	ポイント表 個人目標カード
展　開 (40 分)	2　読み聞かせの練習をする。 ※Ａグループ 『なにをたべてきたの？』 Ｂグループ 『どうぞのいす』	◇Ｅ、Ｈ、Ａ、Ｂが個人目標を意識して練習するように、「今日の目標は○○ですね」と練習の前に言葉掛けをする。主(T1、T2) ◇Ｄがタイミングよくせりふを話せるように、せりふを話すタイミングに合わせてせりふカードを提示する。主(T3) ◇Ｃがスイッチを押せるように、順番が来たら「スイッチを押すよ」と言葉を掛け、スイッチを近付ける。主(T4) ◇Ｆがタイミングよく話せるように、順番が近づいたら「○○の次に話すよ」と言葉掛けをしたり、せりふの最初の部分を一緒に話したりする。主(T5)	個人目標カード せりふカード テレビ スイッチ タブレット
	3　自分や友達の目標が達成できたかグループで話し合う。	◇自分の目標が達成できたか客観的に振り返られるように、撮影した動画を見返す。また、大事な場面を繰り返し見せたり、「○○の場面の読み方はどうですか」と問い掛けたりする。対(T1、T2) ◇生徒同士でお互いの考えを共通理解するように「これは○○ということですか」と問い掛けて発言の内容を整理する。対(T1、T2)	タブレット タブレット
	4　自分や友達の目標が達成できたか発表する。 ※２～４をＡグループ、Ｂグループの順番で繰り返す。	◇Ｅ、Ｈ、Ａ、Ｂが自分の目標を達成できたか具体的に発表するように、目標の達成状況を問い掛け、「うまくやるためにどんなことに気を付けましたか」「なぜうまくいかなかったのですか」と原因についても問い掛ける。対 深(T1) ◇Ｇ、Ｄが自分の目標を達成できたか発表するように、「どの場面でできましたか」と具体的な場面を選択肢を示しながら問い掛ける。対(T2、T3) ○Ｆ、Ｃが自分の目標を達成できたか発表する際、実際に披露する機会を設ける。(T4、T5) ◇自分の評価と他者からの評価にずれがないか確認できるように、発表者以外にも意見を聞く。対(T1) ○友達の目標が達成できたかどうかを発表する際は、どうすればよいかもっとよくなる点について話すように伝える。(T1)	
まとめ (5 分)	5　本時で学習したことを振り返る。	○本時で学習をしたことを理解できるように、生徒が発表した内容をもとに、よかったことを称賛したり、次に頑張ることを具体的に示したりする。また、生徒が気付かなかった部分についても取り上げて称賛したり、励ましたりする。 ○次時の学習に意欲をもてるように、読み聞かせの期日を伝え、自信をもって臨むように言葉掛けをする。	

(5)評価の観点

生徒	・読み聞かせの練習で自分の役割を果たし、振り返りで自分のよかったこと、次に頑張ることを発表することができたか。
教師	・生徒が自分の役割が分かって練習するための教材や手立てが適切であったか。 ・生徒が読み聞かせの練習を適切に振り返るための教材や発問が効果的であったか。

参考資料

資料1

横手支援学校 「横手が舞台」学習の段階表

令和2年度作成

学校教育目標

一人一人の能力や特性を伸ばす教育活動を推進し、自立と社会参加を目指して、たくましく生きる児童生徒を育成する。

目指す児童生徒像

①明るく　健康で　心豊かな明るい児童生徒
②仲良く　協調性に富み　社会性豊かな児童生徒
③元気よく　自ら意欲をもって働く児童生徒

各要素ごとの学び方・目標への迫り方

「横手が舞台」キーワード

高等部：高め合う
中学部：かかわる
小学部：ふれる

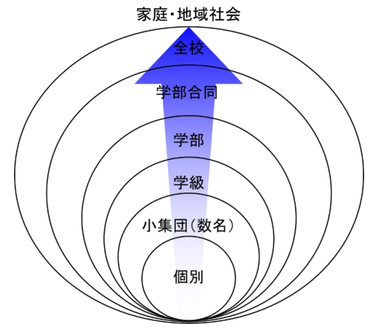
地域資源を活用した授業の目標

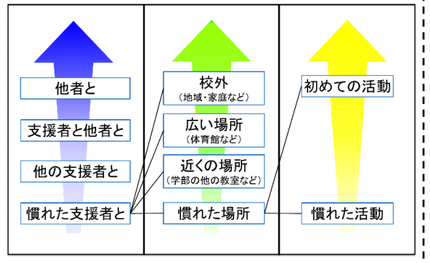
役割：友達と分担したり協力したりしながら、活動する。
自分の役割を理解して活動する。
自分のやりたいことを見つけ、精一杯取り組む。

関わり：地域の方などと自分から関わる。
地域の方などとの適切な関わり方が分かる。
自分なりの関わり方で地域の方と関わる。
地域の方からの働きかけを受け入れる。

	（地域のことを）知る	（地域について）発信する	（地域のために）貢献する
高等部	**横手について知る** ・伝統や風習 ・どう守るか、どう担うか 地域の一員としてできることは何か	**地域や学校の良さを伝える** 発信する手段（SNS、新聞など） 肯定的な自己理解 郷土愛　・学校への誇り	**地域の一員として役割を果たす** ・肯定的な自己理解 ・郷土愛　・学校への誇り
	「横手のいいとこ調べ隊」 ・横手平鹿地区の観光、果樹、特産品、偉人などの調べ学習 ・特徴を伝えるための情報収集 ・オリジナルパンフレット作成と配付	・横手の発酵文化について、調べたことを発表 ・修学旅行を通して秋田の魅力を発見し、他校生徒へ発表 ・考案した発行レシピをホームページで発信	「横手を大きく学ぼう」 ・学校の歴史や伝統、高等部作業学習について調べ学習 ・中学部3年生への高等部紹介 ・小学部1年生とのよさこい交流 ・増田の歴史的建造物見学 ・十文字の伝統工芸体験
中学部	**居住地について知る** 近隣の人の生活に目を向ける 地域の一員であることを知る	**相手を意識して伝える** 相手に合った伝え方 相手に寄り添う **学んだことを伝える** 正しい伝え方 学習内容の理解	**相手に喜んでもらう** 相手を知り、ともに実感する ともに活動する楽しさに気付く
	「横手いいとこ発見隊」 ・地域の特徴調べや体験（観光施設等の場所、食べ物、祭りなど） ・調べたことをまとめたオリジナルマップ、クイズ、新聞等の作成、発表 ・地域の特徴的な食べ物の調理、試食	「横手が舞台報告会」 ・横手の食べ物、野菜についての調べ学習 ・学級ごとに調べた内容を発表 ・伝え方を考えた発表内容や練習 ・様々な発表方法（クイズや新聞形式）	「チャレンジ we can！ ～本って楽しいなPART5～」 ・本校小学部1年生、むつみ保育園の園児への読み聞かせ交流 「目指せ高等部 ～先輩に聞いてみよう～」 ・高等部について高等部1年生から聞いたり、質問したりする交流
小学部 高学年	**身近な人について知る**	**伝わる楽しさを味わう** 伝え方を知る 伝わる喜びをたくさん積む	**一緒に楽しむ** 一緒に活動する楽しさを味わう
		「わくわくテレビで伝えよう」 ・テレビ番組づくり、放映 ・生放送での発信 ・校外学習（ブドウ狩り） ・校内のTへインタビュー	
小学部 低学年	**楽しさを知る（体験し、実感する）** 作る、見る、親しむ、食べる	**かかわりを楽しむ**	**自分が楽しむ** 活動自体を楽しむ
	「わくわくたんけんたい」 ・交通安全 ・地域マップづくり ・公共施設の利用の仕方 ・約束やきまり	・校外学習（図書館、給食センター、りんごがり） ・読み聞かせ（聞く、発表する）	「おはなしだいすき」 ・絵本の読み聞かせ ・登場人物になりきる ・ペープサートを操作しての表現活動 ・身近な人にみてもらう活動 ・友達と関わって表現を楽しむ

学習の広がり、参加の広がり





※ □ 内は令和2年度に実施した学習の一例

資料２

単元構想図記入の手引

単元目標（単元を通して育てたい主たる力）
・「思いを伝え、主体的に人と関わる」力に関連する単元の目標、ねらい

目標達成につながる主な学習活動や学び方
・育てたい力に迫るための主な学習活動（ex:〇〇の活動でがんばったことを、〇〇に手紙で伝えるため要点を整理して文章にまとめる学習）や学び方（ex:友達の発表の様子から、自分が取り入れたい良い点を見つけ、自分の発表に取り入れる）をできるだけ具体的に記入する。

既習の学習との関連
・本単元で活用するこれまでの知識、技能や学びを記入する。
・「活用する既習の学び」（教科名、履修学部）
・ex:「経験したことから、伝えたい内容の順序を考える」（国語、小学部）

他教科との関連
・今年度の他教科領域での学習との関連
・「関連する学習」（教科領域名、実施時期）

活用する地域資源と本単元での活用の方法
・ex:横手市立〇〇学校…お互いの学習の様子や自分たちの頑張りをビデオレターで伝える。それぞれが考える横手の魅力をお互いに伝え合う。

本単元の概要
・簡単な実態　・これまでの学習の様子　・主な学習展開など

対象児童生徒		実施時期	
題材　単元名		時数	〇時間

単元計画表

小単元名	小単元の概要（主なねらい、学習活動・場所、学習内容、活用資源など）	実施時期、時数
	〇主なねらい ・そのほか箇条書きで	

〇単元構想図作成の目的
今年度研究は３学部のつながりを意識した単元作りの研究です。①単元実施の目的や意義を明確にすること②ワークグループでの検討の際の視点となる情報を整理し、話合いがスムーズにできることを目的として、この単元構想図を作成します。

〇単元を通して育てたい主たる力（単元目標）
何のためにこの単元を実施するのか（今年は特に、何のために地域資源を活用した単元を実施するのか）、どんな力を付けたいのかということを明確にした目標設定をお願いします。「毎年交流している活動だから、今年も」という活動ありきの考え方ではなく、「こんな力を付けたいから、この単元を組むんだ！」という意気込みでの目標設定をお願いします。

〇目標達成につながる主な学習活動や学び方
設定した目標を達成するために単元を進めていくことになりますが、どのような学習活動や学び方を通して、目標を達成させるか、育てたい力を身に付けさせるのかを具体的に記入してください。ハイライトとなる学習活動とその学び方を抜き出してください。学び方については、新学習指導要領と関連付けて「主体的、対話的で深い学び」についても考慮してください。

〇既習の学習との関連
単元を実施する上で、これまでに学んできた学習内容や学びをベースにして学習を組み立てていくと思います。この単元で児童生徒が活用する既習の内容について記入します。実際に過年度の学習の中から抜き出してもいいですし、学習指導要領の目標・内容から抜粋しても構いません。また、実際には学んでこなかったが、学んでおいたら良かったという学習についても記入してください（この場合、文頭に●を付けます）。この項目は学部間の学習内容のつながりを検討する際の資料になります。

〇他教科等との関連
他教科等で学んだ学びを本単元で活用する、本単元で学んだことを他教科で生かす等、教科間の関連を教科横断的に見るための項目です。今年度の関連について記入してください。「既習の学習との関連」項目と内容が類似の項目になりますが、１年間の指導計画の中での本単元の位置付けを見通すことが目的の項目になります。つながりの検討では学習内容や実施時期の検討項目になります。

〇活用する地域資源と活用の方法
本単元で活用する地域資源とその資源をどのように活用するかについて記入してください。こちらも学部間のつながりを検討する際の指標となります。複数の資源を活用する、様々な活用の方法がある場合は複数書いていただいてもいいですが、主な資源や活用方法に絞って書いていただいてもかまいません。

〇単元計画表
各小単元の内容を記入します。主なねらいを一つ、そのほか小単元の内容を箇条書きなどで簡潔に示してください。実施時期は「９月下旬」など大まか時期でかまいません。

A4 一枚（表面）の想定で様式を作成していますが、無理に一枚にまとめようとせず、裏面まで増えてもかまいません。

資料３　令和２年度　横手支援学校地域資源 BANK　〈本校で活用している地域資源一覧〉

	人 【個人、グループ等を活用した学習】	施設 【施設を活用した学習】	文化 【イベント、祭り等への参加型の学習】	社会 【保育園、学校等との交流及び共同学習】	社会 【企業、福祉と連携した学習】
小学部	・れんげ草の会〈読み聞かせ、ありがとうの会への招待〉：国語、自立活動、生単 ・お話大好きの会〈読み聞かせ〉：国語、自立活動 ・地域ボランティア日沼さん〈音楽療法〉：音楽 ・横手清陵学院栄養教諭〈給食について説明〉：生単 ・地域ボランティア松本さん〈山内いものこ栽培収穫体験〉：生単	・ローソン横手仁坂店〈買い物学習〉：生単 ・横手図書館〈施設利用、読み聞かせ〉：生単 ・横手清陵学院〈給食について説明と見学〉：生単	・ひまわりプロジェクト〈浅舞小交流〉：生単 ・横耀雪まつり〈ミニかまくら作り、中学部生徒からのかまくらでのおもてなし、高等部生徒と雪遊び〉：遊びの指導 ・地域の自然〈季節の遊び、花や草木、虫等の観察〉：生単	・旭小学校、吉田小学校〈学校間交流〉：特別活動 ・横手南小学校、横手北小学校、朝倉小学校、大雄小学校、十文字第一小学校、旭小学校、栄小学校、増田小学校、湯沢市立三関学校〈居住地校交流〉：特別活動、音楽、体育、図画工作、家庭	
中学部	・地域ボランティア小西さん、大塚さん、井上さん〈ミニかまくら作り〉：総合的な学習の時間 ・地域ボランティア高田さん、青谷さん〈かまくら作り〉：生単、総合的な学習の時間 ・地域ボランティア赤穂さん〈読み聞かせ〉：国語 ・お話大すきの会〈読み聞かせ〉：国語 ・地域ボランティア松本さん〈山内いものこ栽培収穫体験〉：作業学習	・羽後交通〈路線バス〉、JR〈公共機関利用〉：生単 ・イオンスーパーセンター横手南店、グランマート婦気店〈買い物学習〉：生単 ・AX 横手店：生単 ・秋田ふるさと村、近代美術館〈施設利用〉：生単、美術 ・横手図書館、雄物川図書館〈施設利用、読み聞かせ〉：国語、生単 ・横手公園〈清掃活動〉：総合的な学習の時間	・職業教育フェア等〈作業製品販売・展示〉：作業学習 ・かまくらまつり〈ミニかまくら制作、かまくら制作、おもてなし〉：総合的な学習 ・種苗交換会〈作業学習製品販売〉：作業学習	・横手北中学校、太陽の園、秋田ふるさと村〈朝顔の苗植え交流〉：総合的な学習 ・横手南中学校、横手北中学校、増田中学校〈特別支援学級との交流〉：特別活動 ・増田中学校〈居住地校交流〉：特別活動 ・むつみ保育園〈読み聞かせ〉：生単	・秋田ふるさと村、むつみ造園〈朝顔の世話〉：作業学習 ・イオンスーパーセンター横手南店〈交流活動〉：生単 ・七兵衛〈横手やきそば〉：生単 ・新山食品加工〈発酵食品〉：生単
高等部	・浅舞絞りクラブ〈作業学習技術指導〉：作業学習 ・お話大すきの会〈読み聞かせ〉：国語 ・よこて発酵文化研究所〈技術指導〉：生活単元学習 ・地域ボランティア松本さん〈山内いものこ栽培収穫体験〉：作業学習 ・横手市社会福祉協議会〈老人介護体験〉：家庭	・増田まんが美術館〈施設利用〉：生単 ・増田の蔵〈施設利用〉：生単 ・羽後交通〈路線バス利用〉：家庭 ・よねやハッピーモール店、ホームセンターハッピー横手店〈買い物学習〉：家庭、生単 ・クリーンプラザ横手〈施設見学〉：家庭 ・和幸デイサービスセンター、霞桜の湯〈ちらしボックス贈呈〉：職業 ・園芸振興拠点センター〈施設見学〉：作業学習 ・秋田近代美術館〈施設利用、絵画等鑑賞〉：美術、部活動	・種苗交換会〈作業製品販売・展示〉：作業学習	・横手城南高校〈よさこい交流〉：総合的な探究の時間	・ウッディ山内、ウッディいのおか、ルピナス、品川合成等〈職場見学、体験〉：職業、作業学習 ・菅与、浅舞酒造、日の丸酒造、バルバサポルテ、和幸、厚生ビル管理〈定期的企業作業体験〉：作業学習 ・ハローワーク、就業・生活支援センター、障害者職業センター〈職場見学等〉：職業 ・あいなび、康寿館、細川農園〈職場見学〉：職業

・地域資源の名称〈活用している主な学習活動〉：活用している指導の形態

あ　と　が　き

今年度本校では、昨年度までの研究の成果を踏まえ、「『横手が舞台』学部間のつながりのある、地域資源を活用した学習の単元づくり　～思いを伝え、人と関わる力の育成に注目して～」を新たな研究主題として研究を進めてきました。

地域資源を活用した学習活動については、これまでも各学部や各学習グループにおいて様々な形で実施されてきたものです。しかし、活動の内容やその目標については、多くの場合、学部内での共通理解にとどまり、学部間の活動の連続性や児童生徒の発達段階に応じた目標の設定という点においては十分に検討されてこなかったという実情があります。また「自分の思いを適切に伝え、人と関わる力」については、本校の目指す児童生徒像の一つである「協調性に富み、社会性豊かな児童生徒」の育成を図る上で重要な力ですが、これまでの学校評価等の結果から、本校の課題の一つであることが明らかとなっています。これらのことを踏まえ、今年度は研究対象を生活単元学習とし、全校一丸となって研究を推進してきました。

研究の具体として、各学部の学習グループにおいて「思いを伝え、人と関わる力」に注目した目標設定や目標に迫るための学習活動や学び方、活用する地域資源とその活用方法などを十分に検討しながら単元の構想を行いました。また、それぞれの学部及び学習グループでの単元構想を学部間のつながりという視点で捉えるために、これまで実施してきた学部単位の研究ではなく、新たな試みとして３学部の職員による三つの「縦割りワークグループ」を編成し、ワークグループ内での検討会を通して研究を積み重ねました。さらに年間３回の全校授業研究会を通して、学部間のつながりの中での授業の位置付けを全校職員が見通すことができるよう工夫をしました。

今後、今年度の実践の成果と課題を明らかにした上で、次年度は作業学習や総合的な学習（探究）の時間など、各教科等で行われている地域資源を活用した学習について実施内容、実施時期、ねらいの段階などを学校全体の教育課程の中で検討し、教科横断的な教育課程の編成を目指していきます。また「横手を舞台」とした地域に開かれた教育課程を編成し、教育活動の一層の充実に努めていく所存です。

最後になりましたが、本研究を進めるにあたり、秋田県教育庁特別支援教育課指導主事の皆様、また、全校授業研究会に御参加いただいた県内特別支援学校の皆様からもたくさんの御意見を頂戴し、授業づくり、授業改善に生かすことができました。誠にありがとうございました。併せて、本紀要を御高覧いただきました皆様より忌憚のない御意見・御指導をいただきますようお願い申し上げます。

教頭　　佐々木　誠

研究に携わった職員（令和２年度）

校　長　　松　井　克　彦　　教　頭　　熊　谷　　司　　教　頭　　佐々木　　誠

事務長　　富　樫　一　男　　教育専門監　菅 原　咲希子

（小学部）

谷　口　和　江
岸　　英　子
熊　谷　淳　晴
高　山　知　子
照　井　聖　子
佐　藤　深　雪
堅　持　夕　子
大　川　浩　平（研究主任）
佐々木　麗　子（研究部）
森　　愛　子
小　西　美　穂（研究部）
菅　　優　子
髙　橋　由　衣
高　橋　裕　子
高　橋　　栞
遠　藤　千愛美
高　井　哉　子
守　屋　充　敬
佐　藤　潤　也
鈴　木　圭　太
小　野　敬　子

（中学部）

時　田　　航
高　橋　知希子
今　野　洋　美
瀬　戸　実枝子
藤　田　亜貴子
会　場　一　幸
小　西　ゆり子
遠　山　成　子
藤　谷　淳　一
熊　谷　道　大
後　藤　ゆり子
青　木　真知子
佐々木　詠　吏
内　藤　聖　子（研究部）
守　屋　　美（研究部）
大　沼　美和子
水　田　勝　久
鈴　木　里　美
小　椋　トモ子
鈴　木　　徹
安　達　由美子
菅　原　美奈子

（高等部）

髙　橋　和　恵
佐　藤　　恵
朝　倉　知　司
籠　山　　誠
鈴　木　朋　子
池　部　和　美
高　橋　静　香
近　　亜希子
柴　田　　豪
菊　池　牧　子
鈴　木　　顕（研究部）
佐々木　　祐
岩　澤　有希子
櫻　田　菜　保
藤　平　裕　太
工　藤　　彩（研究部）
菅　原　美　智
菅　生　真由子
小　玉　奈　月
佐々木　慶　明
佐々木　　修
阿　部　隆　文
中　川　浩　孝
古　関　綾　子
赤　坂　千　春
妻　野　聖　花（研究部）
須　田　　裕
髙　橋　美　裕
松　岡　　一

発行年月日　　令和３年３月１９日
発　行　所　　秋田県立横手支援学校
〒013-0064　　横手市赤坂字仁坂 105 番地 1
TEL　0182-33-4166　FAX 0182-33-4266（小・中学部）
TEL　0182-33-4167　FAX 0182-33-4277（高等部）
Email:yokote-s@akita-pref.ed.jp
http://www.yokote-s.akita-pref.ed.jp